

区支え合いのまち推進計画の  
令和元年度の推進状況  
～地域の取組み（共助の取組み）～

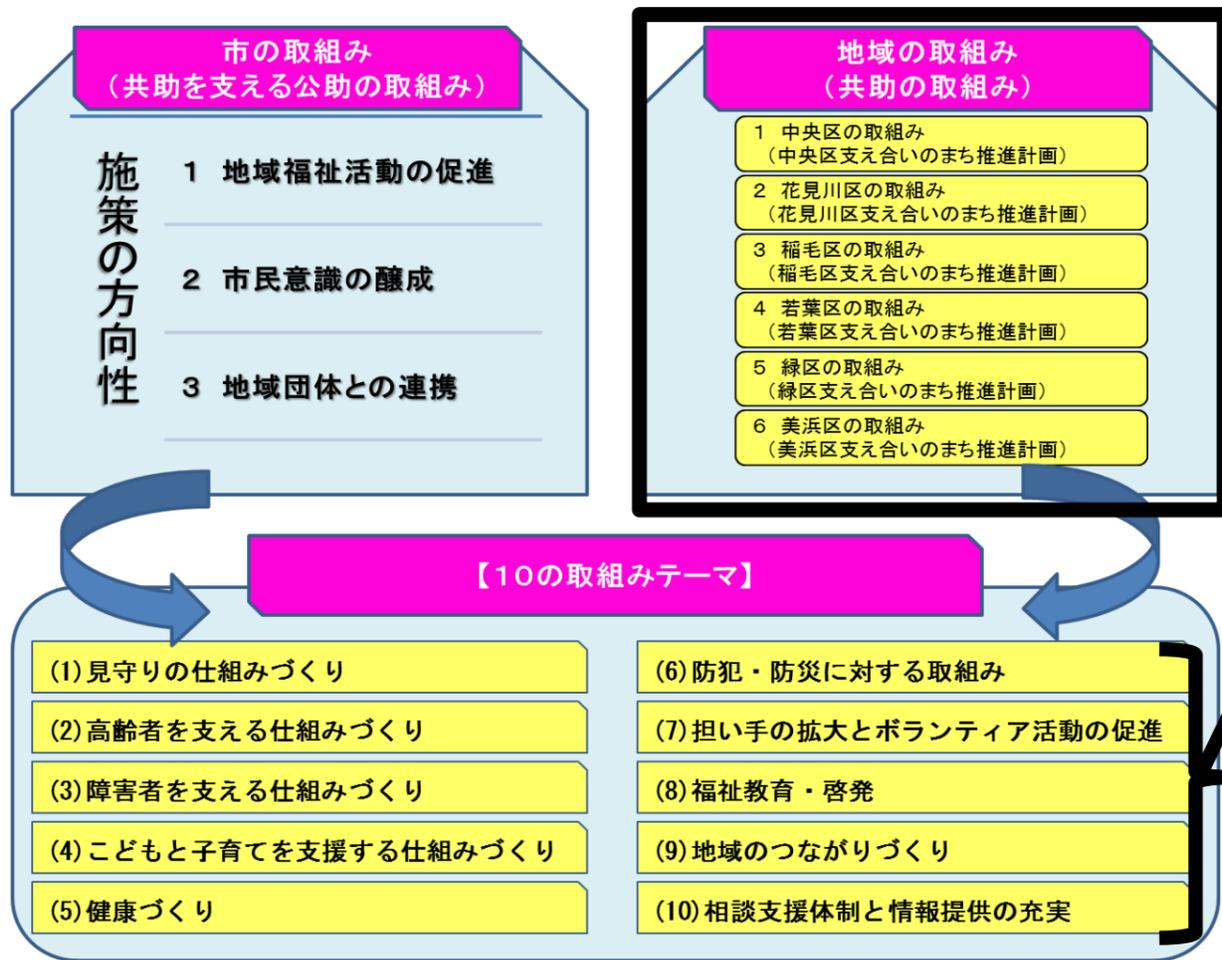
千葉市保健福祉局健康福祉部地域福祉課

# ～この資料の見方について～

本計画では、地域福祉を推進する活動主体により、取組みの体系を「地域の取組み(共助の取組み)」と、「市の取組み(公助の取組み)」に区分しています。地域住民等が主体となって実施した「地域の取組み(共助の取組み)」は、「第4期支え合いのまち千葉 推進計画」第5章(P46～)に掲載しており、「区支え合いのまち推進計画(区計画)」として位置づけられています。

本資料は、区ごとに各地区部会エリアの重点取組項目を、10の「取組みテーマ」に分類し、令和元年度の「実績」、「達成状況」を集計、記載しています。また、各地域の参考となるよう、各区で実践された事例も紹介しています。

## 施策の体系図



## 進捗状況の総括

◆取組みテーマ別達成状況				
取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況		主な取組内容
		S	A	
1 見守りの仕組みづくり	12	S	1	見守り活動は、重点取組地区12地区のうち、8地区で実施(中央区全体としては13地区で実施)。また、1地区では見守り活動を啓発する取り組みを行い、1地区では見守り活動の必要性について住民アンケートの実施を検討した。なお、2地区では民生委員が見守りを行っているが、見守り体制づくりについて検討した。
		A	8	
		B	3	
		C	0	
2 高齢者を支える仕組みづくり	18	S	2	いきいきサロンは、重点取組地区9地区で延466回(実施地区14地区で延672回)実施した。また、散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
		A	16	
		B	0	
		C	0	

各地区部会エリアの取組み項目について、達成状況を記載しています。  
【達成状況の目安】  
S: 目標を上回った  
A: 概ね目標を達成した(8～10割)  
B: 一部目標を達成した(5～7割)  
C: 大きく目標を下回った(～4割)

各地区部会エリアの重点取組項目数の合計。(複数テーマにまたがる重点取組項目の場合は、複数回カウントしています。)

## 進捗状況の詳細

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の取組
都地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,317人、4,724世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 24.9% 【地域の特徴】 ○都府、都府1～8丁目を対象としたエリア、千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曽利地区部会が、中央区の都府と若葉区の加曽利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。 また、実施が遅れている町内自治会へも推進を促す。	既に実施している2町内自治会の内、1町内自治会で対象者の再調査と協力の再募集を行い、見守り体制の強化を図った。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯・防犯・防犯活動を行っている。 また、平成30年10月より、1町内自治会が、民生委員、社協及び社会福祉法人と協働して、独居高齢者を対象に実施している買い物支援の実施回数を月2回から月4回に拡充した。この取り組みは見守り活動の一環となっている。 なお、地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけも、継続して実施している。	A	活動拠点がな 担い手が不足
		2	いきいきサロンクラブとして平成25年7月から始めている。通数月は健康講座や健康体操、手芸等、奇数月は、グランドゴルフを継続して実施し、定期的な活動を通して、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、60歳以上の高齢者を対象に、健康体操やグランドゴルフ、手芸等を内容とした、いきいきサロンを実施し、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりに取り組んだ。 また、地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を訪問し、千葉市指定ゴミ袋を配布する最終期間の際、いきいきサロンの案内を併せて配布し、参加者の増加に努めている。	A	安定した事業: 点や担い手の

地区部会エリアの概要

区が定める取組みテーマ番号

市が定める取組みテーマ番号

# 目次

1. 中央区 … 1ページ
2. 花見川区 … 17ページ
3. 稲毛区 … 23ページ
4. 若葉区 … 33ページ
5. 緑区 … 43ページ
6. 美浜区 … 49ページ

# 中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

## ◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	12	S 1	・見守り活動は、重点取組地区12地区のうち、8地区で実施(中央区全体としては13地区で実施)。また、1地区では見守り活動を啓発する取り組みを行い、1地区では見守り活動の必要性について住民アンケートの実施を検討した。なお、2地区では民生委員が見守りを行っているが、見守り体制づくりについて検討した。
		A 8	
		B 3	
		C 0	
2 高齢者を支える仕組みづくり	18	S 2	・いきいきサロンは、重点取組地区9地区で延466回(実施地区14地区で延672回)実施した。また、散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
		A 16	
		B 0	
		C 0	
3 障害者を支える仕組みづくり	4	S 0	・地域行事での障がい者施設の物品販売への協力、障がい者施設での作業補助や行事の手伝い、障がい者理解のための勉強会の実施等、障がい者の理解や住民との交流の機会を設ける取り組みは、重点取組地区4地区(実施地区16地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施した。
		A 4	
		B 0	
		C 0	
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	15	S 1	・セーフティウォッチャー等、子ども達の安全を見守る取組は重点取組地区6地区(実施地区17地区)で実施。また、子ども向けの地域行事や放課後子ども教室等、子ども達との交流を図る取組は重点取組地区2地区(実施地区17地区)で実施。子育てサロンは重点取組地区7地区で延べ141回(実施地区16地区で延べ243回)実施し、子ども達の健全育成を図った。
		A 14	
		B 0	
		C 0	
5 健康づくり	8	S 1	・散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
		A 7	
		B 0	
		C 0	
6 防犯・防災に対する取組み	27	S 0	・避難所運営委員会は重点8地区(実施17地区)で実施。子ども達の安全を見守る取組は重点6地区(実施17地区)で実施。3期計画当初に作成した「ふくし・防災ガイドマップ」により重点2地区(実施17地区)で情報提供を行っている。防犯の取組は重点5地区(実施17地区)で実施。防災訓練は重点6地区(実施17地区)で実施した。
		A 22	
		B 5	
		C 0	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	7	S 0	・高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動については、重点取組地区3地区(実施地区8地区)で実施した。また、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への参加促進を図る講座等については、重点取組地区4地区(実施地区15地区)で実施し、担い手の拡大に努めた。
		A 7	
		B 0	
		C 0	
8 福祉教育・啓発	12	S 0	・子ども向けの地域行事等を通じて交流を図る取組は重点2地区(実施17地区)で実施した。障がい者と住民との交流の機会を設ける取り組みは重点3地区(実施16地区)で実施した。住民の福祉力向上のための講座は重点4地区(実施15地区)で実施した。児童に対する福祉教育は重点3地区(実施16地区)で実施した。
		A 12	
		B 0	
		C 0	
9 地域のつながりづくり	14	S 0	・重点7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した。(区内の地域運営委員会は5地区)。高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動は、重点3地区(実施8地区)で取り組んだ。地域行事等を通じて住民同士の交流を図る取り組みは重点4地区(実施17地区)で実施した。
		A 13	
		B 1	
		C 0	
10 相談支援体制と情報提供の充実	12	S 0	・重点7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した(区内の地域運営委員会は5地区)。重点3地区で相談支援の環境づくりに取り組んだ。重点2地区を含む全地区部会で広報紙を発行し福祉情報の提供を行った。
		A 11	
		B 1	
		C 0	
今年度の振り返り	129	S 5	・目標に対する達成状況について、(A)以上の割合が8割を超えているため、概ね順調に推進することができた。
		A 114	
		B 10	
		C 0	

今後の課題と方針	・安定した事業運営のため、担い手の確保、町内自治会(役員の交代)・関係団体との連携、活動拠点、活動資金の確保が必要である。
----------	---

## ◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日		主な議題等
令和元年度	第1回 令和元年 7月12日(金)	・幹事会委員の選出について ・「中央区支え合いのまち推進計画」の平成30年度進捗状況について ・生活支援コーディネーターの平成30年度の活動実績について
	第2回 令和2年 3月17日(火) 【中止】 ※書面開催	・地区部会エリアにおける取組状況及び年度評価について ・「区の地域福祉に関する好事例等」の選出について ・支え合いのまち千葉推進計画(第5期千葉市地域福祉計画)の策定について

## ◆区の地域福祉に関する好事例等

### (3) 新たな社会資源の創出に向けた取組み

社会福祉協議会生浜地区部会では、介護保険制度の改正に伴い、予防給付のうち訪問介護・通所介護について、千葉市が地域の実情に応じた取組みができる地域支援事業へ移行する情勢を踏まえ、地域で高齢者を支える取り組みを検討するため、平成28年度から30年度の3年間にわたり、中央区地域活性化支援事業を活用し、事業名「みんなで支え合う町づくり生浜」として、住民同士が支え合う仕組みづくりに取り組んだ。

#### <平成28年度の取組>

介護保険制度についての理解促進や今後地域で求められる活動について、あんしんケアセンター浜野の協力を得て住民に対する勉強会を開催した。

#### <平成29年度の取組>

民生委員の協力を得て、高齢者の実態調査の際、「高齢者困りごとアンケート調査」を実施した。調査の結果、日中ひとりになる高齢者も多く「仲間づくりの場が近くに欲しい」、「今後の健康や介護が不安」との声が多かったことから高齢者の健康増進や仲間づくりのための居場所づくりを推進することにした。

そこで、高齢者の集いの場の運営スタッフを育成するため、中央区健康課協力を得て、「ヘルスサポーター養成講座」を開催した(参加者27人)。

#### <平成30年度の取組>

高齢者の健康増進や仲間づくりのための集いの場として、健康体操や脳トレを取り入れたサロンを3か所で開始した。令和元年度も継続して取り組んでいる。

・村田町(週1回開催) 平均参加者40人

・生実町(週1回開催) 平均参加者25人

・南生実町(月2回開催) 平均参加者20人

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>都地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 9,317人、4,724世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 24.9% 【地域の特徴】 ○都町、都町1~8丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曽利地区部会が、中央区の都町と若葉区の加曽利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。 また、実施が遅れている町内自治会へも推進を促す。	既に実施している2町内自治会の内、1町内自治会で対象者の再調査と協力員の再募集を行い、見守り体制の強化を図った。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯パトロールを行っており、見守りに類似した活動を行っている。 また、平成30年10月より、1町内自治会が、民生委員、社協及び社会福祉法人と協働して、独居高齢者を対象に実施している買い物支援の実施回数を月2回から月4回に拡充した。この取り組みは見守り活動の一環となっている。 なお、地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけも、継続して実施している。	A	活動拠点が無い。 担い手が不足している。
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	いきいきサロン都クラブとして平成25年7月から始めている。遇数月は健康麻雀や健康体操、手芸等、奇数月は、グランドゴルフを継続して実施し、定期的な活動を通して、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、60歳以上の高齢者を対象に、健康体操やグランドゴルフ、手芸等を内容とした、いきいきサロンを実施し、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりに取り組んだ。 また、地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を訪問し、千葉市指定ゴミ袋を配布する歳末慰問の際、いきいきサロンの案内を併せて配布し、参加者の増加に努めている。	A	安定した事業運営のための活動拠点や担い手の確保が必要である。
	⑨ 子育てサロンの充実	4	月に1度、育児サークルとして「いちごみるく」を開催し、乳幼児から就学前の子どもを持つ母親の情報交換の場を提供し、子育て親子の仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や保健師による育児相談、絵本読み聞かせ等、内容の充実を図り、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	
	⑬ 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	3	障がい者施設での作業補助等を通じて、障がい者との交流を図る。 また、障がい者が地域で福祉活動を行う機会を提供し、障がい者の社会参加の促進を図る。	町内自治会婦人部が、障害者支援施設「しいのみ園」を利用して子ども達と一緒に、第一土曜日の午前中に、公園の清掃を行っている。 また、スポーツ振興会が障害者支援施設「しいのみ園」でポッチャを通じて交流を図った。	A	
<b>末広地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 12,875人、6,962世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 20.8% 【地域の特徴】 ○長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。 また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。 また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉の森公園が存在しており、それらに伴う道路網の整備のため、最近では、末広街道・大網街道とも交通量が増加している。	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	災害時に、迅速な避難が行えるようにするため、地域の各団体と協議し、避難所運営委員会の設立を進める。 また、民生委員と町内自治会が連携し、災害時要支援者の情報共有を図る。	災害時に迅速な避難が行えるようにするため、平成30年度に設立された末広中学校、末広公民館の避難所運営委員会では、避難所開設訓練の実施に向け協議し、令和2年度の訓練実施を予定している。 なお、既に設立されていた避難所運営委員会では、避難所開設訓練を実施している。 また、民生委員と町内自治会に、災害時要支援者の把握と情報共有を図った。	B	役員やスタッフが高齢となっているため、若い世代の確保が必要である。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>寒川地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 5,605人、3,130世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 22.7% 【地域の特徴】 ○港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の中間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的進行しやすい環境の地域である。	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	災害発生時に備え、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練や、災害時要支援者の避難訓練を実施し、避難支援体制のさらなる充実を図る。	災害時要支援者の避難支援体制を構築するため、地区部会が、町内自治会の協力を得て、災害時要支援者の近隣の方に支援者(避難を手伝う協力者)として登録いただき、作成した「災害時要支援者及び支援者名簿」を更新した。 また、災害発生時に備え、8月31日に、地区部会が、災害時要支援者の避難訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練を実施し、災害時要支援者の避難支援体制のさらなる充実を図った。	A	役員やスタッフが高齢となっているため、若い世代の確保が必要である。
<b>ちば中央地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 16,180人、9,147世帯 【町内自治会数】 27町内自治会 【高齢化率】 24.0% 【地域の特徴】 ○中央、市場町、長洲の一部、本町、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、玄鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。 千葉市の歴史、文化、経済の中核的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会と民生委員が協力しながら、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を実施する。	民生委員・福祉活動推進員及び町内自治会の協力をいただきながら、個別対応ではあるが見守り活動を継続して実施している。	A	役員やスタッフが高齢となっているため、若い世代の確保が必要である。
④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	第3地区町内自治会連絡協議会が、災害時を想定した防災訓練を年1回実施する。 また、避難所運営委員会と連携し、災害時に支援を必要とする人の避難支援について協議していく。	3か所の避難所運営委員会で、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練、ハイゼックス体験、マンホールトイレ体験等を内容とした防災訓練を実施し、防災意識の向上に取り組んだ。 避難所運営委員会が活動を開始しており、地区部会として、その活動を注視し、どのような部分で連携協力が出来るのかを協議していく。	B		
⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地域の高齢者増加に伴い、あんしんケアセンターと連携を強化し、民生委員、町内自治会が個別の相談に応じ、高齢者が地域で安心して生活できるよう活動する。 また、地区部会が各団体の抱える課題を共有する場を提供し、地域で安心して生活できるような環境作りを努める。	葛城町内会では、町内会、民生委員、あんしんケアセンター千葉寺が参加し、地域課題を話し合うとともに支え合い活動の勉強会を実施した。 また、地区部会では、住民が気軽に参加できる集いの場を提供する具体的な取り組みとして、あんしんケアセンター中央、プラチナホーム都の杜なのはなと協議を重ね、近隣住民が参加できる認知症カフェをモデル的に2回実施した。	A		
⑰ 地域での福祉教育の推進	8	地域の福祉活動に児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を増やす。	敬老会に小学校、中学校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボランティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図った。 また、交通安全教室・租税教室等の開催に併せて高齢者等への接し方など福祉のこころにつながる講話を実施した。	A		
<b>中央東地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 13,772人、8,470世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 25.3%	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会が、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みを行うためのネットワークをつくるため、あんしんケアセンター新千葉と地域ケア会議を年2回開催した。	A	担い手不足。役員が高齢化している。若い人の参加が少ない。
③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等が地域で安心して暮らせるよう、日常的な目配りや訪問による安否確認などの見守り活動を継続する。	ひとり暮らし高齢者等が地域で安心して暮らせるよう、平成27年7月から開始した見守り活動を本年度も継続して実施し、見守りを希望する方に対し、目配りや訪問による安否確認を行った。また、各町内自治会単位の報告会、各町内自治会のリーダーが集まる報告会を年4回実施し、情報の共有化を図った。さらに、見守り希望者及び見守り協力員を募集するため、全町内自治会で案内を回覧した。	A	安定した事業運営のため、新たな担い手を確保していく必要がある。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>中央東地区部会エリア</b> 【地域の特徴】 ○祐光、椿森、道場北、院内、要町を対象としたエリア。 千葉都市モノレール千葉公園駅の東側に位置し、古くからの一戸建て住宅が多い。また、地域内には千葉医療センター(旧:国立千葉病院)がある。	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会等では、散歩クラブ、ラジオ体操の会などの活動を通じて、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図る。 また、ふれあいいきいきサロンやボランティア講座の中に、高齢者の健康面に関わるテーマを取り入れ、高齢者の交流の機会を増やす。	地区部会では、いきいきサロンの中で、あんしんケアセンターの介護予防講座や中央区健康課の生活習慣病講座、シニアリーダー体操を実施した。 また、散歩クラブを年1回実施して千葉公園でのウォーキングや体操を行うとともに、シニアリーダー体操を年2回実施し、高齢者の健康維持を図った。 一部の町内自治会では、シニアリーダー体操やラジオ体操を実施した。 各町内自治会の老人クラブでは、グランドゴルフが盛んに行われている。	A	
	⑨ 子育てサロンの充実	4	子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、地区部会が子育てサロンを年6回実施する。	地区部会が子育て中の親子を対象に、親子とスタッフの交流や紙芝居等を内容とした子育てサロンを年6回実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。いずれの回も保健師や看護師、歯科衛生士を迎え、講習を受けられるようにし、内容の充実を図った。	A	
<b>東千葉地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 4,169人、2,089世帯 【町内自治会数】 7町内自治会 【高齢化率】 36.3% 【地域の特徴】 ○東千葉を対象としたエリア。 旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた住人が共存している。	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9	地区部会が実施している「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)の活動を統合し、高齢者等のちょっとした困りごとの支援活動を充実させる。 また、対応できないケースに備え、地区内外の支援サービスを取りまとめた「東千葉便利帳」を作成し、利用者に紹介できる体制を整える。	地区部会が高齢者等のちょっとした困りごとを支援する「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いのグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)を統合し、新たに「ハッピーボランティア東千葉」として支え合い活動に取り組んでいる。 また、対応できないケースについては、コーディネーターが専門機関等を紹介できるよう他の支援サービスの一覧を作成している。	A	
	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、高齢者等、支援を必要としている方の近所にお住いの方に協力を依頼し、日常的な見守りが行える関係の構築を目指す。 また、認知症の知識を地域に広め、住民同士が、お互いを気にかけて、声をかけ合えるような地域を目指し、学習会等を実施する。	地区部会が、高齢者等、支援が必要な方(6世帯)を対象に、日常的な目配りによる見守り活動に取り組むとともに、住民同士が知り合える機会の提供に努めた。 また、地区部会が、「安心カード」を作成し、民生委員の協力を得て、75歳以上の高齢者に配布している。なお、一部の町内自治会では、希望者にも配布している。 さらに、住民同士が気軽に声をかけ合い、認知症の方が安心して暮らせる地域を目指し、「地域の見守り・声かけ体験会」を実施した。	A	担い手の高齢化が進んでいる。運営スタッフとして協力してくれる人が見つからない。 安定した事業運営のため担い手の確保が必要である。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を年1回実施する。 また、日常的な見守りの協力員が、災害時に要支援者の避難支援を行う体制の構築を目指す。	地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を計画。雨天中止となったが、台風の際には民生委員や町内自治会が被害状況の確認を行った。 また、地域の中で防災に関心の高い方々に組織した「防災サポートの会」との協力体制の構築を図っている。	A	
<b>西千葉地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 12,820人、6,853世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 18.6% 【地域の特徴】 ○登戸、春日、汐見丘町、新千葉の一部を対象としたエリア。 地区内に京成の新千葉駅及び西登戸駅、JRの西千葉駅がある。 隣接する地域に千葉大学、千葉東高校、千葉商業高校等、複数の教育施設がある文教地域。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	6町内自治会すべてにおいて、65歳以上の高齢者や障がい者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。なお、見守り希望者の更新は毎年行っている。	A	
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを毎年更新し、町内自治会と情報を共有するとともに、災害時には日常的な見守り活動を行っている協力員が避難支援を行う体制を維持継続する。 6町内自治会すべてにおいて防災訓練を年1回実施するとともに、3年に1回、登戸小学校避難所運営委員会の訓練を実施する。	民生委員が中心になって、民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは毎年更新している。災害時には日常的な見守り活動を行っている協力員が避難支援を行う体制をとっている。 避難所運営委員会が、年1回会議を開催するとともに、備蓄品の確認を行うとともに、地区内の6町内自治会すべてで防災訓練を年1回実施した。	A	担い手不足。(町内自治会役員や民生委員等、次の人が見つからない。) 安定した事業運営のため担い手の確保が必要である。
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会や町内自治会、社体等地域の各団体が、グランドゴルフや脳トレ、健康体操を実施し、中高年の健康維持、増進を図る。	地区部会では、介護予防教室を年2回開催した。 6町内自治会中、5町内自治会において老人クラブは組織されており、各老人クラブが「グランドゴルフ大会」を開催した。 スポーツ振興会では、「ウォーキング」を定期的実施するとともに、「バレーボール大会」や「ミニ運動会」を開催した。 シニアリーダーが、特別養護老人ホーム新千葉一倫荘を会場に、月2回、シニアリーダー体操を行った。 登戸ラジオ体操会が、毎日、登渡神社で、ラジオ体操を行った。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
西千葉地区部会エリア	⑪ 世代間交流の場の提供	9	町内自治会等が、誰もが参加できる地域行事を開催し、世代間交流を図る。	地区部会では、福祉バザーを開催した。 特別養護老人ホーム新千葉一輪荘では、年数回「地域交流会」を開催しており、地域の子どもたちが参加している。 町内自治会では、「花見」「盆踊り」「登渡神社まつり」「節分祭」など各種イベントを開催するとともに、町内自治会主体で「ごみゼロの日」に実施している各公園の清掃活動には、大人も子どもも参加しており、交流の機会となっている。 町内自治会サークルが一同に会して「発表会(文化祭)」を開催しており、地域での交流の場となった。	A	
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が、地域住民を対象に、既に活動している人の資質向上や新たな担い手の発掘のため、福祉講座を実施する。	地区部会が、「介護予防教室」を年2回、「防災教室」を年1回、障がい者の理解を図る研修会を年1回開催した。 各町内自治会でも、老人クラブと協力して、認知症や口腔ケア等の福祉講座を開催した。	A	
	⑲ 防災体制の充実	6	地区部会では、事業計画に基づく防災講座を通じて、住民の防災に対する意識の高揚を図る。 また、各町内自治会では、防災講座や防災訓練を年1回実施する。 さらに、日赤奉仕団が、災害時や平常時における健康生活支援講座を年2回以上実施する。	地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会が、年1回、安否確認、避難訓練、初期消火・応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車・煙体験などの訓練や防災講座を実施しており、赤十字奉仕団と協力している。防災訓練には子ども達も参加している。	A	
中央地区部会エリア	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	子ども達の安全を守るため、地区部会が中心となり、関係団体や学校と連携し、子供たちが怖い目に遭った時に安心して駆け込めるよう「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施する。 地区部会が、弁天小学校の全学年を対象に毎朝の登校時あらかじめ決めた集合場所から校門まで送り、さらに1~2年生を対象に毎週金曜日の下校時に校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施する。	地区部会では、子ども達の安全を守るため、弁天小学校1年生を対象に「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施した。地区部会・子供会・PTA・青少年育成委員会の役員や教頭、担任(延べ24人)が、弁天小学校の1年生27人を、4日間に分け引率し、通学路付近の「こども110番のいえ」20軒の訪問・挨拶を行い、子ども達と110番のいえの方が顔見知りになるよう取り組んだ。 さらに、弁天北部方面の児童を対象に、弁天小学校への毎朝の集団登校に付き添うとともに、弁天小学校の1~2年生を対象に、毎週金曜日の下校時、校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施した。 また、児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞、歌や踊りを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた(参加者314人)。 さらに、弁天小学校の「わくわくキャンパス」(毎週木曜日、15:00~16:00)に地区部会も協力しており、ソフトボール、バスケット、マツト遊び等、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを行った。(年間25回程度) 地域住民が、セーフティウォッチャーに協力し児童の安全を見守った。	A	担い手の中には就労している人も多い。単発の行事には協力してくれるが、サロン等の定期的な活動への協力者の確保が難しい。
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年13回、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。	地区部会(高齢者福祉委員会)が、いきいきサロンを3会場で、延べ13回実施した。中央区健康課の介護予防体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話等を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組んだ。	A	安定した事業運営のための担い手の確保が必要である。
	⑱ 防犯対策の推進	6	地区部会が、子ども達の安全を守るため、児童向けの安全教室を年1回実施する。 また、各町内自治会で防犯パトロールを実施し、防犯に対する意識の向上を図る。	地区部会では、弁天小学校の1年生とその保護者を対象に、NP〇法人体験型安全教育支援機構を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を実施し、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。 町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施した。	A	
	⑲ 防災体制の充実	6	各町内自治会で、防災マップを作成するとともに、防災訓練や、千葉公園の池に設置されている防水ゲートの開閉訓練を、年1回実施する。	弁天町会では、千葉公園の綿打池が過去の大雨で氾濫した経験を踏まえ、防水ゲートの開閉訓練を年1回実施した。近隣のコンビニエンスストアに排水ゲートの鍵の保管協力を得て、氾濫時の対応にあたっている。また、市の協力により洪水警報サイレン等を設置している。 また、町内自治会ごとに防災訓練を実施した。 弁天小学校の避難所運営委員会では、避難所の円滑な運営を図るため、避難所運営マニュアルを作成した。	B	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
新宿地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,566人、6,928世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 16.6% 【地域の特徴】 ○新宿、神明町、新田町、出洲港を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域がある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、町内自治会や民生委員と連携し、日常的な目配りや声かけによる見守りが行える地域となるよう、向こう三軒両隣の緊密な人間関係の構築に努める。	民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。また、マンションについては管理人に見守りをお願いしている。 町内自治会や老人会では、諸行事を通じて顔見知りになる機会を設け、緊密な人間関係の構築に努めている。 地区部会では、安心ファイルを作成し、70歳以上の高齢者に配布している。また、見守り活動や支え合い活動に対する住民の意識を把握するため、あんしんケアセンターと連携し「地域のたすけあい活動に関するアンケート」を2町内自治会で実施した。見守り活動に協力いただける方に、セーフティウォッチャーや近所のさりげない見守り活動に協力いただいている。	B	地域団体の基盤となる町内自治会役員の手が足りない。マンションが増えているが町内自治会に加入する人が少ない。地域行事の担い手が不足している。 安定した事業運営のための担い手や継続した活動資金の確保が必要である。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	町内自治会役員や民生委員が中心となり、日頃から、ひとり暮らし高齢者等とコミュニケーションを図り、災害時には、地区部会が配布している「安心ファイル」を有効活用し、要支援者の支援を行う。	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、月1回会合を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、100人強が参加した。	B	
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	各町内自治会の子ども会と連携し、地域行事に子ども達が積極的に参加するよう促す。 また、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿保育所の「にこにこルーム」のボランティアに積極的に参加するとともに、地区部会による子育て支援セミナーを開催する。	町内自治会や子ども会では、餅つき、お祭り、お花見、盆踊り、新年会、敬老会の余興など、地域の行事に子どもたちが参加し、住民と交流している。 地区部会では、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿公民館で「ベビーマッサージ」を年2回開催し、子育て中の親の育児相談を行うとともに、新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 地域住民が、新宿小学校の「放課後子ども教室」や1年生を対象に年1回実施している「昔遊び等の体験活動」に参加し協力している。また、「こども110番のいえ」に協力するとともに、セーフティウォッチャーとして学校に30名登録して登下校時の子ども達の安全を見守った。	A	
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、「ふれあい・いきいきサロン」の実施に向け検討する。 また、高齢者が交流する機会を提供するため、地区部会エリアの高齢者を対象とした行事を検討する。	地区部会では、高齢者の仲間づくりの場を提供するため「ふれあい・いきいきサロン」を年2回実施した。 町内自治会や老人クラブでは、誕生会、グラウンドゴルフ、カラオケ等を実施し、月1回程度は高齢者が交流する機会を設けている。	A	
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	高齢者の健康増進を図るため、地区部会が「歩こう会」を年2回実施するとともに、健康関連のセミナーを年1回開催する。 また、社協と連携しグラウンドゴルフ大会を年2回開催する。	地区部会では、高齢者の健康増進を図るため「歩こう会」を年2回実施するとともに、高齢者を対象に認知症をテーマにした健康セミナーを年1回開催した。 スポーツ振興会では、グラウンドゴルフ大会を年2回開催した。 新宿公民館では、週1回、シニアリーダー体操が行われている。	A	
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	民生委員が、千葉県聴覚障害協会の就労継続支援施設「らいおん工房」を月1回訪問し、作業補助等の活動を通じて、障がい者の理解と交流を促進する。	地区部会の障がい者福祉委員会が、千葉県聴覚障害協会の就労継続支援施設「らいおん工房」で、月1回、手作り販売品の作成等を手伝うボランティア活動を行い、障がい者との交流を図った。	A	
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	住民の福祉力の向上を図るため、あんしんケアセンター等と連携し、福祉に関する研修会を年1回開催する。	地区部会が、中央区健康課と連携し、住民の福祉力向上を図るため、「認知症について」の講演会を年1回実施した。	A	
	⑱ 防犯対策の推進	6	地域の防犯意識の向上を図るため、各町内自治会が、月2回、防犯パトロールを実施する。 また、防犯関連のセミナーの開催を検討する。	町内自治会では、月2回、防犯パトロールを実施するとともに、年2回、地域交番(京成交番)と地域の犯罪傾向等について情報交換会を開催し、地域の防犯意識の向上に取り組んだ。	A	
	⑲ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	避難所運営委員会の設立に向けた「避難所準備委員会」の開設に伴い、防災意識の向上を図るため、防災関係の知識の習得に努める。 また、避難所運営委員会の設立の進捗状況によるが、避難所ごとに避難訓練の実施を検討する。	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、月1回会合を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、100人強が参加した。	B	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針							
蘇我地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会では、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所と協働し、地域における福祉課題を共有し、課題解決に向けて継続的に各種団体・機関との連携・協働を図るため、18団体が参加する「地域ケア会議」を年2回開催した。 また、コミュニティ懇談会【地域運営委員会】(年4回)や青少年育成委員会連絡会(年6回)に参加し、地域課題について情報交換を行うとともに、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。 さらに、介護付有料老人ホーム「そんぼの家 蘇我」と地域が連携した取組について協議した結果、施設を利用した高齢者の集いの場を2回開催することができた。 あんしんケアセンター松ヶ丘の多職種連携会議で、関係団体との連携について協議した。	A	自由に利用できる活動拠点が欲しい。特に子どもが自由に出入りできるような場所があれば、そこを拠点に地域住民の交流が図りやすいと考える。  安定した事業運営のためには活動拠点が必要である。							
【人口・世帯数】 18,627人、9,515世帯				③ 見守り体制をつくる	1		地区部会が配布している「冷蔵庫保管用安心カード」の更新のお知らせを全戸配布する。町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者には、民生委員が安心カードを配布する。 また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「認知症徘徊声かけ訓練」を実施する。	地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて、町内自治会加入の全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」については、記載内容の見直しを行い、町内自治会を通じて配布した。また、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者については、民生委員の協力を得て5月の「高齢者実態調査」の際に配布する。 また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「地域見守り活動～オレンジフェスティバル～」を実施した。	A				
【町内自治会数】 8町内自治会							⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	子ども達の安全を守るため、地域住民がセーフティウォッチャーに協力する。 また、小学校や保育園の「昔遊び」に地区部会が協力し、児童の健全育成を図るとともに、地区子ども会と連携し、行事等を通じて地域住民との交流を促進する。	子ども達の安全を守るため、「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。 また、不審者対応として、青色回転灯装着車によるパトロールも計画どおり実施するとともに、パトロール活動への支援として、若干のガソリン代の支給やドライブレコーダーの貸与等も実施できた。 地区部会では、蘇我小学校から依頼を受け、年1回の「昔あそび」のゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、蘇我小学校で全学年を対象に月2回実施している「わくわくキャンパス」には、内容に応じて参加・協力している。 また、「ローゼンそが保育園」の昔あそびのゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、新たに認可保育園「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして役員が協力した。 さらに、地区の子ども会行事の際には地区部会が協力し、高齢者が昔遊びの指導等に協働参画するようにしている。 主任児童委員が中心となり、蘇我小学校に週1回出向き、「本の読み聞かせ」を全学年対象に実施している。	A		
【高齢化率】 15.9%									⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、いきいきサロンを4会場で年16回実施する。 また、中央保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持を図るなど、内容の充実を図る。	地区部会が、いきいきサロンを4会場で年16回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。 また、中央保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持を図るなど、内容の充実に努めた。	A
【地域の特徴】 ○蘇我、今井、若草、南町を対象としたエリア。JR蘇我駅周辺の地区で、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやサッカー場ができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。											⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会が、「ふれあい・いきいきサロン」や「ふれあい・散歩クラブ」を定期的に開催するとともに、高齢者向けの健康講座を年1回開催し、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図る。 また、スポーツ振興会や老人クラブが行っているスポーツ活動に、地区部会として協力する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針			
蘇我地区部会エリア	⑫ 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	2	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施する。	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施した。なお、今後の支援内容について検討している。	A				
	⑩ 防犯対策の推進	6	民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンにおいて「振込詐欺の対応や防止策」についての講座を開催し、防犯意識の向上を図る。 また、育成委員会において、週割して行っている青色パトロールを、各町内自治会と連携し、継続して実施するとともに、各町内自治会が定期的に防犯パトロールを実施し、地域防犯力の向上を図る。	民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンでは、「振込詐欺の対応や防止策」について講座を開催した。 育成委員会では、青色パトロールを各町内自治会で週割し、実施した。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 移動交番が、蘇我コミュニティセンターや東武ストア蘇我店に開設されている。 昨年度、蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載し、活用する予定である。 地域住民が「こども110番の家」に協力している。 PTAが学校の長期休暇に合わせ、防犯パトロールを兼ねて実施している地区内一斉点検に地区部会が協力した。	A				
白旗台地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	平成28年6月に発足した「地域運営委員会」において、関係団体と連携し、地域課題の解決に取り組むとともに、福祉課題に取り組みやすくするため、地区部会補助金の統合補助金化等を行政に働きかける。 また、地域ケア会議を本来の困っている方をケアする会議にするよう働きかけるとともに、地域で具体例作りに努める。	地域運営委員会機能を持つコミュニティづくり懇談会で、以下の地域課題に取り組んだ。 (1)9都府県市合同防災訓練の影響で、本年は8月25日、9月1日、9月8日に分かれて、7か所すべての避難所で安否確認訓練、避難支援訓練、避難所立ち上げ・運営訓練等を実施した。避難所ごとに工夫を凝らして実施できた。 (2)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、本年度も計画どおり実施できた。不審者の出没抑制では目標の5件/年は達成できず8件/年となってしまったが、中央区全体のレベルの半分程度に抑え込めた。 (3)避難所備蓄品の充実については、本年度はエアーマットを7か所すべての避難所に2個配布できた。 地区部会の補助金の統合補助金化については、合併問題等で実質的に進展しなかった。課題も多く行政の担当部課の腰が引けており苦戦している。 地域ケア会議については、あんしんケアセンター松ヶ丘の多職種連携会議で例題に取り上げ、多方面から検討した。今後こうした地域ケア会議開催の弾みをつけることができたと思う。	A	担い手が高齢化しており、若い世代、次の世代の担い手を確保する必要がある。  町内自治会長が交替により、取組みが後退しないようにするための仕組みづくりが必要である。			
【人口・世帯数】 25,300人、12,590世帯				② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9		地区部会が、社協区事務所と協働し、地域支えあい活動を推進する。 また、支えあい活動のボランティアの募集を定期的に行って増員を図り、ボランティアの研修会を実施するとともに、地域支えあい活動の活性化のための研修会を開催する。	昨年度からスタートした支えあい活動は、期待値には達していないものの、支援希望者も増加しており、もう一歩で軌道に乗るところまで来た。 ボランティア募集については地区部会だよりで町内自治会を通じて周知を図った。また、研修会は予定どおり実施できた。	A
【町内自治会数】 41町内自治会				③ 見守り体制をつくる	1		現在、実施している見守り活動は高い水準で行えていると思うが、町内自治会長の変更等により取り組み状況に差が生じないよう、勉強会等を開き、活動の底上げを図る。 また、見守り希望者、見守り協力者については、毎年の更新が必要となるため、更新の実施に向けて各町内自治会に働きかける。	見守り活動は、ほぼ計画どおり継続して実施できた。 ただ補助金の使用状況を見ると若干の町内自治会では対応不足が想定され、希望者・協力者の更新がしっかり行われるよう、更なる働きかけも必要と感じられた。	A
【高齢化率】 24.9%				④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		地区部会内にある7つの避難所全てで避難所運営委員会が設置されており、年1回以上の避難所立ち上げ・運営訓練や安否確認・避難支援の訓練を継続して実施する。 また、避難所運営マニュアルは福祉的配慮を必要とする人への対応を含めて出来ているが、この体制を継続・充実するため、マニュアルの見直しを毎年実施するよう働きかける。 さらに、住民意識の維持向上や、運営委員会のレベルアップのため研修会等を実施し、地域全体のレベル向上を図る。	7か所すべての避難所で安否確認訓練、避難支援訓練、避難所立ち上げ・運営訓練等を実施した。避難所ごとに工夫を凝らして実施できた。 避難所運営マニュアルの見直し・チェックも行われ、3か所の避難所運営委員会が改定した。 研修会等についても避難所ごとに工夫をこらして実施できた。そのうち1か所については淑徳大学との包括協定に基づき研修会が行われた。 また、地区部会が実施した研修会では、講師に障がい者の方を招き、多方面から必要な支援等について知識を得られた。	A
【地域の特徴】 ○白旗、鶉の森町、今井町、大蔵寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 古くからの農村地帯と昭和50年代に宅地造成された地域がほぼ同じ割合で混在する区域で、一部住宅地では、高齢化率50%を超える自治会もある。									

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】

S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
白旗台地区部会エリア						
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	セーフティウォッチャー活動や子ども110番のいえ活動、あいさつ運動を継続して実施するとともに、子ども110番のいえ訪問・駆け込み訓練は前回の実施から時間が経過しているため、再度実施するか検討・対応する。 また、子ども達とも顔見知りになるよう、町内自治会や青少年育成委員会等の実施する事業に地域の人達がより多く参加できるよう働きかける。 さらに、青色回転灯装着車によるパトロール活動は継続して実施できるよう協力する。	あいさつ運動やのぼり旗の更新を含めて、予定どおり実施できた。 子ども110番のいえ訪問・駆け込み訓練再実施の検討については、不審者出没抑え込み活動の成果を見ながら必要性の判断を行うこととした。 諸事業への地域の方々の参加については、事業によりバラツキはあるものの進展したと考える。特に9年目となる歴史散歩事業(本年度は宮崎小学校地区の歴史散歩)では、小学生25名、保護者22名、育成委員や地域の方々39名、計86名の方々の参加があった。 青色回転灯装着車によるパトロールも計画どおり実施できた。また、パトロール活動への支援として、若干のガソリン代の支給やドライブレコーダーの貸与等も実施できた。 蘇我中学校1年生を対象とした「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書感想文事業は、1年生ほぼ全員の参加が得られ、内容も更に充実してきた。	A	
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会がふれあい・いきいきサロンを月1回開催するとともに、各町内自治会に働きかけ、ウィークリーサロンを目指して開催回数の増を行うとともに、身近な集会所等で行う、ふれあい・いきいきサロンを実施する町内自治会の数を増やす。 また、町内自治会や民児協と共同で、引きこもりの人がいないか調査が必要か検討し、結果によっては参加の働きかけを行う。 さらに、サロンでは、出前講座を活用した学習的要素や健康づくりの要素を取り入れたものも実施する。	年1回開催の保健福祉センター健康課対応のふれあい・いきいきサロンについては、9町内自治会・1老人クラブが実施した。内3町内自治会は初めての実施だった。 地区部会としては、毎週(1会場)、月3回(1会場)、月2回(3会場)、月1回(1会場)、年1回(9会場)で実施している。 各町内自治会の見守り活動の中で町内自治会と民児協が共同で引きこもりの人の調査について対応を検討した。 サロンの内容については、市の「出前講座」を2会場で11回開催するとともに、健康体操を取り入れ内容の充実を図った。	A	
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	ふれあい散歩クラブ活動の更なる拡大を図るとともに、ふれあい・いきいきサロンに取り入れている介護予防や転倒防止運動を拡充する。 また、スポーツ振興会等の行事に協力し、高齢者の参加を促進する。	地区部会では、散歩クラブを継続して実施した。 毎週(1会場)、月2回(2会場)、月1回(1会場)で実施している。 また、ふれあい・いきいきサロンでは、介護予防や転倒防止運動を取り入れている。 スポーツ振興会では、高齢者向けのグランドゴルフ大会を年4回、ポッチャ等の障がい者スポーツを年4回実施した。また、グランドゴルフやラジオ体操等、健康維持を図る取組は、地域で頻繁行われている。	A	
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8	放課後子ども教室の各小学校での実施を継続し、内容によっては参加する。 また、地域で行われている各種スポーツクラブや学習クラブ等を紹介する充実した内容の冊子を作成、配布済みであるが、前回の配布から時間が経過しているため更新の検討を行う。 さらに、スポーツ振興会の市民体育祭や青少年育成委員会の歴史散歩事業等の行事に協力し、子ども達の参加の機会を増やす。	地区内の3小学校で「放課後子ども教室」を継続実施し、読み聞かせ事業等には地域住民が積極的に参加した。 青少年育成委員会の地区の歴史散歩については、今年度は宮崎小学校地区で実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう取り組みを行った。 3小学校で市民体育祭を実施し、その中で子どもの参加できる競技や、大人と一緒に参加する競技を増やし、健全育成と共に近所の大人と知り合いになる機会を提供した。 他にも、小学生球技大会(キックベース)、中学生球技大会(卓球)、中学生バドミントン大会等を実施した。 紹介冊子の更新の検討については、ニーズの変化等も考えられたので必要性の検討から行うことにした。	A	
	⑨ 子育てサロンの充実	4	月4回の「子育てサロン」を継続実施し、子育て中の親子・地域住民との交流の場とする。 子育てに必要な知識を学ぶため、専門機関との連携も図り、講師として依頼する。	地区部会が、宮崎公民館で月2回(年間20回)、南町共栄会館で月2回(年間21回)子育てサロンを開催した。 親子とスタッフの交流、保健師による育児相談(年3回)、読み聞かせ(年1回)、食生活改善推進員による食の話(年1回)、保育士による工作(年1回)、リトミック(年1回)、幼児救急法の講習(年1回)等、内容の充実を図り、子育て親子の仲間づくりに努めた。 また、地域保健推進員からの声かけによる参加者増に努めている。	S	
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が主催する地域住民も参加できる講座、研修会を年5回以上開催する。 また、コミュニティづくり懇談会等の実施する研修会・講演会に協力し、より多くの人に聞いてもらえるよう努めるとともに、参加者に地区部会活動に参加してもらえよう、働きかけを行う。 さらに、市の出前講座等を町内自治会でも積極的に取り入れるよう働きかけ、参加者拡大に協力する。	地区部会では、「地域支え合い活動について」「障害のある方のかかわり方について」「赤十字救急法(幼児救急法)」「ふれあい食事サービス年間献立内容の検討」「生活習慣病に関する講話、災害時における非常食の説明と試食」「落語で生活に笑いを」のテーマで、年6回、各専門別委員会担当で実施した。また、支え合い活動の研修会を2回開催した。 コミュニティづくり懇談会では、年3回研修会を開催し、毎回70名程度が参加した。地区部会活動への参加の働きかけは、新規の参加者がほとんどおらず難しかった。 町内自治会でも出前講座を実施しており、本年度は11回開催された。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
白旗台地区部会エリア	⑱ 防犯対策の推進	6	各町内自治会の防犯パトロール隊結成率80%以上を確保・継続するとともに、パトロール回数を週1回以上実施するよう働きかける。 また、青少年育成委員会が中心となり、青色回転灯装着車によるパトロールを、学校の登下校時に合わせ、毎日3台以上で実施するとともに、子ども達の不審者に対する意識を高めるため、学校と協働で事業を行う。 さらに、町内自治会等とも共同で、防犯に関する講座・研修会を開催し、防犯意識の高揚を図る。	各町内自治会の防犯パトロール隊結成率は80%を超えたが、パトロール回数は週1回に満たないものも若干存在した。 青色回転灯装着車によるパトロールについては、予定どおり実施でき、また、活動の支援のため若干のガソリン代の支給やドライブレコーダーの貸与も実施できた。学校・PTAとの連携も進み、分隊によっては児童の保護者が同乗するシステムで運用された。 各小学校とPTAが共同で小学校区毎に年数回のパトロールを実施した。 防犯研修については、コミュニティづくり懇談会で全体研修会を行い、各町内自治会でも数多く実施された。	A	
	⑲ 防災体制の充実	6	地域内の7つの避難所で避難所運営委員会が、安否確認や避難支援、避難所の立ち上げや運営訓練等の訓練を継続して年1回以上実施する。 また、避難所運営マニュアルは福祉的配慮を必要とする人への対応を含めて出来ているが、この体制を継続・充実するため、マニュアルの見直しを毎年実施するよう働きかける。 さらに、各避難所の備蓄品の充実を図るとともに、各団体と協力して防災に関する講座・研修会を年1回以上開催し、防災意識の高揚を図る。	7か所すべての避難所で安否確認訓練、避難支援訓練、避難所立ち上げ・運営訓練等を実施した。避難所ごとに工夫を凝らして実施できた。 避難所運営委員会では、避難所運営マニュアルの見直し・チェックも行われ、3か所の避難所運営委員会が改定した。また、女性の委員を増やすとともに、障がい者や外国人にも委員としての参加を呼びかけており、一部の避難所運営委員会では障がい者や外国人が委員として参加している。さらに一部の避難所運営委員会では、医師や看護師等の有資格者名簿を整備した。 避難所備蓄品の充実については、本年度はエアーマットを7か所すべての避難所に2個配布できた。 地区部会の41町内自治会中、37町内自治会で防災会が設立されおり、各防災会が地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練や研修会を年1回以上行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。	A	
生浜地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	平成27年4月に地域運営委員会を設立し、子どもの見守りを検討する「青少年部会」、高齢者及び要支援者が安心して暮らせるための見守りを検討する「高齢者・要支援者部会」、避難所開設や避難訓練の企画立案と避難のあり方を検討する「防災部会」を設け、各部会を中心に地域課題の解決に取り組む。	「生浜地区地域運営委員会」の中の「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」の3つの部会で、従来の生浜地区における活動を引き継ぎ、具体化するため、継続して協議をした。 また、同事業の推進にあたって、地区内の福祉事業所にも協力をいただいております、各事業所との連携が深まっている。	A	
	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9	地区部会を中心に、高齢者のちょっとした生活上の困りごとを手伝う支え合いの仕組みづくりを行う。	地区部会のボランティア委員個人の活動として行っていた買い物やゴミ出し等のちょっとした困りごとを手伝うボランティア活動を組織的に行うため、「安心サポート生浜」(仮称)設立準備委員会を立ち上げ、組織化に向けた検討を行った。 また、障害者支援施設ハビネス浜野の協力により、地区部会の会議や事務作業等を行う場所として、同施設の集会室を利用している。	A	
	③ 見守り体制をつくる	1	要支援者が、地域で安心して暮らせるよう、民生委員が支援を必要とする人の同意を得、町内自治会と協力し、日頃のさりげない見守りを行う。	一部の町内自治会で見守り体制を構築し、活動を行っており、未実施の地域では、各町内自治会と民生委員が見守りの仕組みづくりについて協議を継続している。	B	安定した事業運営のための担い手や活動拠点を確保する必要がある。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	地域運営委員会の「防災部会」で、災害時要支援者の避難支援体制について検討する。 また、各避難所運営委員会が、避難訓練を実施するとともに、九都県市合同防災訓練に合わせた避難所開設訓練と避難所運営委員会を開催する。	6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が九都県市合同防災訓練に合わせて避難所開設訓練を行うとともに、3月8日に各避難所合同の「生浜地区合同防災避難訓練」を実施した。 また、福祉避難所として行政から指定されている事業所に対し、一次避難所として避難者を受け入れていただけるよう、共通理解を図っている。	A	
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	地域運営委員会の「青少年部会」で、子どもの安全を守るための見守り活動について検討する。 また、各小学校の「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、子どもの安全を守る活動を推進する。	学校が主体となって実施している「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。 また、生浜地区地域運営委員会の「青少年部会」において、不審者情報の共有を図っている。	A	
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場所を設け、仲間づくりや健康増進を図る機会を増やすため、隔月開催であった「ふれあい・いきいきサロン」を月1回開催する。 また、福祉施設を利用しての高齢者の居場所づくりや、中央区健康課のヘルスサポーター養成教室を活用した地域で運動を継続するグループのリーダーを育成する。	地区部会では、「いきいきサロン」8会場を実施し、高齢者が交流や健康増進を図る機会を提供した。(2会場で週1回、1会場で月3回、1会場で月2回、4会場で年10回) 老人クラブでは、グラウンドゴルフや輪投げ、ダーツ等の行事を多数開催している。	S	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
生浜地区部会エリア	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	高齢者の健康増進を図るため、シニアリーダーによる健康体操を町内自治会と協力し広げていく。	地区部会では、いきいきサロンにおいて、区健康課やあんしんケアセンター浜野の協力で血圧測定や健康指導を開催しており、内容の充実を図っている。 老人クラブや体育振興会では、グラウンドゴルフ大会を開催している。 公民館や一部の町内自治会では、シニアリーダー体操教室を実施している。 一部の町内自治会では、あんしんケアセンター浜野の協力による定期的な健康体操や、毎朝のラジオ体操を実施している。有志の集まりによる毎朝のラジオ体操もある。	A	
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8	生浜地区体育祭や育成委員会主催の子どもふれあい祭り等の地域行事の際、子ども会と協力し、子どもの参加者増に努め、子ども達の健全育成を図る。	スポーツ振興会が、町内自治会の協力を得て「生浜地区体育祭」を開催し、地域の子供達もスポーツに触れる機会を設け、子ども達の健全育成を図った。 育成委員会が、「子どもふれあい祭り」を開催し、昔遊びの体験等を行っており、地区部会としても体験コーナーを設けて参加し、地区部会のPR活動を行った。 各町内自治会では、餅つき大会や子どもの日イベント等を開催するとともに、地域住民が放課後子ども教室に協力し、子ども達の健全育成を図った。	A	
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年39回、子育てサロンを開催する。 また、幼稚園・保育所・保育園との情報交換会を実施するとともに、地区内の災害ボランティアが、災害時に、保育所等の支援を行う。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、4会場で年間39回、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。区健康課等の専門職と連携を図り、内容の充実に努めた。 また、7月に幼稚園・保育所・保育園と情報交換会を実施し、子どもに関する問題について意見交換を行った。 さらに、災害時に幼稚園・保育所・保育園を支援する災害ボランティアを募り、災害時の支援体制を整えている。	A	
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	障がい者を理解するための勉強会や施設訪問を実施する。 また、福祉施設と協力し、中学生を対象とした車椅子体験を行い、障がいについて学習する機会を設ける。 さらに、障がい者施設での作業補助や、施設が主催する祭り等の行事への参加、あるいは地域の祭り等に障がい者を招待するなど、障がい者と地域住民との交流を図る。	地区部会では、障がい者委員会が、障がい者への理解を深めるため施設訪問を実施するとともに、障がい者施設で施設内の清掃や施設行事を手伝うボランティア活動を行った。 また、生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車椅子体験や、障がい者スポーツ選手を招いた車いすバスケットボール体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。	A	
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	各町内自治会の盆踊り、運動会、お祭り等、誰もが参加できる地域行事を通じて、世代間交流を図る。	スポーツ振興会が町内自治会の協力を得て実施した「生浜地区体育祭」や、各町内自治会が実施しているお祭り等、年齢を問わず参加できる地域行事を通じて、世代間交流を図った。	A	
	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地区部会が開催するふれあい・いきいきサロンや子育てサロンで、スタッフが気軽に相談を受け付け、対応できないものは専門機関に繋げる。	地区部会では、ふれあい・いきいきサロンや子育てサロンにおいて、スタッフが参加者の相談に応じ、対応できないものは専門機関を紹介する等、参加者が気軽に相談できる環境づくりに取り組んだ。 地域では、町内自治会や民生委員、ボランティア委員会が個別の相談に対応している。	A	
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	青少年育成委員会が、「敬老の集い」に中学生をボランティアとして参加させ、地域の高齢者との交流を行う。 また、福祉施設と協力し、中学生を対象とした車椅子体験を行い、障がいについて学習する機会を設ける。	各町内自治会で実施している敬老会に中学生がボランティアとして参加し、活動を通じて福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図った。 地区部会では、生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車椅子体験や、障がい者スポーツ選手を招いた車いすバスケットボール体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。 育成委員会で実施している「子どもふれあい祭り」に中学生が吹奏楽や運営補助のボランティアとして参加し、活動を通じて福祉の心を育む機会を設けるとともに、参加者との交流を図った。 地域住民が放課後子ども教室に協力し、子ども達の健全育成を図った。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
生浜地区部会エリア	⑱ 防犯対策の推進	6	防犯パトロールが組織化している町内自治会は、定期的に防犯パトロールを実施する。 併せて警察と連携し、防犯講習会等を開催し、地域防犯力の向上を図る。	地区部会では、千葉県警交通課、中央署、生浜小学校の協力を得て、高齢者及び児童とその保護者を対象に、交通安全の講話等の内容で、「熟年者交通安全教室」を年1回実施し、交通安全意識の向上に取り組んだ。 また、いきいきサロン等で、防犯に関する注意喚起を促した。 防犯パトロールを組織化している町内自治会では、定期的に防犯パトロールを実施した。	A	
	⑲ 防災体制の充実	6	防災会の結成されていない町内自治会は、防災会の結成を目指す。 また、地域運営委員会の「防災部会」で、地域の防災について検討するとともに、地域全体で、年1回の防災訓練を実施する。	6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が九都県市合同防災訓練に合わせて避難所開設訓練を行うとともに、3月8日に各避難所合同の「生浜地区合同防災避難訓練」を実施した。 第13地区町内自治会連絡協議会の11町内自治会中、5町内自治会で防災会が設立されており、その内、2つの防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。	A	
松波地区部会エリア	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。 また、サロンの内容を工夫し、参加者の増加を図る。	いきいきサロンは、週2回のグラウンドゴルフ(雨天及び学校の長期休暇期間は休み)を松波公園で開催するとともに、月2回の脳トレを松波公民館で開催し、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図った。 また、手芸を通じて、近隣の介護付き有料老人ホーム入所者との交流を図った。	A	安定した事業運営の為に、関係団体との連携を円滑にする必要がある。また、担い手を確保する必要がある。
【人口・世帯数】 4,767人、2,658世帯	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月2回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、読み聞かせボランティアによる本読み、工作、季節のイベント、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	
【町内自治会数】 1町内自治会	⑩ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域住民に対して、地区部会事業への参加者の増加を図るとともに、地区部会活動への理解者を増やし新たな活動の担い手を発掘するため、広報誌を年5回発行する。	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、社協だよりを年5回発行した。 また、松波町会のホームページに、地域の関係団体(地区部会、民児協、商工会、老人クラブ)のページを追加し、地域情報の充実を図った。	A	
【高齢化率】 24.8%	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	地区部会が、地域の福祉活動に、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設ける。 また、パラリンピックの開催に向け、地域で障害者理解の啓発を図る。	敬老会に、千葉商業高校の吹奏楽部が参加するとともに、赤い羽根の歳末募金に千葉商業高校青少年赤十字の生徒が協力し、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けた。 町会の夏祭りには、クラーク記念国際高校の生徒が参加し、子どもと山車と一緒にひいたり、ダンスやバンド演奏を披露した。 障害者理解の啓発を図る取組として、パラリンピック競技種目であるゴールボールのアジア大会を見学した。	A	
松ヶ丘地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや電話による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を継続して実施する。 また、研修会や報告会を通じて、問題点を改善しながら、より良い活動となるよう努める。	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方、92世帯に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組んだ。 また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。	S	事業を継続していくために、担い手を確保する必要がある。時間をかけて、あきらめずに地域活動への参加を呼び掛けることが大切である。
【人口・世帯数】 11,972人、5,764世帯	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会が、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館を会場に週1回、葵幼稚園を会場に不定期ではあるが、介護予防教室を実施する。 また、「いきいき散歩クラブ」を月2回実施するとともに、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」において、淑徳大学看護栄養学部との協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を開催する。 さらに、各町内自治会において、有志によるグラウンドゴルフを定期的に行い、スポーツ振興会が中心となり大会を開催し、高齢者の健康増進を図る。	地区部会では、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を行った。 また、「いきいき散歩クラブ(高齢者福祉委員会)」を月2回開催した。 さらに、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館(週1回)、葵幼稚園(不定期)、恵光園(週1回)、仁戸名自治会館(週1回)、都苑(不定期)、第3公園(週1回)でシニアリーダー体操を実施し、高齢者の健康維持・増進を図った。 あんしんケアセンターでは、さくら会館で健康体操を実施した。 各町内自治会では、有志によるグラウンドゴルフは盛んに行われ、大会を年3回開催している他、スポーツ振興会が年2回、大会を開催している。 「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月1回開催した。	S	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
松ヶ丘地区部会エリア						
【地域の特徴】 ○松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行(現京成電鉄)の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地区部会が、年3回、広報誌を発行するとともに、松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載し、地域情報の発信に努める。 また、「ひだまり」でスタッフが気軽に相談を受け付ける体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境をつくる。	松ヶ丘中学校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集及びPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。	A	
川戸地区部会エリア						
【人口・世帯数】 6,873人、3,289世帯	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会が主催する行事や活動(バス研修旅行、敬老会、福祉バザー、見守り隊の活動、お助け隊の活動)については、コミュニティ懇談会、第21地区連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、スポーツ振興会、PTA、子ども会と意見交換を図りながら、関係団体の協力を得て実施している。	A	
【町内自治会数】 13町内自治会	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、地域の各種団体等と連携し、ひとり暮らし高齢者等に対する日常的な見守り体制を強化し、声かけによる安否確認等、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。	A	
【高齢化率】 33.0%	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、月1回、ふれあい・いきいきサロンを実施する。 また、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような企画を考える等、参加者の増加に努める。	地区部会が、いきいきサロン「ひまわり会」を年9回開催し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。また、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような内容を検討し、参加者の増加に努めた。	A	
【地域の特徴】 ○川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町(緑区)の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部落で、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地域の団体が、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るための活動を推進する。	スポーツ振興会が毎週日曜日にラジオ体操と散歩を実施した。また、各町内自治会がグランドゴルフを実施し、高齢者の健康維持を図った。	A	担い手不足で役員に負担がかかっている。 安定した事業運営のため、担い手の確保が必要である。
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを実施する。 また、民生委員・児童委員と連携して対象者を把握し、個別にサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努める。	地区部会が、子育てサロン「もーもークラブ」を年10回開催し、子育て支援を図った。また、参加者の増加には至らなかったが、民生委員・児童委員と連携して対象者を個別訪問してサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努めた。	A	
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	地区部会や町内自治会等が、敬老会や福祉バザー、盆踊り等、地域住民が気軽に参加できる行事を実施し、世代間交流を図る機会を設ける。	地区部会が開催する敬老会に、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒が参加し、高齢者と交流する機会を設けた。また、「福祉バザー」を開催し、世代を問わず参加できる地域行事を通じて交流を図った。 また、地域の団体が、盆踊り大会や、美化活動、スポーツ祭、餅つき大会等を実施しており、様々な地域行事を通じて住民の交流を図った。	A	
	⑯ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供する広報誌を年1回発行する。	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供する広報誌を年1回発行した。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>星久喜地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 11,783人、5,787世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 26.1% 【地域の特徴】 ○矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	地域運営委員会の設置に向けて、各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら、役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりを行う。	平成30年4月に設立した地域運営委員会では、地域の関係団体を実施するイベント等の日程調整を行うなど、連携強化に努めた。また、防災意識の向上を図るためのHUG体験やハイゼックス体験を実施するとともに、高齢者のひきこもり防止の一環として中学生合唱コンクールにひとり暮らし高齢者を招待した。(「こども110番のいえ」の方と顔見知りになるためのウォークラリーを予定していたが雨天中止となった。)さらに、地域運営委員会のホームページを開設し、関係団体の情報発信に努めた。	A	
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	地区部会及び青少年育成委員会等が、子ども達の安全を守るため、学校と連携し、セーフティウォッチャー活動を実施する。	地区部会及び青少年育成委員会等が、子ども達の安全を守るため、学校と連携し、セーフティウォッチャー活動を実施する。また、小学校PTAが自転車パトロールを行うとともに、青少年育成委員会が、学区内パトロール、子ども達と一緒に清掃活動、長期休暇前の学区点検を実施した。さらに、育成委員会と公民館が共催し実施している「お泊りin星久喜」や、育成委員会と地区部会が共催し実施している「書き初め展」等の行事を通じて、子ども達との交流を図った。	A	
	⑥ ふれあいいきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年8回、「ふれあいいきいきサロン」を継続して実施する。	地区部会が、70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園や都市緑化植物園の散策、理学療法士による「歩き方」講座や栄養士による「食生活」講座等を内容とした、いきいきサロンを年6回実施(2回は雨天中止)し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。	A	
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを継続して実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回、栄養士や歯科衛生士からの話、読み聞かせ、食生活改善推進員による簡単なおやつ作り、星久喜保育所訪問、クリスマス会等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	地区部会が、障がい者への理解に関するテーマを取り入れた研修会を開催するとともに、地域の障がい者施設でのボランティア体験などを通じて、障がい者との交流を図る。	地区部会が、障がい者に対し地域でどのような支援が出来るか考えるきっかけとするため、聴覚障がい者協会の方を講師に招き手話体験を実施するとともに、障がい者福祉委員会が11月上旬にある公民館主催の文化祭にて、作業所の作品を施設利用者と共に販売した。また、星久喜小スポーツ振興会主催のふれあい大運動会には、星久喜小・中学校の特別支援学級の生徒が参加し、障がい者との交流を図った。	A	
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	地区部会が、青少年育成委員会等の関係団体と連携し、星久喜公民館における大人と子どもの宿泊イベント等、各世代が気軽に参加できる行事を実施するとともに、敬老会に児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設け、世代間交流を図る。	星久喜小スポーツ振興会主催の「ふれあい大運動会」や「バスハイイク」、育成委員会と公民館が共催し実施している「お泊りin星久喜」等、各世代が参加できる地域行事を通じて交流を図った。また、地区部会が実施している敬老会に児童・生徒がボランティアとして参加し交流を図った。	A	
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、参加者に対する健康講座を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けるとともに、地域行事でのボランティア体験等を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進を図る。	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、理学療法士による「歩き方」講座や栄養士による「食生活」講座を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けた。また、敬老会における小中学生のボランティア体験を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進に取り組んだ。	A	
	<b>千葉みなと地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 10,433人、4,360世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 11.4% 【地域の特徴】 ○中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。中央区の西部に位置する臨海エリアで、京葉線、千葉都市モノレールの千葉みなと駅を中心に、再開発が進む。千葉ポートタワー、千葉県立美術館が立地。また、千葉市役所をはじめ、千葉中央警察署、千葉中央郵便局、千葉地方裁判所などの公的機関を抱えており、多くのマンションが林立している地域でもある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	地域支えあい連絡会を設置し、地区毎(千葉港・中央港・問屋町)の課題を把握するため、民生委員・児童委員の他、PTA等の学校関係者や企業も巻き込んだメンバーで意見交換会を実施する。	町内自治会や民生委員・児童委員、行政等の関係機関・団体が集まり、「千葉みなと地区部会」、「千葉みなと地区自治会連合会」、「新宿中学校避難所運営委員会」の定期会合を2か月に1回開催し、地域課題の意見交換を行った。また、地域支えあい連絡会の設立に向け、必要な人材やボランティア、福祉活動推進員を確保するため、令和2年2月発行の地区部会だよりに募集記事を掲載した。	B
③ 見守り体制をつくる		1	ひとり暮らし高齢者や要介護者等について、まずその存在確認体制を構築し、必要に応じて安否確認・見守り活動が必要な方々に対してサービスが提供できるよう体制を整備する。	民生委員の協力にてひとり暮らしの高齢者や要介護者等の実態を把握した。また、マンションの管理人と情報交換し、各マンションの情報把握に努めた。	B	自治会館や公民館のような場所がないので集いたくてもできない。最大の課題は場所の確保と、それを支える要員の確保。
⑯ 防災体制の充実		6	避難所運営委員会と協力し、災害時の物資供給が遅延なく行われる体制を整備する。また、各世帯に的確な情報を提供し、日頃から災害に強いまちづくりを図る。	避難所運営委員会では、災害時の対応を協議するため、隔月で定例会議を開催するとともに、年1回、避難所開設訓練を行った。また、各マンションでトランシーバーを導入し、災害時の支援体制を整備した。各マンションでは、年1回、消防による初期消火訓練等の防災訓練を実施した。	A	安定した事業運営のため、担い手や活動拠点の確保が必要である。

# 花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

## ◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。(5~7割) A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	9	S 0 A 8 B 1 C 0	・見守りの重要性を認識してもらうため、住民向けのボランティア講座を開催。 ・見守り活動の振り返りの機会を定期的に設けるとともに、民生委員との連携強化に努めた。 ・新規に見守り体制の整備を進めている地区については、住民ニーズを把握するため、アンケート調査を実施した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	7	S 0 A 7 B 0 C 0	・地域運営委員会が中心となり、支援体制の仕組みづくりを進めた。 ・支え合い活動の周知と担い手確保を目的に、広報紙の発行やイベントを開催。 ・近隣の福祉施設と連携し、高齢者の買い物支援の仕組みづくりを進めた。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S 0 A 1 B 2 C 0	・障害者施設のイベントへの参画やバス旅行の実施。 ・親子を対象とした障害についての理解を深める講座の開催。 ・障害の有無にかかわらず、ずっと住み続けられるまちづくりをテーマとした「フォーラム」の開催。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	2	S 0 A 1 B 1 C 0	・行政、民生委員、地域保健推進員等と協力し、子育てサロンを開催(区内サロン13年間延べ200回開催)。 ・ヘルスメイト、主任児童委員等と協力し、子ども食堂を定期開催。子どもたちが安心して過ごせる場をつくった。
5 健康づくり	2	S 1 A 0 B 1 C 0	・あんしんケアセンター、民生委員等と連携し、高齢者を対象としたいきいきサロンを開催(区内サロン 133年間延べ2500回開催)。 ・地域内の花壇の整備や清掃活動など、地域活動と併せたサロン活動を展開するなど、多種多様なサロンを用意することにより、より多くの高齢者が外に出やすい環境づくりを進めた。
6 防犯・防災に対する取組み	5	S 1 A 1 B 3 C 0	・各自治会を中心に防犯パトロールを実施。 ・防犯活動強化に向け、他団体との連携について協議を行った。 ・小学校、公民館において、避難所運営委員会が新規設立された。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	8	S 0 A 7 B 1 C 0	・障害者や高齢者、健康などの身近な課題をテーマとした講座を開催し、地域福祉活動についての理解を図った。 ・広報紙やチラシの作成など、活動の周知を行った。
8 福祉教育・啓発	12	S 0 A 9 B 3 C 0	・地区部会主催の「福祉まつり」において、子ども向けの福祉体験コーナーを設け、啓発を行った。 ・近隣の小学校と一緒に駅前街頭募金を行った。 ・小学校のイベントに参加し、地域福祉活動の周知を行った。
9 地域のつながりづくり	11	S 0 A 10 B 1 C 0	・「流しそうめん」「餅つき大会」など、昔ながらの行事を通して、世代間交流を図った。 ・あんしんケアセンターと連携し、地域の居場所づくりを進めた。 ・UR都市機構及び地域関係団体との共同による団地集会所を利用した居場所(夏休み「ふくしの広場」)の運営を行った。
10 相談支援体制と情報提供の充実	2	S 0 A 1 B 1 C 0	・地区ごとに広報紙を発行し、身近な福祉活動の情報を発信した。(12地区) ・地域内の福祉施設との話し合いの場を設け、地域交流の場を提供した。 ・あんしんケアセンター主催の地域ケア会議において、様々な関係機関が一つの課題に向き合うことにより、地域における支援体制の強化が図られた。
今年度の振り返り	61	S 2 A 45 B 14 C 0	・目標に対する達成状況について(S)、(A)の割合が約8割であり、概ね計画を順調に推進することができた。 ・健康づくりにおけるいきいきサロンの増設や防犯・防災の取り組みでの避難所運営委員会の新規設立など、特に成果があった。

今後の課題と方針	・地域福祉活動の担い手不足が解消されていないため、引き続き地域の方が参加しやすい活動を実践し、地域福祉活動への関心と理解を促していきたい。
----------	---

## ◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日			主な議題等
令和元年度	第1回	6月26日(水)	(1)「花見川区支え合いのまち推進計画(第4期花見川区地域福祉計画)」における各社協地区部会推進計画(令和元年度)について (2)「花見川糖尿病ゼロプロジェクト「健康なまち花見川」を目指して」

## ◆区の地域福祉に関する好事例等

※詳細は裏面
--------

◆区の地域福祉に関する好事例等

住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり（「我が事」の地域づくり）

<p>活動主体</p>	<p>千葉市社会福祉協議会 幕張・武石地区部会</p>
<p>取組概要</p>	<p>『認知症の方への声掛け体験』</p> <p>幕張6丁目、武石1・2丁目の住民で構成されている「幕張・武石地区部会」では、第4期計画において「支え合い、助け合いのできる地域社会づくり」を基本方針とした「要支援者への支援体制の構築」を目指しています。</p> <p>令和元年度の活動として、自治会役員や地域住民を対象に「認知症の方への声掛け体験」を開催しました。</p> <p>地区部会ではすでに、「認知症サポーター養成講座」を複数回開催しており、そのステップアップとしての取り組みとなりました。</p> <p>開催にあたっては、地元の「あんしんケアセンター幕張」を講師に招くとともに、地域内に拠点を構えている介護事業所の方にも参加していただきました。専門職のアドバイスを聞きながら、地域ぐるみの支援体制の充実に繋がるよい機会となりました。</p>
<p>活動の様子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="608 919 1092 1188">  </div> <div data-bbox="1151 919 2377 1199" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>あんしんケアセンター幕張の山口センター長から認知症の方への具体的な対応方法について教えていただくとともに、私たちが徘徊高齢者を発見した際、QRコードを利用して、安否状況を家族に知らせることができるサービス（『どこシル伝言板』）の利用方法について説明を受けました。その後、参加者はグループごとに自治会館を出発。簡単な地図と目印を頼りに、徘徊高齢者を検索することに…。</p> </div> <div data-bbox="2436 890 2718 1220">  </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <div data-bbox="608 1262 1466 1514" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>発見はしたものの、はじめは戸惑うばかり。でも、勇気を出して声掛けに挑戦！相手の言葉に耳を傾けながらゆっくり対応することにより、徐々に安心してもらうことができました。</p> </div> <div data-bbox="1555 1262 2000 1507">  </div> <div data-bbox="2080 1268 2510 1507">  </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <div data-bbox="617 1591 1101 1835">  </div> <div data-bbox="1199 1591 2585 1843" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>体験終了後、グループごとに介護事業所の方を交えて意見交換会を行いました。「徘徊高齢者を心配する家族の気持ちがわかった。」「困っているかどうか様子を見て声を掛けることは大変。まずはご近所の声掛けからはじめたい。」などの意見が出て、学びの多い一日となりました。</p> </div> </div>

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>検見川地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 12198人、6263世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 20.3% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町	⑥ 地域福祉活動の担い手を育成するために区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの育成・ボランティア活動の推進に努めるとともに、活動を周知し、幅広い分野におけるボランティア体験や地域活動への参加を促すなど、若者や企業ボランティア、高齢者パワーなどを活かし、人材の育成・活用を努めます。	7	・ボランティア講座 1回 ・広報紙でのボランティア募集 1回	昨年度の反省から、親子を対象としたボランティア講座を計画したが、時期的なことや障害者のことを知ろうという内容も人気がなかったのか、残念ながら人が集まらず、民生委員と推進員の研修になってしまった。しかし、研修内容はいろいろ気付かされる点が多く有意義なものとなった。	B	今年度の反省を踏まえ、次年度は高齢者が地域でいきいきと暮らしていける手助けとなるような講座を開きたい。
<b>花園地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 21454人、9923世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 22.4% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地(高層マンション群を含む)からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実と努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	・見守り活動の仕組みづくり 「向こう三軒両隣活動」の呼びかけ 「支え合い活動」の呼びかけ →未着手自治会への呼びかけ ・平常時の支え合い活動への展開 ・講習会への参加	花園文化会における災害時安否確認の仕組みを、他の自治会(朝日ヶ丘自治会)が参考にし、取り組みを進めている。今後も地域全体に広がることを期待している。 地域運営委員会を中心に進めている「花園おせっかい」での見守り、支え合い活動が、住民に浸透してきており、具体的な活動に繋がってきている。	A	災害時安否確認や、平常時の見守りなど、各自治会が取り組むことができるよう事例の提供や、広報活動を積極的に行っていく。 「花園おせっかい」での見守り、支え合い活動の周知徹底を図り、「向こう三軒両隣」の関係性を継続、発展させていく。
<b>朝日ヶ丘地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 10968人、5221世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 35.6% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	⑤ 障害のある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	・ふれあいバス旅行 1回 ・ふれあい喫茶 2回	障害者とのふれあいバス旅行を実施。(参加者31名、内、障害や要介護の方20名)介護の負担などによりなかなか遠出できない方に大変喜ばれた。 9月と3月にふれあい喫茶を企画。3月はコロナウイルス感染症の影響により中止したため、9月のみ実施。抹茶をふるまい、和やかな雰囲気で開催できた。(参加者約60名) 会場では、地域の方の作品展も開催し大変好評だった。	B	今後も安全に事業を継続し、自治会に依頼し地域での交流を図っていきたい。
<b>犢橋地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 10632人、5224世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.3% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	⑦ 社協地区部会や町内自治会等が、地域における団体活動を充実するため、社会福祉協議会、あんしんケアセンター、行政等が連携し地域を支える様々な福祉情報等の共有と、わかりやすい情報として発信・受信するための仕組みをつくり、住民相互の気軽に相談できる場を確保するとともに、団体同士の連携・協力により組織強化に努めます。	9,10	・広報紙発行 3回 ・いきいきサロン 計40回	広報紙年3回発行。(6月・10月・3月) いきいきサロン年62回開催(予定)※コロナウイルス感染症の影響で3月中止。 「交流広場ふれあい」や「健康管理勉強会」等で身近な問題をテーマに、専門家の講演会を企画。住民に役立つ情報提供を行った。 あんしんケアセンターとの関係については講座や広報紙の投稿欄を設けるなど、繋がりが深まりつつある。 また、地域内のグループホームと話し合いの機会を設け、施設入所者と地域住民との交流の機会を提供している。	A	今後も、関心の高いテーマを取り上げた勉強会等を地域で実施し、住民に情報提供していきたい。
<b>犢橋地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 10632人、5224世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.3% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	① 日頃から隣近所との挨拶などのコミュニケーションを図るとともに、既存の施設を有効利用した居場所づくり、親しみ、ふれあう環境づくりを推進し、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけとなるよう、地域のイベント、祭り、町内自治会行事等の周知に努めます。また、子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、若い世代を含めた様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。	9	・地区部会活動 ①昔あそび(2回) ②流しそうめん(1回) ③餅つき大会(1回) ④ふれあい事業(9団体) ・町内自治会活動 ①夏まつり(4自治会) ②敬老会(8自治会)	年次計画に掲げる諸活動については、すべて計画通り実施済みである。 なお、詳細については以下の通り (1)地区部会活動中の②及び③の参加人員が前年に比し30%~40%増加 (2)自治会活動中の②の内1自治会が自主事業(お祝品の配布)に変更	A	各事業活動のうち子どもの参加人員については、少子化により変動があるためPRに配慮する必要があること。
<b>犢橋地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 10632人、5224世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.3% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。	1,4,8	・昔あそび 2回 ・子ども食堂 12回 ・少年補導点検活動 2回(青少年育成委員会)	子ども食堂の開催に関し、新型コロナウイルスの感染者が区民にも発生し、その予防対策が十分できるか否か不安なため2月及び3月の開催を中止することにした。 なお、それ以外の諸活動については、計画通り実行済みであり所期の目標は達成された。	A	子ども食堂の参加人員について、令和元年度は前年度に比し減少(20%強)しているため、広報活動の充実及び調理メニューの検討等を含め充実強化に努めて参りたい。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<p>こてはし台中学校区地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 9374人、4126世帯</p> <p>【町内自治会数】 10町内自治会</p> <p>【高齢化率】 28.1%</p> <p>【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村</p>	<p>③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。</p>	1,2,7 8,9	・活動の試行	<p>地域(10自治会)の75歳以上の独居者及び2人家族を対象に見守り活動を利用するかどうかのアンケート調査を行った結果、対象者146世帯中利用したい件数は69世帯(47%)であった。その後、利用者への連絡と確認の結果、45世帯が利用することで確定した。                  その世帯に対し、「見守り活動計画書」を作成し、本人、見守りをする人、民生委員が共有することで今年5月からスタートするべく準備中である。</p>	A	<p>今回は利用者が、緊急の連絡先と見守って欲しい人を指名してもらった内容の調査表に基づく調査、聞き取りを守秘義務のある民生委員が橋渡し役となって行った。                  続ける為に見守る人へのアプローチをどうするかを討議する必要あり。</p>
<p>幕張・武石地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 4542人、2302世帯</p> <p>【町内自治会数】 3町内自治会</p> <p>【高齢化率】 25.9%</p> <p>【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。</p>	<p>③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。</p>	1,2,7 8,9	・普段できる要支援者の見守り活動(安否確認等)や生活支援(買い物・ゴミ出し等)を推進する。	<p>各町内会同士の要支援者への支援体制の情報交換を行い、支援体制の充実に努めることができた。                  地域の認知症患者の増加に伴い、患者やその家族を支援するため「認知症の方への声掛け体験」講座を関係機関との連携のもと実施することができた。</p>	A	<p>今後も、地区部会と町内会協力のもと、要支援者への支援体制を充実させる。                  支援体制を充実させるための会員相互のステップアップ講座を実施し、各機関との連携を図る。</p>
<p>花見川地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 11225人、5589世帯</p> <p>【町内自治会数】 18町内自治会</p> <p>【高齢化率】 39.8%</p> <p>【地域の特徴】 戸建住宅(昭和30年代後半より入居)、農林地帯、UR団地(分譲)、マンション群の混在地域。</p>	<p>② 住民自ら健康への関心を高めるとともに、イベントや講習会、スポーツ、サークル活動など健康づくりの機会への積極的な参加や心身の健康づくりに取り組むとともに、体操・サロン等を通じた日中の居場所づくりや講演会など介護予防活動の推進に努めます。また、糖尿病対策として、標語やポスターの掲示など啓発に努めます。</p>	5	活動サークル 78サークル	<p>令和元年度(令和元年10月~12月)84サークル(散歩クラブ含む)</p>	S	<p>新規のサークル立ち上げもあるが、高齢化で廃部もある。</p>
	<p>③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。</p>	1,2,7 8,9	見守り対象者 36人	<p>第1四半期33名が、第4四半期30名となった。</p>	A	<p>5・6月の高齢者調査で見直す。</p>
	<p>⑨ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます。また、自然災害等による被害を軽減するため住宅の耐震化や家具などの転倒防止、食品の備蓄等に努めます。</p>	6	避難所運営マニュアルの見直し、更新	<p>マニュアルの見直しが進んでいない避難所が見受けられる。また、地震対策偏重のマニュアルを、風水害対策を含めた総合的なマニュアルの作成が必要。</p>	B	<p>関係町内自治会に、避難所単位の防災訓練、マニュアル作成の依頼を徹底させる。</p>
<p>花見川第2地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 11029人、6119世帯</p> <p>【町内自治会数】 7町内自治会</p> <p>【高齢化率】 41.4%</p> <p>【地域の特徴】 花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センター、児童福祉センターなどが整備されている。</p>	<p>③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。</p>	1,2,7 8,9	・支え合い活動の実施 ・新たな担い手確保のための講座等の開催 1回	<p>支え合い活動を引き続き実施(年間延べ40件程度)                  支え合い活動PRのため、団地内でバザーとカレーパーティーを開催し、協力を呼び掛けた。                  『ハンドハンドだより』を発行し、PRに努めた。(年2回発行)</p>	A	<p>担い手確保のための講座実施                  支え合い活動の継続実施</p>

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
こてはし台地区部会エリア	日頃から隣近所との挨拶などのコミュニケーションを図るとともに、既存の施設を有効利用した居場所づくり、親しみ、ふれあう環境づくりを推進し、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけとなるよう、地域のイベント、祭り、町内自治会行事等の周知に努めます。また、子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、若い世代を含めた様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。	9	・居場所づくりのための地域内の調査、検討	8月に「あんしんケアセンターこてはし台」が認知症カフェの開設に向けて準備中との情報を得た。当方も検討中であり、協力し合って検討することで合意。 12月「近くに居場所にふさわしい場所」を見つけた。年度内に開設することを目標にして、具体的内容をさらに検討して「あんしんケアセンターこてはし台」主催、地区部会協力の形で開設する。	A	次年度の開催回数や内容等については、今後検討を深めて可能な範囲で「認知症カフェ」に協力していく。
【人口・世帯数】 6046人、2851世帯	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	・「ふれあい事業」の具体的見直しの実施 ・包括ケア会議を通じた地域関係者との連携強化	「ふれあい事業の見直し」については、10月に「検討委員会」を設け、2月に第一回の会議を行った。 「ケア会議を通じた連携強化」については、高齢者・障害者等に対する災害時の対応についての情報交換会を行った。	A	活動の検討は次年度以降も行っていく。 「ケア会議」では、検討内容を絞って行う必要がある。
【町内自治会数】 1町内自治会						
【高齢化率】 48.3%						
【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心(テラスハウス25%)の住宅街。	社協地区部会や町内自治会等が、地域における団体活動を充実するため、社会福祉協議会、あんしんケアセンター、行政等が連携し地域を支える様々な福祉情報等の共有と、わかりやすい情報として発信・受信するための仕組みをつくり、住民相互の気軽に相談できる場を確保するとともに、団体同士の連携・協力により組織強化に努めます。	9,10	・地域内の不動産業者などにホームページへの参加の働きかけ ・「街づくり」についての検討	地域内の不動産業者などへのホームページ参加の働きかけは、ホームページ運営委員会で具体的に検討。次年度より実施。 若い世代が「住んで良かった。住んでみたい」と思える地域のよさ、特に自然環境について発信していくため、編集作業中。年度内に発信。	B	地域内の不動産や図書館、公民館等に働きかけ、協力を得たい。 「街づくり」は、取り組み体制をつくり、自治会とともに検討していきたい。
天戸中学校区地区部会エリア	住民自ら健康への関心を深めるとともに、イベントや講習会、スポーツ、サークル活動など健康づくりの機会への積極的な参加や心身の健康づくりに取り組む。さらには、体操・サロン等を通じた日中の居場所づくりや講演会など介護予防活動の推進に努めます。また、糖尿病対策として、標語やポスターの掲示など啓発に努めます。	5	・サロン内での健康体操の実施 ・ラジオ体操開催場所の選定と整備 ・ラジオ体操実施(後半1ヶ所) ・講座の開催	体操を取り入れたいいききサロンを実施。 ラジオ体操については、スポーツ振興会と協力し、実施に向け検討していたところ、台風15号の影響を受け、具体化できなかった。	B	引き続き、体操を取り入れたサロンを行うとともに、健康に関する講座を開催し、一人一人の意識向上を図っていきたい。 夏休みを利用した親子参加型のラジオ体操を企画していきたい。
【人口・世帯数】 19003人、8452世帯	障害のある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	・障害者福祉施設イベントへ参画し、地域団体を巻き込んだ取り組みを行う。	障害者福祉施設イベントに参画し、利用者の方と一緒にイベントを盛り上げることができた。	B	イベントにおいて、地域を紹介するスペースの設置やPRチラシを配布するなど、工夫を加えていきたい。
【町内自治会数】 17町内自治会						
【高齢化率】 32.5%						
【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	・情報交換会開催に向けた各団体との調整	引き続き、各種団体と連絡調整を実施。	B	情報交換会実施に向け、自治会や各種団体と連携強化を図っていきたい。
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア	障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	・成年後見サークルの周知 ・「お日さまクラブ」や「福祉まつり」、「フォーラム」の継続実施	年次計画に基づき実施。 10周年を迎えた「福祉まつり」では、例年以上にユニバーサルデザインの地域づくりに貢献できたと自負している。 「フォーラム」は、終活をテーマに「おひさまクラブ」での話し合いや準備を重ね、有意義な「フォーラム」を開催できた。	A	年次計画に基づき実施努力。 外出困難な方、自ら支援を発することができない方へ手を差しのべる方法を、民生委員、自治会と協力しながら検討していきたい。
【人口・世帯数】 10557人、5197世帯	地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	・合同パトロールの継続実施 ・各自治会、町会の防犯パトロール実施状況の報告	合同パトロールを地道に継続実施。 千葉北警察から依頼の「あおぼうし講座」等への積極的な参加。 合同パトロール実施に対し、市から感謝状をいただく。	A	年次計画に基づき、実行努力。
【町内自治会数】 15町内自治会						
【高齢化率】 35.6%						
【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。						

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>幕張本郷中学校区地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 25641人、12765世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 12.9% 【地域の特徴】 JR幕張本郷及び京成幕張本郷駅を中心に沿線を挟んで両側に広がる町。戸建も多く、マンションも比較的多い。	④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。	1,4,8	・ノンノンサークル 10回 ・赤ちゃんサークル 9回	赤ちゃんサークル年11回 参加人数187人 1才児サークル年10回 参加人数76人 と相変わらず2つのサークルの温度差は気になるところ。 児童母子福祉委員13人、女性民生委員14人でシフト調整しながらサークルを実施している。	B	現在サークル告知はホームページのみ。 1才児サークルノンノンに関しては、公民館のポスター掲示、各町内会への告知(回覧板、町会広報)を検討していく。
<b>畑地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 6160人、2759世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 32.9% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	・各自治会にて検討 ・地区部会定例会にて情報交換 ・支え合い活動実施 3自治会	30年度より引き続き地区部会エリア内で、75歳以上の独居の方を対象に、朝のゴミ出しに限定して実施している。 担い手は民生員と地域協力者。 今年度の依頼は0件。 自治会単位ではなく地区部会として全エリアを対象とした。	A	引き続き、75歳以上の方を対象に、無理のないように継続する。
	⑧ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	・防犯パトロール実施 5自治会	30年度より引き続き実施、新しく実施する自治会はなし。	B	高齢化しており、パトロールをすることが難しい。 自宅回り、向こう三軒両隣の精神で、お互いに気遣いながら生活するようお願いする。

※ 令和元年12月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

# 稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

## ◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	8	S A 8 B C	稲毛区内12地区部会のうち、重点取組項目になくともいきいきサロン開催は12地区すべてで年間870回開催。 また、見守り活動は社協の見守り活動助成金を活用している地区が6地区部会で、毎日の声かけから週一回程度の巡回など形態は様々である。
2 高齢者を支える仕組みづくり	4	S A 4 B C	稲毛区内で取り組んでいる地区部会では、いきいきサロンやふれあい食事サービスなどのほか、気軽に集まれる地域カフェの運営(一地区部会で民生委員が中心となり自治会やURと共同運営)を通して、引きこもりがちな高齢者に交流を促し、社会参加と健康づくりと介護予防の啓発に努めている。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S A 3 B C	取組項目取得地区以外でも、地域内の障害者団体との交流事業を定期的に行うほか、地域の安全マップ作成の中で危険箇所の把握など障害者を支える活動を行った他、地域の障害者(児)団体と地区部会が協働で地域での交流イベントなどを開催した。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	3	S A 3 B C	子育て中世帯の交流や情報交換などの場として子育てサロンを実施した(稲毛区内で年間96回、延べ2,314人参加)ほか、区内の子育てサークルや教育関係者、NPOなどが協働で子育て世代への情報提供や交流の活動を継続実施した(育児情報サイト運営やリーフレット発行、子育てフォーラム開催など)
5 健康づくり	7	S A 6 B 1 C	地区内の自治会やスポーツ振興会と協働での体育祭、いきいきサロンなどの機会を活用したシニアリーダー体操やポッチャなどの活動を進めることにより健康増進に取り組んだほか、あんしんケアセンターなどと協働で健康講座や認知症講座を実施するなどして健康づくりと介護予防に取り組んだ。
6 防犯・防災に対する取組み	8	S A 8 B C	町内自治会が中心となった防犯パトロールを実施しているほか、自主防災組織が中心の防災訓練や避難訓練の開催(稲毛区内全体で87回開催)や防災に関する講座開催。また、民児協と自治会などの協力による避難行動要支援者名簿の協定を締結するなどした。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	9	S A 9 B C	地区内における見守り活動やいきいきサロンなどの活動を契機にして活動者の募集や啓発活動を継続して行った。
8 福祉教育・啓発	2	S A 1 B 1 C	地区部会主催による福祉講座を開催し地域福祉への啓発活動を行ったほか、あんしんケアセンターなどと協力した講座などを活用し福祉教育の推進を図った(稲毛区全体で15回開催、391人参加)
9 地域のつながりづくり	24	S A 24 B C	地域内あいさつ運動の推進の他、世代間交流を促すためのイベント(夏祭りや体育祭、ハロウィンイベントなど)を企画開催したり、いきいきサロンや子育てサロンなどでの世代交流事業を各地区部会エリアにて行った。
10 相談支援体制と情報提供の充実	10	S A 10 B C	あんしんケアセンターによる地域ケア会議や、地区部会活動の中での各種連絡会を活用した情報共有と、広報誌発行などによる地域への情報提供の充実を図った(広報誌は稲毛区内10地区にて合計16回発行)
今年度の振り返り	78	S 0 A 76 B 2 C 0	日常の困りごと(ゴミ出しや買い物など)への支援の活動が継続して行われており、台風による被害が大きかった地区では近隣住民による助け合いなども多数見られ、住民同士の支え合いの重要性がより強く認識されたと感じられる。 また、台風被害や新型コロナウイルス蔓延の影響により各事業が開催できず、予定していた実施数に届かない地区も多くあるが、やむを得ない状況であることを考慮した評価基準としている。
今後の課題と方針	住民同士による支え合い活動の重要性が認識されると同時に、今後の活動の担い手不足と、その育成が継続した課題である。		

## ◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日			主な議題等
令和元年度	第1回	7月 5日(金)	・平成30年度の取り組み状況及び令和元年度の取り組み予定について ・稲毛区の地域福祉に関する好事例等について ・その他
	第2回	11月28日(木)	・稲毛区の地域福祉にかかる障害者の視点について ・稲毛区の地域福祉にかかる好事例について ・稲毛区支え合いのまち推進計画の令和元年度進捗状況について ・支え合いのまち稲毛(推進協だより27号)発行について ・次期地域福祉計画について
	第3回	3月16日(月) ※新型コロナウイルス蔓延の影響で会議を中止し書面決議とした。	・稲毛区支え合いのまち推進計画の令和元年度進捗状況について ・支え合いのまち千葉推進計画(第5期)策定について ・支え合いのまち稲毛(推進協だより28号)発行について ・令和2年度稲毛区推進協開催予定について ・公民館、稲毛区内市立学校のトイレ洋式化状況について

## ◆区の地域福祉に関する好事例等

※ 記載については、下記1または2により、地域福祉専門分科会に報告する1~2事例をご紹介します。(別添記載例を参考としつつ、枠内に収まらない場合は、A3裏面1枚の範囲で追加いただいて構いません。)

活動主体	山王地区部会
取組概要	地域内で買い物に不自由を感じている方への支援として、社会福祉法人(施設)と地区民児協、地区部会が連携・協力して買い物支援事業「ドライブサロン」を立ち上げた。事前に利用登録した利用者を、デイサービス送迎時間以外で手の空いた施設の車でスーパーマーケットへ送迎しており、令和元年度には従来の食料品店に加え、衣料品店を巡回の対象として、利用者のニーズにより細かく対応できるようにした。
実績・今後の予定	平成30年度より活動を開始し継続中。

活動主体	地域住民、民生委員児童委員、あんしんケアセンターなど
取組概要	令和元年初の台風被害に際し、家屋などの被害への災害ボランティア活動において、そのニーズの情報提供や対応について、地域住民相互の助け合いや民生委員児童委員、あんしんケアセンターの関りによって素早い対応をとることができた。
実績・今後の予定	ボランティアでの対応(7件)の他、近隣住民などの助け合いで相当の件数があった。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>小中台東地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 28,966人、10,506世帯 【町内自治会数】 33町内自治会 【高齢化率】 約27% 【地域の特徴】 地区部会の方が「本村」と呼ぶ園生町(一部)をはじめ、小中台町、宮野木町(一部)は、昔は山と田畑が広がっていた。昭和50年代頃に宅地開発が進み、現在は村時代からの古い住民と、戸建て、マンション等に住む新しい住民が交わっている。エリア内に小中学校が存在していない。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちへ挨拶をするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。また、地域内小学校に依頼してあいさつ標語の作品募集を行い、結果を東西社協まつりや広報紙、掲示板などを活用して広めます。	地区部会が近隣校(小中台小、小中台南小、園生小、柏台小)の協力を得て、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、「東西社協まつり(10/27)」で優秀作品の発表並びに表彰を行い、あいさつ運動に取り組んだ。また、各小学校で民生委員と青少年育成委員会が連携・協力して登下校時のあいさつ運動に取り組んだ。	A	学校等の協力を得た挨拶標語募集の他に、防犯パトロールの機会を利用した挨拶運動をさらに推進し、広報媒体等を通じて啓発を行い、あいさつ運動の浸透を図る必要がある。
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、独居高齢者や高齢者世帯等に対し、日常的な声かけやあんしんカードの配布等を行う他、いきいきサロン参加の呼び掛けなどの機会を活用した見守り活動に取り組めます。	地区部会が独居高齢者や高齢者世帯などに対して、日常的な声かけや携帯用のあんしんカードを配布(120枚)するとともに、町内自治会が独自に作成したあんしんカードを配布するなど、継続的に見守り活動に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会が、町内自治会や民児協等と連携・協力し、住民主体の見守りや支え合い活動を拡充していく必要がある。
	⑥ 地域での福祉教育の普及・啓発	8	地区部会が町内自治会や学校、各種活動団体と連携・協力し、福祉講座を企画(6回)するなど、ボランティア活動の普及啓発に努めます。また、サマーフェスタなどイベントの機会には近隣小中学校にボランティア募集を行い、ボランティア活動の実践を通じた福祉教育に取り組めます。	地区部会主催による講座(3回開催)を開催することで、住民に対して地域ボランティア活動の普及・啓発に取り組んだ。また、サマーフェスタ開催時に、近隣の中学校(小中台中・朝日ヶ丘中)からボランティアとして20人の生徒が参加し、活動を通じて福祉教育の啓発に取り組んだ。	B	地区部会が町内自治会・民児協と連携して、地域住民等に対し、担い手育成のための福祉講座を開催し、福祉への醸成を図るとともに、活動の場の提供を行う必要がある。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地域住民を対象とした福祉講座の中で認知症に関する講座を開催(3回予定)する他、いきいきサロン(12地区142回予定)において健康づくりや介護予防についての啓発を行います。また、開催地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施し、気軽に参加できる健康づくりや運動の機会を増やします。	地区部会があんしんケアセンターや区健康課等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン(12か所、123回開催、延べ1,546人参加)を実施し健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組んだ。	A	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンや健康に関する情報提供などに取り組むとともに、サロン活動等の拡充を図る必要がある。
	⑨ 地域の情報の収集・発信	10	地区部会が作成・発行する広報紙等で広く地域への情報発信に取り組めます。また、地区部会が町内自治会等との情報交換会を企画実施し、地域の活動に関する情報を相互に共有するとともに地域への情報発信に取り組めます。	地区部会や町内自治会が相互に会議等へ参加し、地域活動の情報の共有に努めるとともに、地区部会が広報紙「ふれあい小中台東(4月 1,000部発行)」、「かわら版(7月発行 6,000部)」で地域住民に対して地域活動の情報発信に取り組んだ。また、地区部会が町内自治会と協力し、高齢者等が気軽に集える居場所づくりをテーマに情報交換会を開催するなど、情報収集などに取り組んだ。	A	引き続き、地区部会が地域の各種活動団体等と連携・協力し、イベントをはじめとする地域活動を情報収集し、広報媒体を通じて情報発信に取り組む必要がある。
<b>山王地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 17,421人、8,297世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 約33% 【地域の特徴】 古くは戦時中、その広大な原野は軍の演習地として活用され、終戦後に開墾が始まり、人々が転入して成った地域である。エリアには内陸工業地帯が開発され、主に戸建てが立ち並ぶ。稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接している。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	セーフティウォッチャー、学校と更なる連携を進め、あいさつ運動を更に推進するため、青少年育成委員会や町内自治会、地区部会などとの協力体制づくりを進めます。	地区部会が小学校のセーフティウォッチャー(山王小43名)と連携し、登下校時にあいさつ運動を継続実施している他、6年生を送る会開催時に安全講習会を行い(2月 20人参加)あいさつ運動の共通の規約について情報共有し、町内自治会に協力要請を行った。	A	引き続き、児童・生徒への登下校時や防犯パトロール時のあいさつ運動を行うとともに、活動機会などを介して、住民同士のあいさつの浸透に努める必要がある。
	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、地域の各種活動団体等が連携・協力し、夏まつりやお楽しみ会など幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組むとともに、各イベントにおいて子育てサロンへの参加を促し、子育て世代との地域交流を進めます。	地区部会が町内自治会や地域の関係団体と連携・協力して、夏祭り(6か所・7、8月)や敬老会(4か所・9月)、地域の合同運動会(10月)などのイベントを実施し、多くの地域住民の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が、相互に連携・協力し、既存の地域活動を継続して、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組む必要がある。
	③ 地域で活動している人組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などがイベントや地域活動の際に情報共有を行い、相互の連携・協力体制づくりに努めます。特に、あいさつ運動を中心に青少年育成委員会とも連携して通学の安全を図っていきます。	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などが連携・協力し、各種会議や情報交換会を通じて情報を共有するとともに、地域イベントや防災講座、あいさつ運動など相互に連携・協力して活動の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、地域の各種活動団体が相互の情報共有や地域活動の連携協力を努める必要がある。
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設などと連携・協力し、防犯パトロールを活用した見守り活動や、買い物困難なひとり暮らし高齢者を対象とした買い物支援サービス「ドライブサロン」などの実施に取り組むなど、外出困難な高齢者を対象に、より丁寧な対応を進めます。	町内自治会(山王町中央自治会、山王町南自治会、長沼原台自治会)が一人暮らし高齢者等に対して安否確認等による見守り活動に取り組んだ。また、地区部会が民児協や福祉施設と連携・協力して、買い物困難な一人暮らし高齢者等に対し、昨年度より買い物支援事業「ドライブサロン(2月末現在 協力員登録12人、延べ利用者数176人)」を開始するなど、地域住民主体の活動に取り組んだ。	A	引き続き、いきいきサロンや防犯パトロールなど様々な活動機会を介して住民同士の見守り活動を拡充していく必要がある。
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	地区部会が公民館と連携・協力して防災講座を継続実施すると共に、町内自治会(自主防災組織)が防災訓練や避難所開設訓練などを行う中、より多くの地域住民に参加をもらえるよう日程調整をするなどし、防災に関する意識向上に取り組めます。	地区部会が公民館と共催で地域での防災講座を企画(2月開催 50名参加)するとともに、自主防災組織での防災・避難訓練(37地区連協内の11組織)を実施した。また、町内自治会が避難行動要支援者名簿の情報提供について千葉市と協定を締結し、災害時に備え、必要な情報把握に取り組んだ。	A	引き続き、町内自治会をはじめ地域の活動団体などが相互に連携・協力し、地域住民に対して災害時に備えた危機意識の向上に取り組んでいく必要がある。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>轟・穴川地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 11,208人、5,438世帯	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、老人クラブなど各種活動団体が、地域のイベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会が、民児協などと連携・協力して地域内4カ所で敬老会を実施した他、スポーツ振興会と市民体育祭(10月実施 延べ600人参加)を開催し、地域内福祉施設からの協力も得るなど地域での活動に取り組んだ。	A	引き続き、地域の各種活動団体が相互の活動の理解を深め、連携・協力を図る必要がある。
【町内自治会数】 23町内自治会						
【高齢化率】 約25%						
【地域の特徴】 戦時中、稲毛区役所、稲毛保健福祉センター等の敷地は戦車学校が建つ軍用地であった。その後が開発が進み、エリアには戸建て住宅、市営・県営住宅、マンション等が立ち並ぶ。文教のまちの呼称でも親しまれ、公共機関(教育施設、行政施設等)を内包する。						
⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	2	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン(9カ所)を実施します。また、健康づくりに関するイベントを企画実施して、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が健康課などと協力し地域の高齢者を対象としたいきいきサロン(10カ所 107回実施、延べ1,071人参加)において健康体操や健康相談などを実施している。また、町内自治会が「ジョギング大会」を企画実施し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。	A	引き続き、いきいきサロンや散歩クラブ等の活動を通じて、介護予防を含めた健康づくりの啓発・普及に取り組むとともに、多くの地域住民に参加を促し、健康増進を図っていく必要がある。	
⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	町内自治会が、千葉市と連携し、平常時から災害時要支援者の把握を進めます。また、町内自治会(自主防災組織)等が実施する防災訓練や避難所開設訓練などに支援ができるよう努めます。	7町内自治会(自主防災組織)、民児協が連携し防災・避難訓練などを実施するとともに、4町内自治会が継続して千葉市と災害時の避難行動要支援者名簿の協定を更新するなど、災害時に備えた支援に取り組んでいる。	A	引き続き、町内自治会自主防災組織を中心に、地域住民に対して災害時に備えた支援体制の構築に取り組む必要がある。	
<b>稲毛地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 11,801人、5,644世帯	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会など各種活動団体や学校、幼稚園、保育園などが連携・協力して敬老会やふれあい広場などを企画実施し、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会、各種活動団体及び近隣の小・中学校と連携・協力して敬老会(9/16 623名参加)の開催や、中学校の生徒を対象に子育て中の親子との交流を図るふれあい広場(9/18)を開催するほか、地域の祭(夜灯し)準備に高齢者や大学生、児童とその親が参加するなど、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が、相互に連携・協力し、既存の地域活動を継続して、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組む必要がある。
【町内自治会数】 16町内自治会						
【高齢化率】 約27%	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが、地域のイベント(敬老会やふれあい広場など)を実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが相互に連携・協力し、敬老会などのイベントや会議に取り組んだ。	A	地域活動を継続実施できるよう、地区部会をはじめ各種団体が相互に連携協力を図る必要がある。
【地域の特徴】 南北に延びる稲毛区の最南に位置し、昭和の埋め立てが始まる前は、浅間神社の下に東京湾が広がり、あさりと海苔のまちとして栄えた。エリア内にはJR線と京成線が走り、また、南部には国道も敷かれており、どこへの移動も大変便利である。						
④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して地域内のニーズを把握することに努め、見守り、支え合い活動の必要性について協議します。	地区部会が民児協や町内自治会と協力し、いきいきサロンや、ふれあい食事サービスを通じて、参加者への声かけによる見守り活動に取り組んだ。また、台風により被害を受けた世帯に対し、倒木や瓦礫の撤去など、住民同士の助け合い活動に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会が、町内自治会や民児協等と連携・協力し、いきいきサロン等において、住民主体の見守りや支え合い活動を拡充していく必要がある。	
⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	2 3 4 9	地区部会が公民館や社会福祉施設などと連携・協力し、いきいきサロン(3カ所21回)や子育てサロン(1カ所6回)を実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりの充実に取り組みます。	地区部会が公民館や福祉施設と連携・協力し、いきいきサロン(4ヶ所 27回 延べ311人参加)、子育てサロン(1カ所 6回 延べ165人参加)を実施し、住民同士が身近なところで気軽に集える居場所づくりに取り組んだ。	A	引き続き、住民同士の交流が図れるサロン活動を継続するとともに、できるだけ多くの方が気軽に参加できる機会を創出する必要がある。	
⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロン(3カ所21回)や子育てサロン(1カ所6回)、散歩クラブ(1カ所1回)を実施し、健康体操や健康相談を行うなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組む。	地区部会が区健康課などと連携・協力して、高齢者に対していきいきサロン(4ヶ所 27回 延べ311人参加)や、若い世代に対して子育てサロン(1カ所 6回 延べ165人参加)を行うなど、健康体操や健康相談を通じて、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。	A	引き続き、いきいきサロンなどを通じて健康づくりに取り組むとともに、あんしんケアセンターや区健康課と連携・協力し、活動内容を工夫するなど、多くの方へ普及・啓発を図る必要がある。	

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>稲丘地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 11,619人、5,292世帯 【町内自治会数】 6町内自治会(+1マンション区*) 【高齢化率】 約20% 【地域の特徴】 JR稲毛駅前付近は高層大規模な集合住宅が林立し、若い世代が集中して、戸建て住民を牽引する形で地域意識が好い町作りの方向に変容しつつある。集合住宅と戸建住宅が混在する稲毛の台地部で、快速の停車駅JR稲毛駅と、京成稲毛駅はバスの利用なしで行ける。エリアは6つの自治会から成るが、JR稲毛駅至近に建つ1マンション区(*)が小学校区は稲丘小、地区部会は小中台西エリアに属し、双方の地区部会活動に関わっている。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちへあいさつをするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャー(18人)などが連携・協力し、稲丘小の登下校時に児童へのあいさつや、町内自治会が防犯パトロールの際に、住民への声掛けをおこなうなど、あいさつ運動に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が連携・協力して住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組んでいく必要がある。
	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携・協力し、イベント(夏祭りや敬老会、地区運動会、正月行事など)を企画実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組めます。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会が連携し、夏祭り(7・8月)や敬老会(9月)、町別対抗競技会(10月)、餅つき大会(1月)などのイベントを企画・実施するなど、多くの地域住民が参加交流できる場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体がイベントなど継続して企画実施し、広報啓発を工夫するなど、幅広い世代への参加促進に取り組む必要がある。
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施する際、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組めます。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、民児協などが相互に連携・協力し、夏祭り(7・8月)や敬老会(9月)、町別対抗競技会(10月)、餅つき大会(1月)など地域活動に取り組んだ。	A	各種活動団体が、地域活動を継続的に行うにあたり、引き続き、相互に連携・協力を図る必要がある。
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロンやふれあい食事サービス、ランドゴルフなどを通じて声かけによる安否確認を行うなど、見守り活動に取り組めます。	地区部会や町内自治会などが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロン(5ヶ所55回 延べ696人参加)等の機会を通じて声かけや、地域内の要支援者の情報共有を行うなど、住民同士の見守り活動に取り組んだ。	A	引き続き、いきいきサロンなどによる声かけ見守りを継続するなど、多様な活動機会を介して住民同士の見守り活動に取り組む必要がある。
	⑤ 福祉活動の中核となれる人材の発掘・育成	7	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などがイベントを実施する際、相互に活動協力者の呼びかけを行うなど、人材の確保に努めます。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などと連携し、敬老会や夏祭り、地区運動会などのイベントを通じて相互に活動協力者の確保に努めるとともに、町内自治会の広報等を通じて協力者の呼びかけを行うなど、活動協力者の確保に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が連携・協力して、広報や呼びかけ等により地域の活動協力者の確保に取り組む必要がある。
	⑥ 地域での福祉教育の普及・啓発	8	地区部会が町内自治会や各種活動団体と連携・協力し、地域住民に対して福祉講座を企画するなど、ボランティア活動の普及啓発に取り組めます。	地区部会が町内自治会や行政と連携し、地域住民に対して防災をテーマにした福祉講座を開催(11月)し、ボランティア活動の普及啓発に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会や町内自治会、学校などと相互に連携・協力し、幅広い世代に対して、地域活動の理解を深め、活動協力者の確保に取り組んでいく必要がある。
	⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	2 3 4 9	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館において、ふれあい食事サービス(年18回)やいきいきサロン(5か所 年60回)、子育てサロン(1か所 年11回)を実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組めます。	地区部会が、町内自治会と連携・協力し、町内自治会館などにおいて、いきいきサロン(5ヶ所55回 延べ696人参加)や子育てサロン(1ヶ所 計10回 延べ557人参加)、ふれあい食事サービス(1ヶ所12回 延べ317食)を実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりに取り組んだ。	A	引き続き、住民同士が身近なところで気軽に集える居場所づくりを継続して取り組んでいく必要がある。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課等と連携協力し、高齢者に対していきいきサロン(5か所 年60回)やふれあい食事サービス(年18回)、子育て世帯に対して子育てサロン(1か所 年11回)を実施するなど、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組めます。	地区部会がスポーツ振興会や町内自治会やあんしんケアセンターと連携・協力し、いきいきサロンや子育てサロン、ふれあい食事サービス、自治会における早朝ラジオ体操や、小学校を利用したスポーツクラブ活動などを実施して高齢者や子育て世代に対して健康づくりや介護予防に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が連携・協力して幅広い世代に対してイベントなどを介して健康づくりの普及・啓発に取り組んでいく必要がある。
	⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報を共有するとともに、広報紙(年3回)等により地域の活動の情報発信に取り組めます。	地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報共有を行うとともに、地域住民に対して、地区部会だより(7月:3,600部、11月:3,200部、3月:3,900部発行)や町内自治会の広報紙などにより、地域活動の情報発信に取り組んだ。	A	各種活動団体が、相互に連携・協力して地域の活動情報を共有し、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報の発信に取り組んでいく必要がある。
	⑩ 身近な地域の相談相手の確保	10	地区部会や町内自治会や民児協などが、各々の活動を通じて顔見知りの関係を構築し、身近な相談相手となる関係づくりに努めます。	地区部会が町内自治会や民児協、あんしんケアセンター、行政と連携し、活動を通じて地域住民と顔見知りの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努めた。	A	引き続き、各種活動団体が、地域活動を介して地域住民と顔なじみの関係づくりに取り組んでいく必要がある。
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	町内自治会自主防災組織が千葉市と連携協力し、地域住民に対して、災害時に備えて防災訓練や避難訓練を実施するなど、平常時からの防災への意識の向上に努めます。	8町内自治会が千葉市や消防と連携協力し、地域住民を対象とした防災訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が稲丘小学校で避難所開設訓練(9月)を実施するなど、住民一人ひとりの防災意識の向上に取り組んだ。	A	引き続き、地域住民に対して、防災訓練などを介して、災害時に備えた危機意識の向上に取り組んでいく必要がある。
	⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6	町内自治会等が警察と連携し、地域住民の防犯意識を高めるために防犯パトロールを行うなど、住民同士の防犯活動に取り組めます。	町内自治会が地域内の小・中学校(稲丘小、稲毛小、小中台南小、稲毛中)のPTA、青少年育成委員会と連携し、危険個所のチェックを行い、毎年更新するエリア内のマップを作成するとともに、地域住民へ情報提供を行った。	A	引き続き、各種活動団体が、連携・協力し、地域住民に対して防犯活動に取り組む必要がある。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
千草台中学校地区部会エリア 【人口・世帯数】 72,042人、32,972世帯 【町内自治会数】 9町内自治会 【高齢化率】 約34% 【地域の特徴】 2,100世帯から成る千草台団地を中心に、戸建て、マンション等がある全9自治会で構成されている。エリア内には千葉県総合スポーツセンター、千葉都市モノレールも走り、また京葉道路と国道で分断されているのも特徴的である。最近では萩台町の旧水田地帯に新築戸建の開発が進んでいる。前記の千草台団地の高齢化率は区内1位の48.9%である。地域全体として高齢化率が高く、買い物などが困難な地域である。	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が町内自治会、スポーツ振興会などと連携・協力し、イベント(夏祭りや敬老会、地区運動会、文化祭など)を企画実施し、幅広い世代層が交流できる場づくりに取り組みます。	町内自治会が夏祭り(7月)や敬老会(9月)、どんど焼き(1月)、昔遊び会(2月)など実施する他、スポーツ振興会が夏休みのラジオ体操や地区運動会を継続実施するなど、町内自治会などの広報紙やロコミを通じて、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、地域の各種活動団体が相互に連携・協力して、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組む必要がある。
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会が町内自治会、民児協、スポーツ振興会などと相互に連携・協力し、地域活動に取り組めます。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが夏祭りや敬老会、地区運動会などを相互に連携・協力して開催し、地域活動に継続的に取り組んだ。また、地域内5団体(地区部会、コミュニティづくり懇談会、スポーツ振興会、青少年育成委員会、自治会連協)が実行委員会形式で文化祭(11月)や昔遊び(1月)を継続実施し、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が地域活動を行うにあたり、連携協力を図っていく必要がある。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が町内自治会、あんしんケアセンター、区健康課、スポーツ振興会等と連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン(4か所 年144回)などを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組めます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、シニアリーダー、スポーツ振興会等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン(4か所24回 延べ402人参加)やシニアリーダー体操(1か所11回 延べ161人参加)、グラウンドゴルフ大会、認知症声かけ訓練を実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会があんしんケアセンター、シニアリーダーなど各種活動団体と、連携・協力して、幅広い世代へ健康づくりの情報提供などに取り組んでいく必要がある。
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	町内自治会が地域住民に対して避難訓練等の実施や、千葉市と避難行動要支援者名簿の締結を行うなど、平常時から災害時に備えた支援体制づくりに努めます。	4町内自治会(自主防災組織)で独自に防災訓練や避難訓練を行った他、3町内自治会が千葉市と避難行動要支援者名簿の締結を継続して行った。また、避難所運営委員会を新たに立上げ、災害時の支援体制づくりに取り組んだ。	A	引き続き、町内自治会を中心に各種活動団体が連携・協力して、災害時に備えた支援体制づくりに取り組む必要がある。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針																		
<b>草野地区部会エリア</b>																								
【人口・世帯数】 20,821人、9917世帯	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携協力し、イベント(夏祭りやラジオ体操、敬老会、地区運動会など)を企画実施するなど、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組みます。	町内自治会がスポーツ振興会や青少年育成委員会、子ども会と連携・協力し、夏祭り(7~8月 7か所)や夕涼み会、ラジオ体操(8月 2か所)、敬老会(8~9月 10か所)、防災訓練などを継続して企画実施し、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が幅広い世代が参加できるイベント活動など企画実施し、広報紙などを通じて参加促進に取り組む必要がある。																		
【町内自治会数】 21町内自治会							④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会や町内自治会、民児協、URなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対し、「安心登録カード」や「緊急医療情報キット」などによる住民同士の見守り活動に取り組みます。	町内自治会や民児協、URなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して「あんしん登録カード」や「緊急医療情報キット(4町内自治会)」を継続して配布するなど、地域住民による見守り活動に取り組んだほか、町内自治会の会合等で、見守りに対する啓発活動や、自治会連協での災害に関するアンケート調査を基にした意見交換会などを行った。また、いきいきサロン参加者への呼びかけ等を介して、高齢者への見守りに取り組んだ。	A	引き続き、地域の各種活動団体が連携・協力して、あんしん登録カードやいきいきサロンなどの地域活動を通じて、住民同士の見守りに取り組んでいく必要がある。												
【高齢化率】 約35%													⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	2 3 4 9	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロン(11か所 年132回)や子育てサロン(2か所 年22回)、地域カフェを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン(11会場118回開催、延べ1,679人参加)や若い世代に対して子育てサロン(2会場14回開催、延べ187人参加)を継続して実施するとともに、幅広い世代が気軽に集える地域カフェを行うなど、身近な居場所づくりに取り組んだ。	A	引き続き、地区部会や各種活動団体等が、連携・協力して住民同士が気軽に集える居場所づくりに取り組んでいく必要がある。						
【地域の特徴】 京葉道路の一部、穴川インターチェンジの一部をエリアに含み、概ねエリアの中央を走る国道16号線を境に東西へまたがっている昔は山だらけだったという地域には古くからの戸建て、アパート群の中に新設のマンションが建設され、新旧住民が混在している。エリア内で一番世帯数の多いあやめ台団地は、入居開始から50年以上が経過した今、稲毛区内でも高い高齢化率となっており、住民の3人に1人は高齢者となっている。高齢者(高齢化・孤立死等)と子育て(低所得等)の2つが顕著な問題である。																			⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロン(11か所 年132回)や子育てサロン(2か所 年22回)、地域カフェを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン、散歩クラブや、若い世代に対して子育てサロンを継続して実施するとともに、健康講座や車いす講座、認知症サポーター養成講座などを実施して健康づくりや介護予防の啓発に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会や各種活動団体等が、連携・協力して高齢者に対して介護予防の提供が図れる機会を設けていく必要がある。
<b>緑が丘地区部会エリア</b>																								
【人口・世帯数】 12,210人、4,452世帯	① あいさつから始まる地域との関わり	9	地区部会が学校やセーフティウォッチャー、町内自治会などと連携協力し、学校周辺及び通学路においてあいさつ運動を実施するとともに、防犯パトロールによる声かけを行うなど、地域内のあいさつ運動の浸透に努めます。	町内自治会や老人会が地域の防犯パトロールや、セーフティウォッチャーによる、宮野木小の登下校時の声掛けを行うなど、地域内のあいさつ運動に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が連携・協力して住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組んでいく必要がある。																		
【町内自治会数】 21町内自治会							③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会等がイベント(緑ンピックなど)や交流会(民児協と子どもルーム交流など)の実施の際に相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会をはじめ町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会が、緑ンピック(10/19 713名)等のイベントや、民児協と子どもルームが行う交流会(7/25・7/30)、防犯活動において、相互に連携・協力して地域活動に取り組んだ。また、福祉活動推進員退任者の後任を委嘱したほか、推進員を増員するなどして、これからの地域福祉を担う人材の確保と育成に努めた。	A	引き続き、地域の各種活動団体が地域活動を継続的に行うために、連携・協力する必要がある。												
【高齢化率】 約36%													④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力して、高齢者等に対して日常的な声かけなどによる見守り活動やゴミ出し等、住民同士の支え合い活動に取り組みます。	地区部会が民児協、町内自治会と連携・協力し、地域の高齢者に対して、見守りや支え合いに関する講座(10/15 40名:地区連協共催)を開催し、意見交換や情報共有に取り組んだ。また、一部の町内自治会において、単身・高齢者世帯に対しゴミ出し支援を行うなど、住民同士の支え合い活動に取り組んだ。	A	引き続き、地域の各種活動団体と連携・協力して、住民主体の見守り・支え合い活動に取り組んでいく必要がある。						
【地域の特徴】 柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部をエリアとしている。あやめ台団地内の一街区、二街区はあやめ台小学区、三街区は柏台小学校区と、団地内で学区が分かれている。町がつく場所には古くからの住民と、最近立ち始めた戸建て等に転入してくる新しい方が融合している。																								

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針			
301(作草部・天台)地区部会エリア	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力して、「社協まつり(敬老会)」や「地区運動会」、「都賀の子まつり」、「夏休みラジオ体操大納会」等を実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組めます。	地区部会が町内自治会・スポーツ振興会や学校、施設と連携・協力し、「社協まつり(11月)」、「都賀の子まつり(10月)」、「地区運動会(10月)」、「地域交流バザー(10月)」など各種団体のイベントを介し、幅広い世代が参加・協力し、活躍できる交流の場づくりに継続して取り組んだ。また、4団体(町内自治会・スポーツ振興会・PTA・地区部会)共催で「第3回夏休みラジオ体操大納会(9月)」を開催したほか、小学校と共同で高齢者へのクリスマスカードを配布(12月)、いきいきサロン増設の準備を進めるなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が既存の地域活動を連携・協力し、創意工夫を図り、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組む必要がある。			
【人口・世帯数】 8,243人、3,887世帯				【町内自治会数】 14町内自治会	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力し、高齢者等に対してゴミ出しや買物のお手伝いなど、身近な住民同士の支え合い活動に取り組めます。 また、継続して2町内自治会において、「無事です」ステッカーを活用した安否確認や、行事の参加者へ声かけによる見守り活動に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会が、町内自治会や民児協等と連携・協力し、住民主体の支え合い活動を拡充していく必要がある。
【高齢化率】 約27%				【地域の特徴】 中央区、若葉区との境に接しているため、地域内にある都賀小学校へは稲毛区、中央区から、千草台東小学校へは若葉区、中央区、稲毛区の児童が通学している。また、都賀中へは稲毛区、若葉区、中央区の生徒が通学している。自治会が結成されていない主なマンションは5カ所、350世帯ある。	⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会や町内自治会、民児協、各種活動団体・関係機関が相互に会議等に参加し、情報共有するとともに、広報紙(9月、3月発行)などを通じて地域住民への地域活動等の情報発信に取り組めます。	A	各種活動団体が、相互に連携・協力して地域の活動情報を共有し、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報の発信に取り組んでいく必要がある。
緑・黒砂地区部会エリア	① あいさつから始まる地域との関わり	9	地区部会が町内自治会や学校(セーフティウォッチャー)と連携し、通学路や学校周辺、地域内での声かけを行うなど、住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組めます。	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、防災連絡会(7月)や避難所運営委員会が主導の避難所開設訓練(9月)を実施するなど、地域住民に対し防災に関する意識の向上に取り組んだ他、6自治会において防災訓練を行った。	A	引き続き、町内自治会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組む必要がある。			
【人口・世帯数】 8,846人、4,593世帯				② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して幅広い世代が参加できるイベント「社協まつり(11月)」などを実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組めます。	A	引き続き、各種活動団体が幅広い世代が参加できるイベント活動など企画実施し、広報紙などを通じて参加促進に取り組む必要がある。	
【町内自治会数】 7町内自治会				⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、ポッチャ同好会などと連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン(2カ所 年6回)や、ふれあい食事サービス(年10回)を実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組めます。	A	引き続き、各種活動団体と連携・協力して、いきいきサロンなどを介して健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んでいく必要がある。	
【高齢化率】 約22%					⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して防犯活動協力者を確保し、自転車に防犯ステッカーを掲示するなど、地域内の防犯活動に取り組めます。 民生委員活動を通じて、高齢者等に対し声かけによる安否確認や、一部の町内自治会が、週2回の防犯パトロール等、見守り活動に継続して取り組むとともに、「防犯ステッカー」を防犯活動協力者の自転車に掲示するなどして、地域内の防犯活動に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が、連携・協力し、地域住民に対して防犯活動に取り組む必要がある。
【地域の特徴】 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目~2丁目エリアとし、中心を京成線が東西に走っている。文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。									

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>小中台西地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 21,299人、12,127世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 約24% 【地域の特徴】 小中台1丁目から9丁目までがエリアであり、昔からの旧戸建て住宅の旧住民と、新設の大型マンションに転入して暮らす新住民とが混在しているのが特徴である。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	地区部会が町内自治会・学校・青少年育成委員会と連携・協働し、あいさつをテーマにした標語・ポスターの作品募集を行い、「東西社協まつり(10月)」や広報紙などで作品の広報啓発に取り組みます。 また、地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、ステッカー等により、地域住民に「あいさつ・声かけ運動」の浸透に取り組みます。	地区部会が近隣校(小中台小・小中台南小・園生小・柏台小)の協力を得て、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、「東西社協まつり(10/28 小中台公民館)」で優秀作品の発表並びに表彰を行うとともに、あいさつ運動のステッカーを改訂・増刷して町内自治会の掲示版などに掲示を行うなど、あいさつ運動の浸透に取り組んだ。 また、セーフティウォッチャー(小中台小785名 小中台南小435名 園生小115名)が青少年育成委員や民生委員と連携・協力して、登下校時のあいさつ運動を行った他、町内自治会が防犯パトロールを兼ねてあいさつ・声かけ運動に取り組んだ。	A	地区部会が学校等の協力を得て、あいさつの標語作品の募集を行い、多様な広報媒体や活動機会を通じて広報啓発し、あいさつ運動の浸透を図る必要がある。
	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して「東西社協まつり(10月)」などのイベントを企画実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、商工会、学校などと連携・協力し、幅広い世代が参加交流できるよう企画内容を創意工夫して、「東西社協まつり(10/28 小中台公民館)」を継続的に実施し、世代間の交流に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が幅広い世代が参加できるイベント活動など企画実施し、広報紙などを通じて参加促進に取り組む必要がある。
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協と連携し、一人暮らし高齢者等に対して、日常的な声かけなどの安否確認等による見守り活動に取り組めます。	7町内自治会が一人暮らし高齢者に対して訪問による声かけや防犯パトロール等による安否確認の見守りに継続的に取り組んだ他、地区部会が町内自治会や民児協と連携・協力し、いきいきサロン(12会場106回開催、延べ1,141人参加)の活動を介して高齢者等の見守りに取り組んだ。 また、一部の自治会で平常時のほか、被災時など緊急時の見守りとの2パターンを想定した見守り活動に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会が、町内自治会や民児協等と連携・協力し、住民主体の見守りや支え合い活動を拡充していく必要がある。
<b>弥生地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 1,047人、591世帯 【町内自治会数】 2町内自治会 【高齢化率】 約24% 【地域の特徴】 稲毛区弥生町及び黒砂台3丁目の一部が対象地域。稲毛区の南部に位置し、JR西千葉駅、京成線みどり台駅から徒歩圏内の住宅地となっており、千葉大学に隣接していることも特徴の一つである。弥生町自治会、弥生県営住宅弥生会の2町内自治会で構成され、総世帯数は約450世帯、他の地区部会と比較すると、非常に小さな規模の地区である。地域内に千葉大学があり、学生が多いことから、データ上の高齢化率と比較して実際の住民の高齢化率が高い傾向にある。	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が幅広い世代が参加して楽しめるイベント(「ハロウィン祭り」や「ハーティちゃんの日」など)を企画実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が「ハロウィンパーティー(10月)」や「ハーティちゃんの日(12月)」や「くるま座Q&A」などを企画実施するとともに、町内自治会の回覧や掲示板を通じて、幅広い世代の参加を促して交流の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、地区部会や町内自治会、民児協などと連携・協力して、幅広い世代が参加交流できるイベントなどに継続的に取り組む必要がある。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会があんしんケアセンターや区健康課と連携して、高齢者に対して、いきいきサロン(1か所 年8回)や講座(「出前講座」(年1回)や「くるま座Q&A」(年2回)など)を開催し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組めます。	地区部会が、あんしんケアセンターや行政と連携し、高齢者に対して出前講座や「くるま座Q&A」を1回開催し、健康に関する相談や情報提供を行うとともに、いきいきサロンを7回実施し、健康増進に取り組んだ。	B	引き続き、地区部会が、区健康課やあんしんケアセンターなどと連携協力し、講座などを介して、幅広い世代へ健康づくりの普及啓発に取り組む必要がある。
	⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会が町内自治会や民児協、学校などと連携して、地域の情報収集に取り組み、広報紙や自治会回覧、学校の通知などを通じて地域住民への地域活動の情報発信に取り組めます。	地区部会が、県社協の地域福祉フォーラム事業の一環として弥生小学校、保護者会などと協力して、作成した「地域安全マップ」を新入学児童の世帯に配布したほか、地域との交流事業としての植栽イベントを計画・発信するなど、地域活動の情報発信に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が、相互に連携・協力して地域の活動情報を共有し、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報の発信に取り組んでいく必要がある。

# 若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

## ◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	7	S	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。訪問、あんしんカード配付、広報紙による啓蒙、理解促進等に取り組んだ。 ・重点取組項目外では4地区部会エリアに加え、単位自治会による取組もあり。上記取組に加え、声かけ、目配り、気配り、パトロール、ラジオ体操等事業欠席者への訪問や電話連絡等を実施。
		A 2	
		B 3	
		C 2	
2 高齢者を支える仕組みづくり	6	S 0	・ふれあいいきいきサロンを重点取組9地区部会エリアを含む13地区部会エリア(全44サロン)でいずれも月1回程度実施。創意工夫のもと参加者も担い手も楽しめるプログラム提供に努めた。 ・サロン未実施自治会や未参加者への働きかけ、サロン実施自治会相互での情報交換。 ・上記見守りの仕組みづくりに記載の主な取組内容も高齢者を支える取組となっている。 ・支え合い活動について、3地区部会の主体実施を含め、25団体が生活支援等の活動に取り組んだ。
		A 4	
		B 2	
		C 0	
3 障害者を支える仕組みづくり	0	S 0	各地区部会に設置の障害者福祉委員会が中心となり、施設及び入園者並びに職員訪問、車椅子貸出、障害者のつどいの会での料理教室、手芸教室、バス旅行、障害福祉サービス事業所との連携による納涼大会、そば打ち交流会、餅つき大会、バザー、絵手紙持参訪問、手話講座、ポッチャ講座、施設主催の季節行事参加、知的障害児親の会への参加など各種事業に取り組んだ。
		A 0	
		B 0	
		C 0	
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	9	S 1	・5地区部会エリアで重点取組項目として実施。ふれあい子育てサロン(5事業45回、区全体で9エリア14事業64回)の実施を通じ、地域ぐるみの子育て支援に取り組んだ。 ・重点取組項目外では8地区部会エリアで小中高生等を対象に花植え、紙芝居、絵本の読み聞かせ、工作、音遊び、福祉等学習、風揚げ等季節行事、学校給食会、いきいきサロンでの小学生交流、乳幼児と高校生との交流体験、バザー等の各活動を通じ、子どもにとって多様な体験、交流の場の提供に努めた。
		A 5	
		B 3	
		C 0	
5 健康づくり	7	S 1	・5地区部会エリアで重点取組項目として実施。歩こう会、グラウンドゴルフ、社協だよりへの介護予防関連記事連載による情報提供、握力測定、ポッチャ、健康体操、ラジオ体操、公園清掃等をおし、健康づくりに取り組んだ。 ・健康づくりの一助となるふれあいいきいきサロン等(44事業300回)を全14地区部会エリアにて実施の他、ふれあい散歩クラブ(6地区部会エリア9事業38回)も実施した。 ・上記の取り組みをはじめ、人同士の交流を通じ、体の健康はもとより心の健康づくりにも貢献している。
		A 4	
		B 2	
		C 0	
6 防犯・防災に対する取組み	9	S 0	・防犯について2地区部会エリアで重点取組項目として実施。いずれも町内自治会が防犯パトロールを通じた見守り活動に取り組んだ。 ・防災について4地区部会エリアで重点取組項目として実施。防災マップ作成準備(新規住宅や道路、令和元年の災害発生に伴う被災現場等の確認)、町内自治会に対し自主防災組織設置の働きかけ、防災大会、避難所運営訓練、町内自治会と地区部会による災害時要支援者情報の共有化検討等に取り組んだ。 ・エリアによっては令和元年の災害発生に対し、住民相互の支え合い活動(被災対応)が実施された。
		A 3	
		B 3	
		C 3	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	2	S 1	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。地域活動実施者に声かけし、ふれあいいきいきサロンなど地区部会活動をテーマとした研修を実施、地区部会活動をムービー化しての周知、イベント参加者への勧誘、市ことぶき大学校学生へのボランティア研修等に取り組む、人材確保につながった。 ・ボランティア講座(7地区28回)の実施をはじめ、地区部会広報紙や各種事業案内チラシの中でボランティア募集を実施した。
		A 1	
		B 0	
		C 0	
8 福祉教育・啓蒙	2	S 0	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。ふれあい祭を通じた子どもたちとのふれあい、夏季及び冬季休業時に学校と地域との連携による工作教室や音遊びの実施、高校、地域住民並びに地区部会の連携によるふれあい子育てサロンの実施、各種講座を実施した。 ・ふれあいいきいきサロンをはじめとした各種地区部会事業の中での世代間交流、全14地区部会エリアで発行の広報紙による地域福祉活動の周知啓蒙に取り組んだ。
		A 2	
		B 0	
		C 0	
9 地域のつながりづくり	13	S 0	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。歩こう会、ラジオ体操、セーフティウォッチャーによる登下校時の見守り、挨拶、声かけ、芋煮会、バス旅行、風揚げ、グラウンドゴルフ、バザー等の各事業を通じた人同士のつながりづくりをはじめ、隣接地区部会協働による講座実施、介護や認知症等のテーマ設定のもと多職種による地域ケア会議を実施した。 ・サロンなど人、団体同士が連携実施する事業は全て地域のつながりづくりの一助となっている。
		A 6	
		B 7	
		C 0	
10 相談支援体制と情報提供の充実	3	S 0	・8地区部会エリアで重点取組項目として実施。福祉のまちづくりに向けた町内自治会同士の情報交換実施検討、地域ケア会議での地域課題の共有と各参加者の役割確認、サロンでのあんしんケアセンターとの連携による相談窓口の設置や介護保険等の情報提供に取り組んだ。 ・全14地区部会エリアで広報紙を発行。地域福祉に関する多様な情報提供を実施した。
		A 1	
		B 0	
		C 2	
今年度の振り返り	58	S 3	・目標に対する達成状況を区全体で見ると、S・A・Bの割合が9割近くに及んでいる。目標越え(5.2%)はもとより、概ね達成(48.3%)及び一部達成(34.5%)の2項目で8割を超えていることは、地域の実情に応じ絶やすことなく活動に取り組んだ成果であり、計画の前進となった。 ・上記結果は、担い手側のチームワークと創意工夫による事業実施、それらに安心を感じる参加者側とがゆるやかに温かくなつていく土壌が地域にあることが大きな一因となっている。
		A 28	
		B 20	
		C 7	

今後の課題と方針	当該3か年計画の初年度に地域福祉活動における共通課題として、「①中核となっている方の後継者不足」「②実働部隊の人員不足」「③地区部会活動が地域に浸透していない」「④他組織との情報共有不足」「⑤拠点が無い地域」の5項目が抽出され、中でも①②の「人不足」が喫緊の課題の中、広報紙等による人員募集、イベント時の声かけなどにより新たな人材確保となった事例もある。各共通課題の改善とともに地道ながらも重点取組項目を中心に計画推進を図ってきたい。
----------	---

## ◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日			主な議題等
令和元年度	第1回	6月26日(水)	(1)新年度の推進協議会委員の交代について (2)訪問看護について (3)年間スケジュールについて (4)推進協だより(第27号)について
	第2回	9月18日(水) 台風災害対応により中止	
	第3回	12月17日(火)	若葉区支え合いのまち推進計画重点取組項目の進捗状況について
	第4回	3月4日(水) 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止	

## ◆区の地域福祉に関する好事例等

※ 記載については、下記1または2により、地域福祉専門分科会に報告する1~2事例をご紹介します。(別添記載例を参考としつつ、枠内に収まらない場合は、A3裏面1枚の範囲で追加いただいて構いません。)

- 地域での取組みのうち、下記のような事例
  - 住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり(「我が事」の地域づくり)
  - 地域生活課題を包括的に受け止める体制の構築(「丸ごと」の地域づくり)
  - 新たな社会資源の創出に向けた取組み(予定含む)
- コミュニティソーシャルワーカー等の専門職が関わる支援のうち、下記のような事例
  - 複合的な課題を抱える世帯に対し、多機関が協働してチームアプローチを行った支援
  - 新たな連携先として開拓した組織・団体・専門機関(予定含む)

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8～10割)  
 B:一部目標を達成した。(5～7割)  
 C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>坂月地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 4,037人、1,850世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	・毎年実施している、歩こう会(2回)、グラウンドゴルフ大会(1回)の回数を、計4回に増やす。 ・ラジオ体操の会場について、地域に働きかけ、一か所増やす。	ラジオ体操は2か所で実施(坂月台・小倉町) ・グラウンドゴルフは1回、「歩こう会」は1回実施。 (2回目の歩こう会は新型コロナウイルス感染防止のため中止)	B	・ラジオ体操の会場を増やすこと(会場・人員) ・グラウンドゴルフ、歩こう会の日程の他団体との日程調整
【町内自治会数】 5町内自治会						
【高齢化率】 22.7%						
【地域の特徴】 戸建住宅が少しずつ増え、新住民も増えてきているが、多くの生徒は、千城台西小学校へ通学しているため、エリア内にある坂月小学校(市内で最少人数)に通学する生徒は少ない。						
⑭ 防犯・防災意識を高め実践する。	6	3年間のうち、2年目で防災マップを発行する。	・マップの作成は来年度として、作成はしていない。 ・新たな住宅、道の把握、被災状況の把握を実施。	C	・住宅、道路などが随時新設、変更されるため、防災マップへの最新情報の落とし込みが必要である。検討し、進めたい。	
⑯ 地域福祉に関する情報の発信	10	広報誌「あさつゆ」に関して、様々な福祉の観点から、広報誌の内容の拡充・回数の増加を目指す。3回の発行を目標とする。	・広報紙「あさつゆ」を2回発行	C	・H29年度まで年2～3回の発行だった広報誌を年4回発行とした中、広報の記事の拡充と収集をどう進めていくかが課題である。	
<b>貝塚地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 6,113人、3,163世帯	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	9	・従来から行っている都小学校セーフティウォッチャーによる登下校時の見守りや北貝塚小学校の登下校時の見守りの充実を図る。 ・高齢者への声掛けを心がけ、サロン開催時に状況を確認し、必要な対応を検討する。	セーフティウォッチャーの増加はできなかったが、信号機のある歩道で自動車の違反通行を防ぐため、北貝塚小の校長先生とともに東警察に信号機や横断歩道の改善を依頼した。 北貝塚小で夏休み前集会に出席し、あいさつ励行と交通事故注意を話す。	B	セーフティウォッチャーを増やすには、理解を深める努力をすること。その為にもっと話をする機会を作る。高齢者への声掛けのために、ふれあう機会を増やす検討をしていく。
【町内自治会数】 9町内自治会						
【高齢化率】 19.6%						
【地域の特徴】 代々続く旧家の多いエリアと、造成地へ戸建てが立ち、そこへ住む転入住民、賃貸住宅の多いエリアなどが混在し、古くから住宅のあるエリアでは2世代、3世代同居の家も多い。						
④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	従来から行っている健康セミナー、芋煮会の行事の内容を充実させ、世代を超えて楽しめるように工夫する。地域(各町会自治会)において、魅力あるイベントを企画・実行する(医療関係、手芸等の講座の開催)。	・恒例の健康セミナー、芋煮会はジャズ演奏に加え、綿あめ機を用意して子どもの参加を増やすことを企画。 ・ふれあいのために行ったサロン貝塚くらぶは、令和2年に入り、コロナウイルス対策のために中止とした。講座も予定の企画を一部中止。	B	他の地域の行事が多く、企画の日程が窮屈となりがちで高齢者のふれあい行事が作れない。	
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	・地区部会が地域の高齢者の仲間づくりや交流の場として、ふれあいいいききサロンの立ち上げ、充実を図る。 ・自治会単位で行っているサロンを地区全体へ拡大する。 ・従来から行っている「お話し会」(子どもが集まり、工作をしたり自由に過ごしたりする場)の充実を図る。	・サロン貝塚くらぶは2年目となり、工夫や催し物を考えて、充実を図った。出席者数も増加傾向となっている。また、子どものお話し会も2回行った。しかし、令和2年に入り、コロナウイルス予防で一部サロンを中止した。	B	・サロンを一層充実したいが、担い手不足であり、他の企画を含め、難しいのが実情。 ・多くの参加者を集めるためには、会場の問題もある。	
⑨ わたしたちのまちの福祉を考える会(仮称)の設置	10	令和元年度は、定期的な情報交換を通して、各町内自治会のそれぞれ状況にあった福祉を検討する会を作る	企画した情報交換会は、後半に開催を考えたが、台風やコロナウイルスのために機会が作れなかった。	C	各町内会、自治会の情報を集め、共通の話題に対する企画を考える方法を検討したい。新しい住民と昔からの住民との融和を図る話し合いをしたい。	
⑬ 防犯活動の実施	6	・町内自治会等で、定期的に防犯パトロール活動を実施する。 ・パトロールの人員増を図るとともに、未結成地区を無くす。 ・高齢者のサロン等で「振り込め詐欺」などの例をあげ、注意を促す。	・町内会、自治会の単位で防犯パトロール活動は実施した。 ・交番の警察官とも話し、防犯のために回覧を作成し注意を促す。	C	・防犯パトロールの参加者を増やすことが難しい。	
⑭ 防災・減災活動の実施	6	・各町内、自治会で防災組織は整っているため、内容の充実を図る。 ・PR活動により、災害(地震等)の確率が高い地域であることの認識を高め、助け合いのできる雰囲気づくりを行う。 ・防災に関する講座を開催する。	・防犯訓練に参加し、実践する準備を高める。	C	・台風の被害によって、災害への意識は高まったので、具体的な準備の企画を考えていく。 ・自主防災組織はあるが、実際に使える人材が少ない。(チェーンソー・発電機)	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8～10割)  
 B:一部目標を達成した。(5～7割)  
 C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>桜木地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 15,212人、7,037世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	・子育てサロン「ととけっこー」を年9回実施する。 ・「ととけっこー」の安定した運営を図るため、ボランティアを増やし、多くの人々がサロン運営に関わることができる仕組みづくりを行う。 ・地域の子育て関連施設との連携を行う。 ・協力者の延べ人数を47人を目標とする。	・子育てサロン「ととけっこー」を年8回実施した。(4月、5月、6月、7月、10月、11月、1月、3月) ・桜木保育所年長児が3回(10月、11月、1月)に分かれて、保育所の先生2～3人で引率の下、サロンに遊びに来てくれた。	A	・今年度前半は開催日の天候不良のため、桜木保育所の訪問月が後半に集中してしまった。保育所の訪問月がずれると、予定していた活動内容に変更が生ずるので、活動内容のバリエーションを増やしておくことが必要だと感じた。
【町内自治会数】 20町内自治会						
【高齢化率】 24.6%						
【地域の特徴】 幹線道路が複数本通っており、地域を分断している。 住宅地が多く、古くからの住民に加え、新住民が増えてきている。						
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	・高齢化が進む中、各町内会においてそれぞれ工夫を凝らし、「ふれあいいきいきサロン」を月に1～2回実施しているが、今後は多くの高齢者が集えるサロンを目指し、ボランティアの参加も増やしたい。サロンを一か所増やすことを目標とする。	・昨年度同様、7サロンが活動しました。概ね、どのサロンも月1回活動。ボランティアは各月25名程度が参加してくれました。 ・いきいきサロンを実施していない自治会に声掛けをしました。(1件)	B	・会場となる場所の不足。自治会館を持っていない自治会の場合 ・担い手の不足。	
⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	地域住民の健康増進と親睦の機会として、 ①スポーツ振興会主催「歩こう会」に協力する ②地区部会主催「グラウンドゴルフ大会」を開催する ③子どもから高齢者まで、多世代に渡る参加者(見学・応援等含む)を増やす 今年度は2イベント参加者総数を540人を目標とする。	<参加者数:530人> ・歩こう会参加者数:472名 (60歳以上:283名、60歳以下:128名、小学生以下:61名) ・グラウンドゴルフ参加者数 50名 運営手伝い8名 ・今年度は自治会参加チームが8チームから9チームに増えた。自治会の役員が交代したことで社協地区部会の活動に目を向けてもらえたのかもしれない。 ・これまでグラウンドゴルフ大会実施日は貝塚中学校教育委員会理事会と重なっていたが、今年度はグラウンドゴルフ大会を1週間遅らせた。これまでよりも運営協力者の確保がし易くなった。	A	・グラウンドゴルフ大会の冬季開催 →実施時期の検討。他の事業との調整ができるか。 ・イベントへの参加者・参加チームの伸び悩み →地域へ丁寧な声掛け。魅力ある企画内容	
⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	地区部会に所属する町内自治会において、見守り活動の体制づくりを検討する。 今年度は、見守り活動実践例等の研修を行う	・見守りをテーマにした研修は実施できなかった。 ・毎年12月に地区部会から慰問金配布を実施している。今年の対象者は、80歳以上独居高齢者227名、寝たきり高齢者5名、18歳未満心身障害者15名だった。地区部会理事・地区担当民生委員が中心になって各戸を訪問し、本人の安否確認をしつつ慰問金を手渡している。	C	・各自治会の実態がまだつかみきれていない。	
<b>小倉地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 13,172人、6,054世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	・地域の実情を把握しながら、現在、若松公民館で開催している「子育てサロンびーなっつ」の他に、地区部会エリアの中心地である小倉台中央自治会で「子育てサロン」を開催する。 ・子育て相談会、絵本の読み聞かせや、手遊び、友達作りのおしゃべりタイムを実施。 ・周知方法として回覧板、ポスターの活用や、公園等でのチラシ配りを行う。	・13町内自治会へ回覧で周知をはかる。 ・エリア内にポスターで周知。 ・子育てサロン「びーなっつ」でのPR。 ・「小倉子育てサロン」開催＝11/8(金)小倉台中央自治会館に於いて 参加者:45名(保護者20名、子ども25名) 内容:絵本の読み聞かせ、栄養相談、保健師相談、おしゃべりタイム、おやつタイム	B	・内容の充実をはかる。 おしゃべりタイムの時、手作りおやつを紹介などをしていきたい。 (アレルギー体質のお子さんへの配慮をする。) ・スタッフの人数が少なく、回数が1回に終わっているため、年2回開催に向けて、社協全体の活動として捉えていければと考える。
【町内自治会数】 12町内自治会						
【高齢化率】 28.2%						
【地域の特徴】 約1,600世帯が属する小倉台中央自治会(小倉台1丁目～小倉台7丁目)がエリアの中心にある。千葉都市モノレール小倉台駅を中心に、南北には戸建て主に住宅からなる住宅街と一部集合住宅(市営・県営)、幹線道路沿いには商店街が広がる。						
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	現在、毎月1回、小倉自治会館で「いきいきサロン」を実施している。遠方の高齢者の参加が難しく、参加人数が固定化しつつある一方で、少しずつ新しい顔ぶれも増えている。出来るだけ頻りに声掛けを行う。	・開催日:毎月1回(奇数月第4水曜日、偶数月第4木曜日) ・場所:小倉台中央自治会館1階ホール ・内容:運営委員会で2月に企画会議を開き、4～3月までの年間計画を作成し、実施。6月ポッチャ体験、9月トレーナーによる運動、11月防災出前講座など実施。 ・参加者:平均19名(12月クリスマス会28名、1月食事の話23名) ・会費:茶菓代100円 ・その他:毎月回覧で周知をはかった。	A	・内容によって参加者数が異なるので、更に充実をしたい。 ・男性の参加者が少ないので、ロコミで増やしていきたい。 ・参加者の感想をアンケートなどで把握し、運営に役立てていければと考えています。今まで実施したことは無い。	
⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	・「安心カード」を、75歳高齢者全員に配布したが、さらに町内自治会と協働してエリア内の必要な方全てに配布する。 (エリア全体への配布を考えて、当初の目標を600枚としたが、自治会への依頼が難しかったため、目標は200枚と訂正する。)	・75歳に達した方々に配布。民生委員さんの活動の中で取り組んでいるので、スムーズに行われている。100名配布	B	・配布した後の管理などを確認することがなかなか出来ない。 ・保管している事例を写真に記録し、民生委員が対象者宅への訪問の折にそれを提示することにより、状況確認がしやすくなるので、実施出来れば良い。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針													
白井地区部会エリア	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	高齢者の仲間づくりや交流の場となる「ふれあいいきいきサロン」を町会単位で月1回~年数回実施している。現在は8か所で開催中。 3年後には、サロンの担い手を増やすとともに、実施する町会を10か所に拡大する。実施している町会同士の交流会において、運営ノウハウを共有することで更なる町会の拡大を図る。	・11月16日(土)白井地区部会主催でボランティア講座を実施、30人参加。テーマとして、白井地区で直面している「買い物支援、いきいきサロン、高齢者見守り、ふれあい食事会」の実施と課題についてグループワークを実施。 サロン実施個所が1か所増加した(高根グリーンタウンで3か所目:ほのぼの亭) ・高根グリーンタウンでは、12月1日「あんしんケアセンター大宮台」と連携して、ほのぼの亭で「認知症講座」を開催。20名が参加、好評を得た(民生委員が企画・推進)。	A	・サロン実施内容がマンネリ化していることが課題。 ・他自治会で実施しているサロン見学、実施者との意見交換、ボランティアによるサロン・イベントなどを検討する。													
【人口・世帯数】 7,023人、3,413世帯			⑧ 活動の中核となる人材の発掘	7	・組織は人なり。福祉活動の中核となる人材を発掘し福祉活動推進委員の増員を図る。(現在7人→9人目標) ・ボランティア講座を年1回開催し、地域の組織(17連協、民児協、日赤奉仕団、ことぶき大学校、シニアリーダ等)と連携して、地域ボランティアの登録人数を増やす。あわせてボランティア活動・研修会を通して、その要員を育成する。	・11月16日に地域のボランティア実施者を対象に、白井地区の福祉課題4つのテーマでボランティア講座を実施しグループワークを実施し盛況であった。 ・実施内容を記録(ムービー)し、社協関連の会議に周知(放映)している。 ・民生委員、福祉活動推進員の委嘱期限の年になり、各委員になり手が不足している。 ・ボランティア募集方法として、何が出来るかの登録としたが、登録する方からは具体的な実施項目が書かれている方が参加しやすいとの意見があった。	B	・地域の担い手不足(民生委員、福祉活動推進員) ・地域で必要とするボランティア内容を具体的に募集する方法を検討する。今年度の実績をベースに、ボランティア実施案内(仮称)など検討する。 ・ボランティア講座は、白井地区部会で実施するボランティア内容に沿ったテーマとする。例えば、施設ボランティアで、夏祭り等のイベント時、話し相手などを求められているので、「傾聴、話し方」スキルを向上させて、施設ボランティアの対応範囲を広げる。											
【町内自治会数】 18町内自治会					⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	① 白井地区部会が、各自治会から、いきいきサロンの実態状況を把握する。情報交換や課題を議論し、地域で問題解決ができる仕組みを作る(福祉ネットワーク会議)。 ② 見守り活動、買い物支援等の諸課題を検討し、千葉市あんしんケアセンター大宮台の協力を得て、課題解決に向けて話し合う「地域ケア会議」を開催する。	①老人施設「第2いずみ苑(中田町)」と連携して、2月19日近隣高齢者を対象に「ふれあい食事会(施行)」を実施した。 ・今回は需要調査のアンケートを含め無料で実施。参加者15名を施設のバスで送迎する形態。ボランティア保険に加入、施設と白井地区部会で確認書を交換し、責任の分界点を明確にして実施する。 ・本格実施時は、費用は600円(食事代500円、運営費100円) ②地域ケア会議 ・地域における認知症の対応について。認知症の進行度合いに応じて、民生委員、あんしんケアセンター、警察、医療、近隣者など関連組織を巻き込んだサポート会議を実施した。今回は民生委員中心の問題解決となったが、今後はこの事例と体験をもとに、地域福祉の問題を検討する場に拡大して行きたい。	B	・ふれあい食事会は、次年度から本格実施に向けて継続検討する。検討事項:月1回、参加者15人程度で実施、参加者の確保、付き添い人(ボランティア)の確保等									
【高齢化率】 42.7%							⑭ 防災・減災活動の実施	6	現在、白井地区部会エリアで、自主防衛組織が組織化されているのは、18自治会中10自治会である。 各自治会が自主防災組織を立ち上げることを目標として、3年後には12自治会に増やす。	・今年度の自主防災組織の増加(目標)を、代議員会(5/25)で17連協(自治会長)に依頼した。 ・既に組織化されている本郷自治会では、有事に備えてさらに資料の整備を実施している。 ・平成30年に、白井地区住民交流協議会が発足し、今年度から白井地区の防災大会を実施、盛況であった。内容は、白井小学校で実施。消防署(白井地区の消防団含む)、千葉市防災インストラクター、日赤25分団等と連携)、参加者200人により、防災イベント(担架搬送、大声コンテスト、救急救命、防災クイズ、炊き出し演習など) ・白井地区では、台風15、19、21号の甚大な被害を受け防災意識が高まっている。	B	・未組織の自治会(千葉中、和泉、川井団地、あゆみ、大広、佐和、五十土、北谷津)の防災対策の現状把握と対応方法を確認する。 ・白井地区防災大会を継続実施することにより、各自治会・避難所運営委員会と連携し、地域防災意識の向上を図る(自治会単位の防災訓練実施状況などを把握、推進する)							
【地域の特徴】 対象エリアが非常に広く、大きく3つの地域(西部・東部・中部)に分けられ、それぞれ異なる歴史・成り立ちを持ち、昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	9							①社協主催事業以外でCD放送 ②新入学期登校児童に対する挨拶運動の実施	新入学期登校児童に対する挨拶運動の実施	B	・最近児童が少ないことから父兄が自動車まで送ることが多い。 ・学校の行事に参加した際には積極的に挨拶する。							
【町内自治会数】 13町内自治会			④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9						現在、下田町自治会館及びその周辺では、親子・友達との交流の場として毎年12月に親子凧揚げ大会を実施している。中学生、高校生、大学生等の参加協力を促す。	親子凧揚げ大会の実施。	A	・屋外での行事のため天候に左右される。本年度は曇りで寒く、風もなかったことから凧揚げには適さなかった ・毎年12月の第1日曜日に実施していることが定着し、知られるようになった。						
【高齢化率】 38.9%					⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4				現在、更科公民館では、地域の高齢者の仲間づくりや「交流の場」として、ふれあいいきいきサロンを月1回実施している。 今後、サロンの担い手を増やし、地域の自治会館を活用してサロンを実施していく。	ふれあいいきいきサロンの実施	A	・サロン参加者がいつも同じで新規の参加者がいない。 ・サロン参加者を増やすために、もう1か所住まいに近いところで実施する。						
【町内自治会数】 13町内自治会							⑮ 災害時に避難できる体制づくり	6		①避難所開設、運営マニュアル作成 ②避難所運営訓練実施、運営マニュアル見直し	避難所開設運営マニュアル、避難所運営訓練実施。 令和元年9月9日の台風15号により、当地区は甚大な被害を受けたが、各町内自治会を中心に活動した。	A	・町内自治会が実施する。 ・各町内自治会は、独自に協力し合うことが以前からできあがっていることから新たに造ることは難しい。						
【地域の特徴】 対象エリアは非常に広いが、住基人口(2,683人)、世帯数(1,237世帯)は区内で一番少ない。 多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くなく、高齢化率は高いが、現役農家世帯が多く、元気な高齢者が多い。	① 人口・世帯数 2,683人、1,237世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施							9	現在、下田町自治会館及びその周辺では、親子・友達との交流の場として毎年12月に親子凧揚げ大会を実施している。中学生、高校生、大学生等の参加協力を促す。	親子凧揚げ大会の実施。	A	・屋外での行事のため天候に左右される。本年度は曇りで寒く、風もなかったことから凧揚げには適さなかった ・毎年12月の第1日曜日に実施していることが定着し、知られるようになった。						
【町内自治会数】 13町内自治会			⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4										現在、更科公民館では、地域の高齢者の仲間づくりや「交流の場」として、ふれあいいきいきサロンを月1回実施している。 今後、サロンの担い手を増やし、地域の自治会館を活用してサロンを実施していく。	ふれあいいきいきサロンの実施	A	・サロン参加者がいつも同じで新規の参加者がいない。 ・サロン参加者を増やすために、もう1か所住まいに近いところで実施する。		
【高齢化率】 38.9%					⑮ 災害時に避難できる体制づくり	6												①避難所開設、運営マニュアル作成 ②避難所運営訓練実施、運営マニュアル見直し	避難所開設運営マニュアル、避難所運営訓練実施。 令和元年9月9日の台風15号により、当地区は甚大な被害を受けたが、各町内自治会を中心に活動した。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
御成台・千城台西北地区部会エリア	② 子育てしやすい環境づくり	4	平成28年度に新規立ち上げをして3年目となり、軌道に乗ってきた。一方でリーダーに頼り過ぎてしまうので、ボランティアが積極的に絡んでいけるよう取り組む。	・「赤ちゃんと季節のイベント」をテーマに、写真撮影をしながらの親同士の交流の場である。本年度は2ヶ月に1回、予定通り年6回開催した。 ・毎回十数組の参加があり、リピーターも多くお互いに顔見知りが増えて和やかな中で開催できている。	S	・お母さん同士の情報交換の場となっており、少しでも癒しの時間が作れればいい。イクメンパパの参加もあり、それが一般的になるように望む。 ・近隣の子育て施設との交流をさらに進めていければよい。
【人口・世帯数】 10,272人、4,775世帯				⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	・介護予防・健康づくり講座を定期的に開催する。 ・各自治会が事業の一環として取組むことができるようサポートする。
【町内自治会数】 18町内自治会	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	関係団体との情報交換体制を進める。定期的に協議ができる自治会などの関係団体2団体と体制を築く。	・千城台東南・金親地区部会と共同で、講演会や健康づくり講習会を開催し、同地区部会からも多くの方に参加していただいた。 ・千城台地区の夏祭実行委員会と連携し、夏祭会場に健康長寿ブースを開設して地元との交流を深めることができた。 ・近隣自治会との交流を深める目的もあり自治会行事に積極的に参加した。その結果、人脈はできつつあるが、自治会役員の高齢化、毎年役員が代わっていく不連続性の中で実効ある連携を行うのは難しかった。	B	・「支え合い、助け合い」活動は自治会との啐啄同時が課題。自治会内部から声をあげてもらえるように良好関係を築きたい。 ・本年度、地域運営委員会の設立の話がある。緩やかに情報交換ができることを期待。
【高齢化率】 34.0%				千城台東南・金親地区部会エリア	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4
【町内自治会数】 17町内自治会	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	高齢化社会を迎え、当地区も例外なく高齢化と独居者が多くなっている。可能な限り、屋外活動や連携・交流ができるよう支援したい。	・当該取組項目については、御成台、千城台西・北地区部会さんと合同講演会を実施。 ・支えあい組織たんぼぼ会は、付添い、買物、ゴミ出し、その他を含め、年間700件程のお手伝いをしている。(ゴミ出しの組織表を別添) ・ふれあい給食の月4回の宅配は、見守りの役目も果たしている。待ってくれてお話が長くなることも。 ・高齢者の屋外活動、交流の支援としてグラウンドゴルフ、料理教室(2回)、バス旅行を実施。特にバス旅行は楽しみにしている方が多い。	A	・たんぼぼ会、ふれあい給食、いずれもボランティアの高齢化が課題である。特に配食お弁当の受け取り、容器返却のための車の運転(免許返納が多くなる)。 ・料理教室、グラウンドゴルフ、バス旅行の募集のお願いが自治会によって回覧日が異なるので、徹底は難しい(申し込み〆切日より遅く回覧されることもある)。 ・チラシとは別に知人、友人に声かけも必要かと思えます。
【高齢化率】 36.4%				⑮ 福祉こころを育む活動の実施	8	老若男女の交流とふれあいを目標とする。
【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	※気軽に過ごせる場所づくりということでサロン活動の報告をします。 ・サロン憩(東町自治会館)登録17名 平均12名 出席率70% ・サロン東町(東町教会)登録12名 平均10名 出席率83% ・サロン南町(南小学校)登録11名 平均8名 出席率73%(登録は増えました) 参加者同士の交流も深くなり、楽しみに参加される方が多いです。				

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>26地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 7,788人、3,522世帯	③ 公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	9	・ラジオ体操を、全会場で継続して実施する。 (大宮台:4回、北大宮台:2回、いずみ台ローズタウン:2回、他町内自治会単位:5回 合計:13回) ・グラウンドゴルフ大会、ふれあい食事会への参加を促進して住民の交流の場をつくる。	・ラジオ体操を継続し健康づくり、地域住民の交流に取り組んできた。 8自治会で13か所で実施することを目標としてきたが、参加者との減少等により9か所での実施となった。 ・グラウンドゴルフは年一度大宮中学校の校庭で、各自治会住民の交流機会を図るために実施している。	B	ラジオ体操での健康づくり・交流を図ってきたが、参加者の減少が見られ継続が難しくなっている。地域によっては取りやめた箇所もある。 開催場所を見直し、多くの人が参加できるように検討する。 26地区のグラウンドゴルフは年一度大宮中学校の校庭で実施している。参加者の減少がみられることから参加促進を図りたい。
【町内自治会数】 8町内自治会						
【高齢化率】 44.6%						
【地域の特徴】 徒歩圏内に鉄道の駅はなく、公共交通機関はバスのみ。 当該エリアの中心である大宮台団地は昭和36年~42年にかけて、千葉県住宅供給公社により開発された大規模団地(当時戸建住宅2,040戸)である。隣接はしないもののいずみ台ローズタウンを内包する。	⑦ 地域のできる介護予防・健康づくり	5	早起きラジオ体操、元気で歩こう会、安心カード、安否確認電話連絡、高齢者見守りネットワーク、一人で避難できない人の介助、公園清掃除草、ゴミ出し支援、買物支援などの各種事業について、各自治会が必要に応じ実施し、健康でいきいき暮らせる事業の継続を目指す。	各自治会が健康でいきいきと暮らせる事業の継続を目指し、ラジオ体操・元気で歩こう会・安否確認電話連絡・高齢者見守り・買物支援・公園清掃除草事業を実施している。	B	実施できなかった安心カード・一人で避難できない人の介助・ゴミ出し支援については、他の会の事例などを参考にしながら検討したい。
⑬ 防犯活動の実施						
<b>若松地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 19,749人、8,859世帯	② 子育てしやすい環境づくり	1	参加者の増加へ向けた周知の方法を工夫し、内容の充実を図る。	・若松台3丁目自治会館における子育てサロンは5回実施した。 ・北部自治会集会所は8月から開始し3回実施した。	C	・少子化が進んでいる上、若松台3丁目自治会館は四街道の児童センターに近く、参加者を増やすことに限界を感じる。 ・子育てサロンのニーズを再考する。
【町内自治会数】 13町内自治会						
【高齢化率】 26.9%	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	・いきいきふれあいサロンの開催場所、回数の増加を図る ・地域のできる介護予防のコラボを考える。	・北部自治会において以前開催したふれあいいきいきサロンの参加者から依頼があり、3回目の「お手玉」教室を開催した。 ・南部自治会において定期的にふれあいいきいきサロンを開催した。	B	・各自治会に取組を広げることが課題 ・若竹保育園周辺の地域において新たにふれあいいきいきサロンの開催を予定している。(自治会の枠を越えた拠点の設置)
【地域の特徴】 地区部会対象エリアがとて広く、住基人口(19,749人)、高齢者数(5,314人)、世帯数(8,859世帯)は区内エリアで二番目に多い。 若松台2・3丁目の高齢化率(44.5%)が非常に高い。						
⑮ 福祉のこころを育む活動の実施	7	若松高校における子育てサロンの後、生徒に向け社会福祉協議会の構成メンバーによる地域の福祉活動について紹介する。	・若松高校2年生8クラスの家庭科の授業で子育てサロンを実施し、その後地域福祉について伝えることができた。 ・子育てサロンに参加・協力してくださる親子も増えた。	A	・令和2年度の学校側の方針が不明。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
加曽利地区部会エリア	⑧ 活動団体同士の連携・交流	4	・地区部会とあんしんケアセンター桜木が連携し、地域の関係団体等が課題解決に向けて話し合う場である「加曽利町地域ケア会議」を定期的に開催する。 ・地域で、助け合い活動や見守り活動を実施する団体同士の情報交換や意見交換を定期的に行う。 ・地区部会、町内自治会、民生委員・児童委員協議会等が情報交換や意見交換を定期的に行う。	「地域ケア会議」を実施した。内容については 1.「訪問看護のかしこい使い方」について 2. 地域包括ケアセンターの役割について 3.「訪問看護の利用者との看護内容」について 4. 訪問看護リハビリステーションの役割について	A	2025年団塊の世代が75歳になり益々高齢者の課題が多様化する。相互に意見交流が出来、課題解決に取り組んでいかなければならない。
【人口・世帯数】 6,641人、3,160世帯						
【町内自治会数】 7町内自治会						
【高齢化率】 31.3%	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	・地域で誰もが参加できるイベントを企画し、開催する。 ・地域でのイベントの内容を精査し、魅力あるプログラムの実施・参加を促す。 ・地区部会や町内自治会等が、一人暮らし高齢者等を対象に、ふれあい食事サービスやふれあいサロンを開催し、高齢者同士の交流の機会をつくる。	第4回バザーにお手伝いしたいとの企業の申し出があり検討した結果、時間的に間に合わなかったが、社会貢献を積極的に行いたいので相互交流を実施したいとの心強い言葉をいただいた。 今後、地域行事でのふれあい交流活動を実施したい。	A	社会貢献を積極的に行いたい企業と相互交流を実施し、高齢者の福祉ニーズに応えていきたい。
【地域の特徴】 エリア内には小学校が設置されていない、1町のみ(加曽利町)のエリアである。古くから農業を営む世帯の地域、戸建住宅が多い地域、最近新たに作られた新興住宅地がある。						
【活動の中核となれる人材の発掘】						
⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	7	・地区部会や町内自治会の広報等で、積極的に福祉活動推進委員やボランティアの募集を行う。 ・地区部会がバザー等の地域活動の機会をとらえてボランティアの登録をする仕組み(台帳)をつくる。 ・地域で定年を迎えた方や元気な高齢者に呼びかけ、これまで培った知識や技術などを生かし、地区部会活動に参加していただく。	・自治会・社協で行っているイベントに参加していただいた方に自治会長を通じて、直接コンタクトを取り勧誘活動を行っていた。(1名) ・「加曽利助け合いの会」にボランティア活動の研修会を実施(ことぶき大学校生2名)。その結果、ことぶき大学校を通じて、助け合いの会のボランティア活動に参加していただいた。	S	今後は、自治会・社協で行っているイベント内容を充実させ、自分も少しボランティア活動に参加したいと思う様、地道に勧誘活動を行って行く。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針					
都賀地区部会エリア											
【人口・世帯数】 13731人、7,059世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	子育てサロンひなたの月例開催は伝統事業として定着して久しい。毎月第2水曜日の定例会(若葉保健センター)にはエリア外からの参加者も多く毎回40~60組の母子が集う。児童母子福祉委員会が中心となり「都賀の台保育所」や「マミー&ミー保育園」との連携協力で運営されており、これを継続する。	1 子育てサロン「ひなた」は、概ね期首の計画に沿って毎月実施された。これまでの活動実績とチラシの作成・配布によるPRも奏功して、地域に広く認知され定着している。 2 若葉区の健康課とのコラボによる隔月の体重測定、育児相談、栄養相談も定期的に行うなど、継続して活動の充実に努めている。	A	・引き続きボランティアなど協力者を募り、円滑な運営を図る。 ・他の子育てサロンの開催協力					
【町内自治会数】 10町内自治会											
【高齢化率】 28.2%											
【地域の特徴】 都賀駅、モノレール沿線を中心に、戸建住宅の多い地域と、賃貸住宅集合住宅が多い地域がある。 都賀の台1丁目から4丁目までの高齢化率の平均は約48.4%と、限界集落(50%:2人に1人が高齢者のまち)に近い状況まで高齢化が進んでいる。											
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり							1	現在、5拠点で「いきいき交流サロン」活動を展開している。この内、地区部会活動としての補助対象は3拠点である。 身近な人達の交流の場とし、町会自治会単位での開催を奨励し、発足準備金制度(1万円)を設けて、活動拠点の増加を目指す。町会自治会との協力が不可欠であり、地区部会(高齢者福祉・ネットワーク等)と協力して補助対象拠点を5まで増やしたい。	・5拠点で毎月1回開催が予定どおり実施(ただし、2、3月はコロナウィルス(新型肺炎)の関係で一部中止した)。 ・助成対象拠点として1か所増え(都賀の台)4か所となる。活動が評価されたことに感謝している。	A	・都賀の台のサロンは初期は毎回50名前後の参加があったが、30~40名程度に減少している。サロン運営の充実に努力しているが、参加者の固定化、減少傾向が課題。 ・ 独居、日中お一人様高齢者などの誘い出しに工夫、努力し、「サロン開催」は地域住民相互のつながりづくりの場であるとの認識を共有して運営していく必要があり、検討中である。 ・ 地域の仲間たちとの楽しい語らいの場としての定着が課題。サロン仲間会に会いたくなる楽しい集いの要件研究。
⑪ 見守り活動の仕組みづくり							1	地区部会や町会自治会が、独自に取組むことは、組織化や運営と継続面でハードルが高い。住民の誰もが心の片隅で「思いやりを繋ぐ地域生活の必要性の大切さ」を抱いており、これを生かしたご近所相互による見守りについて啓蒙紙(ご近所福祉)で全域に呼びかけていく。「遠くの親類より近くの他人」、ご近所相互の日常的な交流は災害時の相互支援に繋がる。現代社会は繋がりが豊かな街づくりを求めている。	あんしんケアセンター都賀との連名で、1月から広報チラシ「みんな仲間」を発行、3月号で「ご近所相互の見守り」を取り上げ発行する予定である。高齢者の総合相談窓口である「あんしんケアセンター」と連携することで、双方の存在と活動について一般住民の認知度を高める一助としたい。隔月発行を検討中。	B	・活動の方向として、活動テーマの重要性に鑑みて、広報紙による地域住民への広域的啓蒙による理解浸透を打ち出したが、効果的な紙面づくりを模索するにとどまり、具体的構想を打ち出せなかった。 ・見守り活動については、都賀の台は自治会の組織(支え合い活動委員会)で、また西都賀の一部自治会ボランティア活動の一環として取り組んでいるに止まる。自治会主導の組織活動が理想だが、まずはお互いの生活が見えるご近所相互の「見守り」「支え合い」は即時的に効果を共有できることについて広く啓蒙してまいりたい。
⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	①地区部会、町内自治会、民生委員、福祉関係団体・組織などとの交流により相互の活動情報を交換しあって、協力関係の向上を図る。 ②町会自治会と民生委員との連携推進 ③あんしんケアセンターとの交流	都賀の台支え合い活動委員会とは、毎月の定例会議に出席し情報交換会を行い、リンクした活動について話し合ってきた。また、あんしんケアセンター都賀とは講演や地域ケア会議の開催についての情報交換を行ってきた。	A	活動団体相互に共通する目的課題がないとリンクしづらい。「地域ケア会議」を共通性のあるテーマで開催すれば、情報交流の場となるので検討課題である。						
⑬ 地域福祉に関する情報の発信	10	地区部会の活動は広域的であり、活動内容が限られていることもあり、住民にとって親近感が乏しく、「活動が見えない」との声がよく聞かれる。「地域福祉の推進」を旗印としている社協であるが、地域福祉の先導者として地区部会の「見える化」が求められている。その対応の一環として、部会活動や福祉情報などを盛り込んだ広報紙を既刊紙とは別に定期的に発行することで部会への理解を求めたい。	広報委員会にて年に3回、機関紙「だんだんばたけ」を発行して、この中で地区部会活動を中心に福祉関係情報を掲載しているが、高齢者を取り巻く福祉情報などを、福祉関係者や住民が広く共有していくことの重要性に鑑みて、11月にあんしんケアセンターと相談して、福祉情報チラシ「みんな仲間」を定期発行することとした。	A	啓蒙チラシの全域回覧を定期的に行い、住民に対する地区部会活動の「見える化」に役立つ。						
⑭ 地域での福祉教室等の開催と活動支援	8	地域福祉を推進していくうえで、地域の福祉活動者や住民が、高齢者福祉を中心とする各種福祉制度や施策のあらまし、また新たな政策の概要など幅広く学びあっていくことは、交流や情報交換の機会ともなる。こうした研修や学習を通じて活動の活性化を図っていく。即ち「常に学び合い活動に生かしていく」というスタンスを共有して、組織運営をより生きたものにする。	ボランティア委員会、高齢者福祉委員会を中心に、期首計画に沿って各種講演会、講習会を実施した。	A	企画内容の善し悪しが、結果的に参加者数の増減を左右する。一般住民に関心のあるテーマの選定と講師の確保について、関係機関と相談しながら対応していく必要があると考えている。						

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>結・みつわ台地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 24,296人、10,795世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	・これまで、公民館で、「福祉のつどい」を年1回開催している。出席者が「参加し交流することによって、何か一つでも習得し(身につけて)帰ることができるよう、内容の充実を図る。 ・開催回数は、現状を維持する。	昨年、大型台風連続襲来を経験したことを受けて、地震対応のみの防災でなく、台風対策も含めた「我が家の防災対策」講座の開催と、高齢者が最も愛飲している「緑茶」のおいしい入れ方・いただき方の講習会を実施。静岡から2名の講師応援もあり、予想を大きく上回る来場者(64名)で、会場が手狭になるほどの盛況であった。	A	・資料は予め多めに準備したものの、予想を遙かに上回る参加があったため、それでも全員に行き渡らせることができなかったことが反省点であった。定員を設けない場合の事前準備の難しさを感じた次第である。 ・地域住民に役立ち、且つ望まれるテーマ探しも今後の課題である。
【町内自治会数】 35町内自治会						
【高齢化率】 24.8%						
【地域の特徴】 高齢化率が10%台の町丁(殿台町、東寺山町、みつわ台1丁目、源町、原町の一部)もいくつかあり、比較的高齢化率が低い。35の町内自治会数は区内最多(加えて5の管理組合)である。	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	7	・地区部会でのボランティア参加者について、講座等のお知らせチラシ等を活用して募集する。 ・地区部会主催の各種講座等での「アンケート」で、ボランティア活動への関心を示した人達に対して、個別に参加を呼び掛ける。	日頃の活動に関心を持っていただいた方2名に参加いただき、発想力、発信力の倍増に繋がった。加えて、両名とも、新たに民生委員に就任され、地区部会としても、現役民生委員が4名となり、かつてなく充実した布陣となった。	A	・地域の高齢化は進む一方であり、発想力・行動力に優れた人材の発掘が急務となっている。地区部会活動の一番のテーマがまさに、この点にある。 ・いかに効果的・魅力的な情報発信ができるかと考える。
	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	・地区部会とあんしんケアセンターみつわ台の連携を軸に、地区民協(412・404)、第34地区連協等と協力し、より効率的な地域ケア会議を計画し、地区部会最大の活動目標である「支え合い、見守りのまち」先進地区を目指す。 ・第3期中までに発足した「支え合いの会」7か所をモデルに活動地域の増加を目指す。	これまで取り組んできた「住居スタイル別」や「エリア別」のケア会議ではなく、直接、福祉活動に携わる「民生委員」「居宅支援事業者」「支え合いの会」の皆さん方に一堂に会していただき、「考えてみよう!増える独り暮らしとご近所さん」をテーマに、現状の情報交換とこれからの福祉活動の有りようなどを話し合う「場」として「地域ケア会議」を開催した。	A	・50名を超える現役の民生委員・児童委員、居宅支援事業者等が、一堂に会しての話し合いによって、福祉の現場での困りごとや成功事例、共通課題等々を共有できたことは大きな収穫であった。これを機に、より充実した福祉活動が展開されることを期待したい。 ・今後も、さらに工夫を凝らした地域ケア会議を計画していきたい。
<b>千城小地区部会エリア</b>						
【人口・世帯数】 2,788人、1,356世帯	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	・利用者より要望のあったカラオケ等を検討して、人数・回数を増やす。 ・3か年で、開催場所を増やす。	・今年度、ふれあい・いきいきサロンを6回開催。 ・参加した方から、未参加者へ声掛けをしてもらう。	A	・中止時の連絡の取り合い等の確立 ・未参加者への啓発と周知。 ・利用者に講師になってもらう。
【町内自治会数】 10町内自治会						
【高齢化率】 43.8%						
【地域の特徴】 エリア内には1町(大宮町)しか含まれていない、小学校は設置されているが、児童数は区内で最も少ない。 古くから農業を営む世帯の地域があり元気な高齢者が多く、また新たに作られた新興住宅地がある。	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	地域住民の健康増進と親睦の機会として、下記を実施する。 ・子どもたちと一緒にラジオ体操及び健康講話 ・千城小学校第二グラウンド除草作業 ・ふれあい歩こう会 ・千城小地区敬老会 ・年末切餅配布(対象者:75歳以上の単身世帯)	・子どもたちと一緒にラジオ体操及び健康講話「参加者数36名」 ・千城小学校第二グラウンド除草作業 ・ふれあい歩こう会「雨天の為中止」 ・千城小地区敬老会「参加者数70名」 ・年末切餅配布(対象者75歳以上独り身)	A	・新たな参加者、幅広い年代の参加者を増やしていきたい。 ・地域の「仲間づくり」「健康づくり」を意識してもらう。
	⑭ 防災・減災活動の実施	6	・平成31年度 3年に1回開催の防災訓練、防災講座、救急救命講習。 ・他サロンでの顔見知りが増えることで、防犯・防災につなげる。 ・パトロール時も、健康づくりと縦の繋がりがから、横に発展させる。	・防犯パトロール実施 5自治会→前年同様に行えた ・防災訓練と防災講習会 中止	A	・未実施自治会への働きかけ ・自治会の枠を超えた地域横断型のパトロール実施 ・被災時に参考となる講演会や研修会の計画

# 緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

## ◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	4	S A B C	緑区では、地域住民主体による見守り活動が13地域(椎名1、誉田7、土気4、おゆみ野1)で行われており、年に1度区内の活動団体を集め、意見交換会・交流会を実施している。なお、今年度は土気地区の2地域で新たな活動が開始されている。椎名地区では、椎名地区部会が先頭に立ち、定例会の開催や活動状況の把握を行ったが、ボランティアが減少傾向にある。土気地区では、大木戸台団地と越智はなみずき台団地の2地域で新たな活動が開始された。誉田地区では、地区部会の見守り活動推進委員会が未実施地区の動向等の把握に努めた。おゆみ野地区では、地域住民による活動は1地域のみであるが、民生委員が中心となり見守り活動を実施した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	3	S A B C	区内地区部会4つのうち、いきいきサロンは、重点取組地区3地区で、延べ259回実施(4地区で、延べ366回実施)した。また、ふれあい食事サービスは、2地区で、延べ29回(3地区で、延べ19回)、ふれあい散歩クラブは、2地区で、延べ59回実施した。今年度は災害や新型コロナウイルスの影響があり、昨年と比べ実施回数は減っている。椎名地区では、古市場団地で行われているいきいきサロンを実施した。土気地区では、パラスポーツを取り入れた新たなサロン開催の検討を行った。おゆみ野地区では、健康講座も開催された。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S A B C	誉田地区では、障害者施設の手伝いや見学、慰問品の贈呈等、障害者施設との交流を深めた。椎名地区では、椎名小学校の福祉教育授業(手話体験授業、シッティングバレー体験授業)への協力支援を行い、児童の障害に対する理解・関心を高めた。おゆみ野地区では、障害者やその家族が参加できる「おたのしみ会」や「おしゃべり会」を開催し、地域住民と障害者(児)やその家族とが交流し、障害に対する理解を深めた。また、子育てサロンの中で、県立壘学校高等部の生徒さんと赤ちゃんとのふれあい体験学習を実施した。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	4	S A B C	区内地区部会4つのうち、子育てサロンは、重点取組地区1地区で、延べ9回実施(3地区で、延べ45回実施)した。椎名地区では、小学校・PTA・民児協・地域住民・地区部会等が連携し、漢字の学習支援・食育支援授業・地域伝統行事・昔あそび等の伝承文化の継承を行った。また、ボランティアの方による児童の通学時の声掛け運動も行われた。おゆみ野地区では、子育てサロンの参加者と泉谷中学校の生徒とが交流する機会を設けた。
5 健康づくり	1	S A B C	おゆみ野地区では、地区部会で実施している「いきいきサロン」の中に健康体操を取り入れる等、健康寿命の延伸や介護予防の推進に努めた。
6 防犯・防災に対する取組み	1	S A B C	誉田地区では、地域住民が学校行事等に参加し、子どもたちと顔の見える関係づくりを築くことを目標に掲げていたが、個人個人の活動はあったものの、組織としての体制づくりには至らなかった。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	3	S A B C	椎名地区では、身近なボランティア意識を高めることを目的に、ゴミステーションにペットボトルキャップ回収袋を設置し集めている。しかし、現在は刈田子町と大金沢町でしか実施されておらず、他地域への拡大が課題となっている。土気地区では、地区部会が「大木戸台シニア支援の会」の推進役、支援役として協力を続けている。同会では、今年度から地域の空き家を借り上げ、そこを拠点に様々なイベントを行う等、新たな試みも開始された。おゆみ野地区の支え合い活動を実施している2団体については、活発に活動を行っている。
8 福祉教育・啓発	4	S A B C	誉田地区では、障害者施設の手伝いや見学、慰問品の贈呈等、障害者施設との交流を深めた。椎名地区では、椎名小学校の福祉教育授業(手話体験授業、シッティングバレー体験授業)への協力支援を行い、児童の障害に対する理解・関心を高めた。おゆみ野地区では、子育てサロンの中で、県立壘学校高等部の生徒さんと赤ちゃんとのふれあい体験学習を実施した。
9 地域のつながりづくり	2	S A B C	椎名地区では、自治会及びあんしんケアセンター・鎌取と連携し、落井・中西・茂呂・椎名崎地区の住民を対象に健康測定会・介護保険についての説明会を実施した。また古市場団地でも介護保険や介護用具についての説明会を実施した。土気地区では、福祉施設と地域との連携による外出支援を実施している2地区に推進役、支援役として協力を行い活動状況の把握に努めた。
10 相談支援体制と情報提供の充実	11	S A B C	4地区部会とも広報紙(椎名2回、誉田2回、土気2回、おゆみ野3回)を発行し、地区部会や地域の活動について情報提供を実施した。また、高齢者の集う場、子育て世代の集う場、障害者やその家族が集う場の提供を通じて、身近な相談役として相談に応じたり、必要に応じて専門家を招聘しての講義の開催、専門機関への紹介等を行った。
今年度の振り返り	36	S A B C	既に実施されている活動については、地域住民からの認知度も上がってきており、活発に活動を続けている。また、実施内容の工夫や担い手の自己研鑽により、活動内容も向上している。新たな試みとして、おゆみ野地区では中学生の居場所づくりが、土気地区では2地域で見守り活動が開始された。その一方で、「外出支援」や「助け合い活動」など、今後ニーズの多く見込まれる活動に新たな展開が見られなかった。

今後の課題と方針	「見守り活動」「支え合い活動」については、町内自治会の協力が不可欠であるため、活動の意義や方法を理解してもらえるよう、周知を強化する。 また、どの地区においても担い手不足が深刻な課題となっているため、今後は緑区内の社会福祉法人や近隣の大学と連携するなど、新たな担い手の確保も検討し、担い手不足の問題を少しでも解消していきたい。
----------	--

## ◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日			主な議題等
令和元年度	第1回	7月6日(土)	・副委員長の選任について ・広報部会委員の選任について ・各委員からの活動報告
	第2回	11月16日(土) (書面会議)	・「みどりのきずな第38号」の発行について ・各委員からの活動報告
	第3回	3月14日(土) (書面会議)	・「みどりのきずな第39号」の発行について ・各委員からの活動報告 ・緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)について ・支え合いのまち千葉 推進計画(第5期千葉市地域福祉計画)の策定について

## ◆区の地域福祉に関する好事例等

### 子ども食堂「たんぽぽ」～おゆみ野第一団地～

現在、子ども食堂は、全国の至る所で誕生し、「子どもの孤食防止」や「貧困の子どもたちへの支援」、「家庭環境問題の早期発見」等を目的に、地域のボランティアの方々等により運営されている。また、中には子どもだけでなく、年齢を問わず参加できる食堂もあり、多世代交流の場としての役割も担っている。

緑区では昨年度までに誉田地区(誉田町)と土気地区(あすみが丘)の2地域で子ども食堂が運営されていたが、椎名地区とおゆみ野地区には活動がみられなかった。特に子どもの多いおゆみ野地区での子ども食堂の存在は重要であると思われ、日頃から地域の担い手の方々にその必要性を訴えかけていた。

そんな中、地域の実情や問題を詳しく把握されている民生委員の方がその必要性を理解していただき、地域の住民の方に声をかけ運営スタッフを集め、昨年の6月よりおゆみ野第一団地集会所で子ども食堂が開始されることとなった。今では、ボランティアスタッフに加え子どもたちも運営に協力し、2ヶ月に1回程度、保育園児から90歳に近い高齢者までの約50名が食を通じた多世代交流を楽しんでいる。

なお、運営費については、緑区地域活性化支援事業の補助金を受けるとともに、フードバンクちばや企業、近隣農家、住民からの食材提供等の支援を受けている。また、緑区社協・CSW・生活支援コーディネーターが支援に入り、補助金の相談や食材提供先とのコーディネート、運営の相談等を行っている。

### 大木戸台シニア支援の会 ～大木戸台自治会区域～

昨年度、大木戸団地で助け合い活動を開始した大木戸台シニア支援の会では、今年度も見守り活動、地域の空き家を利用した交流の場「ふれあい虹の家」の展開など、新たな活動を開始している。

見守り活動については、ごみ出し支援を通じた活動を行っており、独自の手法を採用している。また、空き家の有効利用については、地域からの相談を受けたあんしんケアセンター土気から、生活支援コーディネーターに情報が入り、シニア支援の会とのコーディネートが行われた。

なお、空き家の借用費用については、緑区地域活性化支援事業の補助金を受けて賄われており、利用方法については毎月行われる定例会議にて様々なアイデアが出され決定されている。定例会議には、土気地区部会・緑区社協・CSW・生活支援コーディネーターの他、あんしんケアセンターや買物支援を行っている社会福祉法人うぐいす会等の福祉関係者も参加し、大木戸台シニア支援の会の活動の後押しを行っている。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<p>誉田地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 30,999人・13,969世帯</p> <p>【町内自治会数】 35町内自治会</p> <p>【高齢化率】 26.6%</p> <p>【地域の特徴】 緑区の東西に広く位置する地区。北部は農村地域のため人口も少ないが誉田駅近くは宅地開発が進み若い世代も多い。</p>	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	<p>現在地区部会で行っている障害者施設への慰問訪問、施設行事への参加等の中で障害者(児)のニーズを把握するとともに、集う場の必要性、集う場の確保の可否等を検討する。</p> <p>必要性がある場合、可能なら第4期中に1か所程度の場所を確保して、集う場の開設につなげたい。</p>	<p>障害者施設の見学、訪問、イベントの手伝い、慰問等は計画通り実施でき、一部の施設との意見交換の場を持てたが、集う場作り迄には至らなかった。</p>	A	<p>令和元年度の活動を継続しつつ、障害者福祉に関する知識を深める学習の場を設けるとともに集う場の開設について継続検討していく。</p>
	②① 身近な防犯、安全対策	6	<p>地域住民が小・中学校の行事等に参加したり、顔を合わせた際に挨拶をする「あいさつ運動」を推進したりすることで、顔の見える関係を築き、身近な防犯対策を行う。</p> <p>また、小・中学生と地域住民が一緒になり、防犯活動や交通ルールの守り方について、警察の方を講師に招いて学習する。</p>	<p>地区部会の役員が個々に学校行事に参加したり、協力したりすることはあったが、地区部会としての総合的な活動は特にできなかった。</p>	C	<p>次年度は各地区で取り組み活動していけるよう、対策と計画を掲げる。</p>
	②⑥ 見守り活動の推進	1	<p>第3期末(平成30年3月末)現在、地区部会エリアで見守り活動を実施しているのは7町内自治会であるが、これを毎年最低1か所増やしていく。</p>	<p>・「見守り活動推進委員会」を年3回開催し、既存の活動団体の状況や未実施地区の動向についての把握に努めた。これまでの推進委員会を通じて未実施地域の状況が少し確認できた。</p> <p>・緑区の「見守り活動・支え合い活動団体意見交換会・交流会」に参加し、他地区の活動や先進地区の状況の把握に努めた。</p> <p>・誉田地区町内自治会連絡協議会にて、見守り活動についての説明を実施し、活動の推進を呼びかけた。</p> <p>・既存団体の支援として、4地区について助成金の申請を行うことができた。</p>	B	<p>活動自体は、現在7町内自治会で活発に行われており、既存の活動団体については継続的に支援を実施していく。</p> <p>また、今後は活動未実施地域への意識づけを検討し、新たな地域での活動開始を推進していく。</p>

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり  
 4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み  
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり  
 10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
椎名地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,909人・2,261世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 24.0% 【地域の特徴】 田畑が多くある農村地域と古い住宅団地、新興住宅地が混在する町。全体の高齢化率は24.0%。局地的には30%を超えて高齢化が急速に進んでいる地域もある。	① 情報の収集と共有化	10	広報誌「椎名だより」を発行し、地区の福祉情報、地域伝承文化行事、児童との交流、敬老会、バザー等の地域の情報を提供する。	・広報誌「椎名だより」を年2回発行し、地区部会や地域の情報の発信を行った。	A	・多くの方が関心を寄せているが、地域住民の声の参加及び資料提供も呼びかけていきたい。 ・今後も発行を継続すると共に内容拡充を図っていきたい。
	② 子ども達の集いの場の提供・情報提供	4・10	児童の漢字パワーアップのため、学校と地域及びPTAの連携によるボランティア活動を推進する。 また、地域伝承行事「羯鼓舞」の支援、「しいのみ祭」支援、食育授業支援(種まき、田植え、稲刈り、太巻きずし、稲の研究発表会)など、地域と児童との交流の場の創出や児童教育の支援を行う。	・漢字パワーアップ 毎週水曜日の授業開始前に地域のボランティアとPTAが連携し、児童の漢字学習の支援を実施した。 ・食育授業支援 田植え、稲刈り(台風のため中止)・脱穀(台風のため中止)、太巻き寿司づくりの指導・協力を実施した。 ・地域伝承行事「羯鼓舞」 発表会に向けて、羯鼓舞の指導を実施・準備に協力した。なお、羯鼓舞の衣装と用具が11月に旧生浜町役場庁舎に展示された(明治以来100年ぶりの事象)。 ・しいのみ祭 地域の方々が指導者となり、「昔あそび」、「しめ縄作り」などの伝承文化を継承を実施した。	A	既に実施している活動については、継続実施を行っていく。羯鼓舞は椎名地区に根ざした伝統行事として大きな歴史的意義を持っているため、一冊の本にまとめあげていきたい。
	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	健康寿命延伸や介護予防、高齢者の社会的孤立を防ぐため、古市場団地を中心に「いきいきサロンに集まろう、話し合ってみよう、笑ってみよう、体を動かしてみよう」を合言葉に高齢者の集いの場を開催する。 また、椎名公民館ではふれあい食事会を実施し、食を通じた高齢者同士の交流の場の開催を行う。	・ふれあいいきいきサロン 古市場団地にある3つの集会所において、年9回のサロンを実施した。サロンでは、健康体操・合唱・輪投げ・おしゃべり会等を実施した。 ・ふれあい食事会 椎名公民館において年4回の食事会を実施した。今年度は、台風被害により椎名公民館が使用不可となったことから、11月以降は活動を休止となった。 サロン・ふれ食を楽しみにしている方も多く、高齢者のひき籠り防止や健康寿命の延伸、介護予防に役立っていると思われる。また、参加者を通して、見守り活動の一助ともなっている。	A	・内容の充実を図り、楽しさの倍増を図りたい。 ・ボランティア及び参加者の増加を図りつつ継続していく。 ・他地区への拡充も検討する。
	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	学校における福祉教育充実の支援を通じ、障害者の理解及び普及を促進し、地域の障害者や高齢者に目を向け率先して助け合っていく態度を育成する。	椎名小学校で行われた、手話体験授業・シッティングバレー体験授業への協力・支援を通じ、子どもたちの障害に対する理解の推進に努めた。	A	椎名小学校での福祉教育への協力を継続するとともに来年度予定されているオリパラを通して障害者との共生社会の理解を一層深めていく。
	⑥ 地域と学校との交流	4・8	子どもは地域の宝であり、日々安全に過ごせるよう支援をしていかなければならない。地域住民みんなで子どもを見守っていくという考えで、通学時の見守り、学習支援、学校行事の参加、お年寄りとの対話に取り組む。	・通学時の見守り 古市場地区では毎朝ボランティアの方が見守りを行う。地域住民は子どもに「あいさつの声かけ」を実施した。 ・地域と学校との交流 椎名地区部会理事が講師となり、椎名小4年生(4年1組21名、4年2組22名)を対象に、福祉に関する出前授業実施した。子どもたちの福祉に関する考えに大きな影響を与えられたのではないかとと思われる。	S	・ボランティアを増やし、子どもの健全育成、交通災害防止を推進する。 ・コミュニティを大切に活動を持続していく。 ・福祉出前授業は定例化してきたい。
	⑦ 地域の行事への積極的参加の呼びかけ	9	地域の高齢者の健康診断、相談の場を開設し、病気の予防、健康管理、運動を通して健康寿命を維持する活動を推進する。あんしんケアセンター・健康課と連携し、地域に出向いての巡回健康相談会(健康相談、健康診断、介護予防体操、悩み事相談等)を開催する。	・自治会及びあんしんケアセンター・健康課と連携し、落井・中西・茂呂・椎名崎地区の住民を対象に健康測定会・介護保険についての説明会を実施した。 ・古市場団地では、第一・第二・第三団地集会所それぞれにおいて介護保険や介護用具についての説明会を実施した。 ・わくわくヘルスアップ椎名(緑区健康課)の啓発コーナーへの協力を行った。これは、啓発事業として効果があった。	S	・あんしんケアセンター・健康課や関係機関との連携の強化 ・各自治会・町内会への呼びかけの継続
	②⑥ 見守り活動の推進	1	古市場団地で行われている見守り活動への支援や民児協と連携した歳末慰問活動を実施し、高齢者の孤独死防止や社会的孤立の防止に寄与する。	古市場団地で行われている見守り活動への支援を実施した。 ・年6回(2ヶ月に1回)定例会を開催し、見守り活動の状況把握に努めた。 ・年末には民児協と連携し、高齢者の慰問活動(80歳以上の独居高齢者が対象)を実施した。	B	・活動開始当初に比べ、ボランティアの数が減ってきている。 ・住民の見守り活動に対する意識が薄れている。 ・今後は組織の再編成も検討し、住民の協力を得ながら活動の推進を図ってきたい。
	③① ボランティアの確保	7	地域では介護支援、木々の伐採、部屋の片づけ、買物等、身近なボランティアが必要である。椎名地区では、ペットボトルキャップ回収等のボランティア活動を行い、地域に社会的参加の意義を高めていく。	・刈田子町では、ゴミステーションにペットボトル回収袋を設置し、年3回の回収を行った。また、大金沢町でも継続的に活動を実施している。 ・組織的な活動はないが、近隣の互助による助け合い活動は行われている。	A	地域の行事(ふれ食、しいのみ祭、バザー、花壇作り等)への協力は得られており、新たな協力者の確保が課題である。今後は、ボランティアへの参加意識を高めるための工夫を検討していく。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
土気地区部会エリア	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなサロンの開設(休止しているサロンの再開も含む)の推進と既存サロンの取組の拡充を図る。</li> <li>・各活動の参加率の向上を目指すとともに、参加者及び支援者の増員を目指す。</li> <li>・サロン同士での情報交換を密にし、より効果的な体制づくりに努める。</li> <li>・地域に集う場のない地域からの参加を容易に受け入れる体制づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロン、ふれ食、散歩クラブ等、既存の活動については概ね計画通り実施できた。</li> <li>・来年度はオリパラも予定されていることもあり、高齢者に加え障害者も参加可能な「ポッチャふれあいサロン」の立ち上げの検討を行っている。</li> <li>・いきいきサロン、散歩クラブについては未設置地区での活動の立ち上げに向けた推進を実施した。</li> <li>・いきいきサロンは昨年度編集した新歌集の活用や好評な活動の集約等により、内容の充実を図った。</li> <li>・散歩クラブはコースの工夫により、内容の充実を図った。</li> <li>・ふれ食は食器の購入による多彩な献立作りにより、内容の充実を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロンは、多彩で効果的な活動の実施と未設置地区への対応の検討が課題である。</li> <li>・散歩クラブは参加率向上と散歩しながら地域に役立つ活動の導入の検討が課題である。</li> <li>・ふれ食は、参加者を増やしていく工夫と、土気と越智2会場の良さの相互取り入れの検討が課題となっている。</li> </ul>
【人口・世帯数】 44,967人・19,282世帯			<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の具体的な困り事を定期的な調査結果などを足掛かりに把握するとともに、活動の必要性と対応を地域ケア会議等で働き掛ける。</li> <li>・助成があるゴミ出し支援などの活動を足掛かりに軽作業などの取組みに拡充していく。</li> <li>・抱える問題を申告しやすい土壌づくりに努める。</li> <li>・他地区での活動開始に向けた支援を推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大木戸台シニア支援の会(大木戸台自治会エリア)」の支援役、推進役として月1回の定例会議に参加した。「大木戸台シニア支援会」では、今年度から地域の空き家を借り上げ、そこを拠点に様々なイベントを行う等、新たな活動も開始された。</li> <li>・「大椎台助け合いの会(大椎台自治会エリア)」、「おおかぶ会(越智はなみずき台エリア)」の活動状況の把握を行った。大椎台助け合いの会には推進役として協力、また大椎台自治会地域福祉委員会にも所属し月1回の定例会議等への参加も行った。</li> <li>・広報紙や各種会合で既存団体の活動状況を紹介し、新たな地区での取組みを働きかけたが、今のところ顕著な動きには繋がっていない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の3団体は実績をあげているが利用可能な方が自治会内に限られており、対象外の地区の方は利用できない。</li> <li>・広報紙や各種会合において既存の団体や民間による取組みの紹介に一層努めるが、より直接的な取組みとしてアンケート調査などの実施の検討も必要かと思われる。</li> </ul>
【町内自治会数】 46町内自治会			<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出困難者を定期的な調査結果などを足掛かりに把握していく。</li> <li>・買い物支援や通院支援の必要性と対応について地域ケア会議等で働き掛ける。</li> <li>・抱える問題を申告しやすい土壌づくりに努める。</li> <li>・他地区での活動開始に向けた支援を推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に外出支援を実施している「大木戸台シニア支援の会」、「大椎台自治会」に推進役、支援役として協力を行い活動状況の把握に努めた。同じく越智はなみずき台で外出支援を行っている「おおかぶ会」の活動状況の把握にも努めた。既存活動自体は活発に実施されており、特に外出支援のニーズは多くなっている。</li> <li>・地域内で活動している福祉有償運送団体が活動終了となったことに伴い、代行手段の検討を行ってきたが有効な方法を見出せなかった。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域性、家族構成等により困難度は異なるが、有償運送の休止により外出に困窮している方が多く存在するという実情を地域全体に周知していく必要がある。</li> <li>・アンケート調査などにより問題意識の把握と向上に努め、新たな取組みの動機づけにする。</li> <li>・民間の移動販売等も困難者には有効であるので、先行手段として位置づけを行っていく。</li> </ul>
【高齢化率】 28.6%			<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしで孤立気味の高齢者を定期的な調査結果などを足掛かりに把握する。</li> <li>・活動の必要性と対応について地域ケア会議等で働き掛ける。</li> <li>・抱える問題を申告しやすい土壌づくりに努める。</li> <li>・他地区での活動開始に向けた支援を推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あすみ見守り隊(あすみが丘第1自治会エリア)」、「大椎台地域福祉委員会(大椎台自治会エリア)」の定例会等に参加し、推進役、支援役として参加協力を行った。既存の取組みは計画通りに進行しているが、対象者が減少傾向にあるのが気かりである。</li> <li>・「大木戸台シニア支援の会」では、今年度よりごみ出し支援と並行した見守り活動を開始した。</li> <li>・「おおかぶ会」でも、昨年度から見守り活動開始の動きがあったが、今年度より一部の活動を開始した。</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙や会合等において既存各団体の取組みの紹介に努める一方、地域性を踏まえて活動の必要な地域を割り出しを行う必要がある。</li> <li>・孤立化の防止だけでなく、日常生活上の困り事を少しでも解決して安心づくりと交流づくりにも努める。</li> </ul>
【地域の特徴】 4中学校区からなる地区であるため高齢化の進み方も地域にばらつきがある。できる限り新旧住民が協調できる事業の進め方をしている。	④ 助け合い活動の推進	7				
	⑤ 外出困難者への支援	9・10				
	⑥ 見守り活動の推進	1				

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
おゆみ野地区部会エリア 【人口・世帯数】 48,792人・19,349世帯 【町内自治会数】 64町内自治会 【高齢化率】 13.9% 【地域の特徴】 街びらきして30年。まだ住宅開発が続いている地区だが、30年前に開発された地域は高齢化が目立ってきている。見守り活動等は一部自治会が取り組んでいる。	② 子ども達の集いの場の提供・情報提供	4・10	住民全体で「子どもは地域で育てる」という意識をもち、子どもたちの集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流等、青少年育成委員会やボランティア団体等と連携しながら推進していく。 令和元年度は、中学生の居場所づくりへの支援についても推進していく。	・計画されていた活動は、一部天候や災害、新型コロナウイルス等の影響により中止となったものもあったが、概ね計画通り実施できた。 ・今年度より有吉中にて中学生の居場所づくり「放課後カフェ」を本格実施し、年3回開催した。 ・各小学校と福祉委員が協力し、子どもたちに昔遊びを伝承する機会を設けた。	S	引き続き、地域と学校との連携を図り子ども達の集いの場の提供の推進を図るとともに、青少年育成委員会やボランティア団体等と連携を推進し、活動の内容充実を図る。
	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	「ふれあいいいききサロン」や「ふれあい散歩クラブ」等、高齢者の集う場の設置を推進する。 令和元年度は、事業の内容の充実を図り魅力あるサロンや散歩クラブの展開を目指す。	・「いいききサロン」の開催 6か所で実施。計画されていたサロンは概ね予定通り開催できた。 ・「散歩クラブ」の開催 年3回開催した(1回は新型コロナの関係で中止)。毎回行き先を変え、参加者を飽きさせない工夫を行い、参加者に好評であった。 ・「健康講座」の開催 今年度は「認知症サポーター養成講座」を開催し、26名の方が参加された。	A	・「いいききサロン」、「散歩クラブ」等、高齢者の集いの場の継続を図る。 ・新たな集いの場の拡充・拡大が課題であるが、おゆみ野地区には活動場所が少ないという問題もある。 ・他団体と連携し、活動内容の充実を図っていききたい。
	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	既に実施している「楽しみ会」、「おしゃべり会」等のイベントを通じて障害者との交流を図るとともに、障害者(児)が楽しめる催しの開催を推進する。 また、交流を通じ地域の障害者に対する理解を深めるとともに、地域全体での「心のバリアフリー化」を進める。	・障害者(児)とその家族が参加できる「お楽しみ会」を年2回、障害をもつ家族の方が自由にお話ができる「おしゃべり会」を年4回開催し、地域住民と障害者(児)やその家族とが交流し、障害に対する理解を深めた。今回「お楽しみ会」には、「わくわくぎふと鎌取(放課後デイ)」の子どもたちを招待し、交流を図った。 ・「お楽しみ会」の中でポッチャ大会を行い、パラスポーツの啓発も推進した。 ・子育てサロンに聾学校の生徒たちに参加してもらい、赤ちゃんとのふれあい体験を行い交流を深めた。	A	地域で障害を理解し、障がい者を障がい者と感ぜさせない共生社会を目指す。
	⑤ 子育ての中の親や子どもが集う場の開設・拡充	4・10	発育、発達、しつけ等、子育てへの不安や悩みなどを抱える親に対して、保健福祉センター等と協力し、相談会、講習会等を開催する。 子育て中の親や子どもが集い、仲間づくりができる場(ふれあいいいきき子育てサロン)を拡充する。	・発達障害に関する勉強会を開催した。 ・「ふれあいいいきき子育てサロン」を3会場(おゆみ野公民館・鎌取CC・緑保健福祉センター)で開催した。緑区健康課と連携し内容の充実を図ったり、ボランティアスタッフの勉強会を実施する等の自己研鑽も行った。 ・子育てサロンの参加者が学校に訪問し、泉谷中の生徒を対象に「赤ちゃん体験」を実施。生徒たちに赤ちゃんや子育て中の親と接する機会を設けた。	A	・他団体と協力し子育て中の親の負担・不安を軽くする活動内容の構築を図る。
	⑭ 助け合い活動の推進	7	既に実施している2団体の支援を行うとともに、各種会合の場で活動の必要性を訴えかけていく。	活動中の2団体については活発に活動しており、地域に定着しつつあるが新たな地域での活動はなかった。	B	・新たな地域での活動、新たな担い手の確保 ・引き続き、活動中の2団体の支援を行うとともに、活動の必要性を地域に訴えかけていく。
	⑮ 見守り活動の推進	1	一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、また体に障害のある方などの見守りを希望する人に対して、民生委員、地域住民による訪問・声かけ等を行う。 また、社会的孤立を防ぐため、挨拶運動など、住民同士が日常生活の中で無理なく行える見守り活動を実施する。	・おゆみ野地区の民生委員が、75歳以上約1,800世帯を個別訪問し、安否確認を行った。また、民生児童委員でさりげない見守り活動も行った。 ・各小中学校(9校)での障害者(児)の見守り、登校時のあいさつ運動を行った(民生委員、青少年育成委員会が連携)。 ・おゆみ野泉谷自治会見守り活動推進委員会(おゆみ野泉谷自治会エリア)の後方支援を行った。	A	・民生委員と協力し概ね予定どおり実施できた。 ・地域住民による見守り活動がおゆみ野泉谷自治会で実施されているのみであり、他の地域への拡充・拡大を図りたい。
	⑰ 健康づくり支援	5	ラジオ体操やシニアリーダー体操等、健康を維持していくための活動を推進していく。緑区健康課やあんしんケアセンターの協力等も得て、推進していきたい。	・地区部会で実施している「いいききサロン」の中に健康体操を取り入れる等、健康寿命の延伸や介護予防の推進に努めた。 ・いいききサロン内でのパラスポーツのポッチャの取入れを計画していたが、今年度は実施に至らなかった。	B	引き続き、高齢者の健康増進に努める企画の取り入れに努める。

# 美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

暫定版

## ◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	9	S 1 A 7 B 1 C 0	幕張西地区部会エリアで進めている「見守り活動」では、新たに1自治会で見守り活動を開始した(13/15自治会)。また、幸町2丁目地区部会エリア・打瀬地区部会エリアでは、民生委員の協力を得ながら「あんしんカード」の活用を進めている。
2 高齢者を支える仕組みづくり	12	S 1 A 7 B 4 C 0	幸町一丁目地区部会エリアでは、新たに「地域支え合い型通所支援開設準備委員会」を立ち上げ、来年度からの実施を目指し、地区部会主催のサロンと併せて高齢者の交流の場の拡大を図っていく予定。打瀬地区部会エリアでは、東京オリンピック・パラリンピックの開催地としてのおもてなしの一環(折鶴を選手村に贈呈)として公民館と共催してサロンで製作した。
3 障害者を支える仕組みづくり	6	S 0 A 4 B 2 C 0	幸町2丁目地区部会エリアでは、地域カフェ(カフェさいわい)・体操教室・3サロン合同ポッチャ交流会を実施し、障害に関する理解を深めながら他のサロン参加者との交流を図り、サロン参加への呼びかけも行った。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	6	S 0 A 4 B 2 C 0	高洲高浜地区部会エリアでは、地区部会と高洲CCとの共催で「地域支え合い講座」「認知症講座」を開催した。また今後も「こどもフェスタ」「ネイチャーゲーム」を引続き実施していく。
5 健康づくり	2	S 1 A 1 B 0 C 0	磯辺地区部会エリアでは、健康づくり教室を自治会集会所20箇所で開催し地域の子どもから高齢者まで老若男女が参加した。また、スポーツ振興会が主催する磯辺地区全体を対象とした運動会(バドミントン・卓球・野球等)を実施した。
6 防犯・防災に対する取組み	0	S 0 A 0 B 0 C 0	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	4	S 0 A 3 B 1 C 0	磯辺地区部会エリアでは、33地区連協27自治会中10自治会が「支え合い活動」をスタートさせている。現在も役員会で検討中の自治会や実施すべきを検討している自治会に対して説明を行い、地域住民による支え合い活動の実施に向けて今後も粘り強く理解を求めていく。
8 福祉教育・啓発	3	S 1 A 2 B 0 C 0	幸町一丁目地区部会エリアでは、新たな担い手の発掘と住民にできるだけ外出の機会を提供することを目的に「ボランティア講座」を4回開催している。なお、当該講座では高齢者対象のみならず、児童母子対象の講座も盛り込んでいる。
9 地域のつながりづくり	9	S 0 A 6 B 3 C 0	稲毛海岸地区部会エリアにおいて、草刈りや自治会館付近での声かけを実施したり、電話でサロンへの参加を呼びかけた。また、稲毛海岸地区部会が主催する「ふれあい食事サービス」の後に稲浜公民館とタイアップした市外の「民謡・三味線演奏サークル」を招いて鑑賞しながら交流を深め、社協地区部会活動の周知・普及にも努めた。
10 相談支援体制と情報提供の充実	1	S 0 A 1 B 0 C 0	真砂地区部会エリアでは、地域運営委員会ホームページの活用・広報紙・チラシ等の媒体を活用して、多くの関係団体の情報が掲載され、地域住民に広く情報提供することができた。
今年度の振り返り	52	S 4 A 35 B 13 C 0	各地区部会エリアにおいて、見守り・支え合い活動やサロンの充実に向けた取組み、健康増進活動など幅広い活動を他機関・他団体と連携・協働・共催して展開され、概ね計画通りに実施された。

今後の課題と方針	・今期の進捗状況を踏まえ、最終年度の目標達成のため、行政・地域関係団体の連携・協力により計画を推進していく。
----------	--

## ◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日			主な議題等
令和元年度	第1回	8月20日(火)	1 議題 ・美浜区支え合いのまち推進計画(第4期美浜区地域福祉計画)の実施状況 2 事例紹介 ・地域活動団体の取組み(稲三サポートの会)
	第2回	3月9日(月) ※書面開催 送日	・美浜区支え合いのまち推進計画(第4期美浜区地域福祉計画)の実施状況 ・千葉市社会福祉審議会地域福祉専門分科会への報告事項について 取組みテーマ別及び地区部会エリア別の達成状況、好事例 ・美浜区支え合いのまち推進計画(第5期美浜区地域福祉計画)の策定について

## ◆区の地域福祉に関する好事例等

高洲第二団地内に、介護相談窓口と地域交流スペースが併設されたコンビニエンスストア「ケアローソン」が11月7日にオープンしました。このケアローソンは高齢者の嗜好に合わせた品揃えになっているほか、店内に小型のカートが置かれているなど高齢者に配慮された店舗となっています。

オープンに先立ち、6月7日に地域住民の方たちと出店予定介護事業者、URを交えての意見交換会を開催しました。地域住民側からは高洲高浜地区部会長、第605地区民児協会会長・民生委員、事業者側からは東京海上日動ベターライフ みずたま介護事業所、聖隷訪問看護ステーション、URからはUR千葉支社、高洲第二団地担当生活支援アドバイザー、あんしんケアセンター高洲が出席し、千葉市社協 美浜区事務所(生活支援コーディネーター)の司会により、意見交換が行われました。意見交換会では介護相談窓口併設型コンビニエンスストアの趣旨説明が行われた後、出店予定介護事業者(みずたま介護事業所)が福祉ニーズを把握するため地域住民にニーズ等の聞き取り(意見聴取)を行いました。身近な困っていること、小さな要望などが挙げられ、このような様々な意見について、すべて対応できるかは分からないものの、介護相談窓口や地域交流スペースの活用にあたり反映させていくための検討材料となりました。

今後も、地域住民の人たちに欠かせない場となっていくような地域に根差したコンビニエンスストアとなってもらいたく地域の福祉ニーズの把握のための情報交換・情報共有を行っていきたく考えています。



所在地：千葉市美浜区高洲4丁目5番15号  
店舗名：ローソン ウェルキャビン稲毛海岸(ケアローソン)  
併設：東京海上日動ベターライフ みずたま介護事業所 聖隷訪問看護ステーション

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>稲毛海岸地区部会エリア</b>  【人口・世帯数】 8,752人 3,685世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 18.3% 【地域の特徴】  地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	独居で外出しづらい人の現状把握とサロンやイベント参加を促す声かけを実施し、地域交流の促進を継続して行う。	地区部会活動の周知及び「ふれあい食事サービス」における交流を一層深めるため、食事後の催しとして、稲浜公民館とタイアップし市外の「民謡・三味線演奏サークル」を招待し、社協活動の周知・普及に努めた。なお、昨年の促進活動も継続して実施した。	A	・各自治会等の状況に合わせながら、担い手の確保を含めて、必要な事業を構築していく必要がある。  ・新興住宅地や新興マンションに対し、地域活動の必要性や参画について理解の促進を図る必要がある。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	見守り実施自治会を新規に1ヶ所増設する。	稲毛海岸4丁目自治会において今年度中の活動実施までは至らなかったが、「食事サービスの会食」を今年度より開催し見守り活動の本格実施に向け、検討を進める。	B	
	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	独居で外出できない、しづらい人の現状把握とサロン参加を促す声かけを行う。	地域カフェ(カフェさいわい)、体操教室、3サロン合同ポッチャ交流会を実施し、他のサロン参加者との交流を深めたり、サロン参加への呼びかけをしたりした。	A	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	美浜区安心カード等の説明や緊急通報装置(千葉市・URの違い)の利用説明会を実施する。	昨年同様、連携会議や各種会議において「あんしんカード」「緊急通報システム」の活用について説明を行い、住民への周知を実施した。	A	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	アンケートを基にした実施計画の策定	支え合い作業部会及び実行委員会を発足。来年度の活動開始を目指す。なお、2月中旬に「住民説明会」を開催し、住民への理解とサポーター(協力員)のメンバー募集を行う。	A	
	⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2,5	認知症徘徊模擬訓練を実施する。 ・近隣中学校生徒や、近隣スーパー、コンビニも含んで対象とした検討・調整	年度目標では、訓練を計画実施することとしていたが、今後、隔年で実施することで計画する。	A	
	⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	認知症カフェの設置 ・2丁目連携会議において検討	「しょうじゅ美浜」においてカフェを開設した。認知症の方と限定することなく地域住民の多くの方が立ち寄れる交流の場としていきたい。	S	
⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	地域連携会議の実施 ・参加依頼する医療機関を検討	今年度、近隣医療機関へ呼びかけを行ったが、新規参加には至らなかった。今後も引き続き参加を呼びかける。	B		
<b>幸町2丁目地区部会エリア</b>  【人口・世帯数】 12,455人 6,580世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 29.5% 【地域の特徴】  東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	独居で外出できない、しづらい人の現状把握とサロン参加を促す声かけを行う。	地域カフェ(カフェさいわい)、体操教室、3サロン合同ポッチャ交流会を実施し、他のサロン参加者との交流を深めたり、サロン参加への呼びかけをしたりした。	A	・地域住民を対象に地域カフェを活用した「認知症サポーター養成講座」等の開催について検討する必要がある。  ・拠点確保について、引き続き千葉市等と小学校の跡地利用も含めて、協議を進める必要がある。  ・アンケート結果を参考にしながら、地域で実現可能な支援について検討していく必要がある。  ・「美浜区支え合いのまち推進計画」と「幸町2丁目安心居住プラン」との整合を図る必要がある。
③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	美浜区安心カード等の説明や緊急通報装置(千葉市・URの違い)の利用説明会を実施する。	昨年同様、連携会議や各種会議において「あんしんカード」「緊急通報システム」の活用について説明を行い、住民への周知を実施した。	A		
③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	アンケートを基にした実施計画の策定	支え合い作業部会及び実行委員会を発足。来年度の活動開始を目指す。なお、2月中旬に「住民説明会」を開催し、住民への理解とサポーター(協力員)のメンバー募集を行う。	A		
⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2,5	認知症徘徊模擬訓練を実施する。 ・近隣中学校生徒や、近隣スーパー、コンビニも含んで対象とした検討・調整	年度目標では、訓練を計画実施することとしていたが、今後、隔年で実施することで計画する。	A		
⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	認知症カフェの設置 ・2丁目連携会議において検討	「しょうじゅ美浜」においてカフェを開設した。認知症の方と限定することなく地域住民の多くの方が立ち寄れる交流の場としていきたい。	S		
⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	地域連携会議の実施 ・参加依頼する医療機関を検討	今年度、近隣医療機関へ呼びかけを行ったが、新規参加には至らなかった。今後も引き続き参加を呼びかける。	B		

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>幸町一丁目地区部会エリア</b>  【人口・世帯数】 8,621人 3,941世帯  【町内自治会数】 19町内自治会  【高齢化率】 25.9%  【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。東端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	コミュニティ委員会や安心サポートの会の会議に地区部会として引き続き参加し「仲間作り」を支援する。	「地域支え合い型通所支援開設準備会」を設立し、来年度からの実施を目指し、地区部会主催サロンと合わせて、新規事業による住民の交流の場の拡大を図る。	A	・引き続き「幸町1丁目ふれあい交流館」を活用した、地域課題に合致した事業を検討する必要がある。  ・地域包括ケアシステム構築に係わる地域の役割について協議・検討を進める必要がある。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	サテライトのふれあい食事会実施会場増設 ・主会場:1か所 ・サテライト会場:1か所	サテライトのふれあい食事会実施会場増設 ・主会場:1か所 ・サテライト会場:2か所	S	
	②① 支え合い意識の醸成	8	福祉施設・団体と連携し、新たな担い手を発掘するようなボランティア講座を検討する。	「新たな担い手の発掘」と「住民にできるだけ外出の機会を提供」することを目的にボランティア講座を4回開催している。なお、高齢者対象のみならず、児童母子対象の講座も盛り込んでいる。	A	
<b>高洲・高浜地区部会エリア</b>  【人口・世帯数】 39,035人 19,013世帯  【町内自治会数】 29町内自治会  【高齢化率】 30.0%  【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	サロン開催されていない地域でのニーズ調査をかねたボランティア講座を実施する。	定期的なサロン開催には至らなかったが、地区部会と高洲CCの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」を実施した。また、「こどもフェスタ」や「ネイチャーゲーム」を引き続き開催していく。	B	・様々な機会を活用し、イベントへの参加者を広く募る必要がある。  ・次年度も継続して、「認知症サポーター養成講座」、「地域資源を活用した高齢者向け講座」を開催していく必要がある。  ・地域資源の活用について、引き続き各自治会等と連携・調整する必要がある。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	認知症サポーター養成講座の開催 ・開催の検討・調整	地区部会と高洲CCの共催による「認知症講座」を実施した。	A	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	孤立死ゼロに向け、関係者が集まる会議等において、働きかけを行い、取り組み内容や仕組みを確立する。	高洲第二団地に介護相談室隣接のコンビニが11月オープンした。オープンに先駆け、6月に関係者会議を開催し、交流スペースの活用や定期イベントの開催協議を行った。	A	
	②② ボランティア人材の育成	7	ボランティア講座を年3回実施する。地区部会を知ってもらい、ボランティア活動について理解と関心を深める講座を検討する。	地区部会と高洲CCの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」を実施し、認知症サポーターの養成や助け合い活動の担い手の必要性について周知を図った。	A	

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>真砂地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 24,683人、11,840世帯 【町内自治会数】 32町内自治会 【高齢化率】 31.4% 【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホールの複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7,9	協力員の充実化及び実行委員会の体制強化の検討	「ささえあい まさご」の協力員と地区部会ボランティア委員会を連動させて充実化を図ろうと試みていたが、検討までに留まった。	B	・引きこもりがちな高齢者(独居・夫婦)に対し、様々な機会や場所を活用し、様々な方法の情報提供をしながら、いきいきサロン等への参加を促す必要がある。 ・「ささえあいまさご」の増加する依頼に対応するため、様々な方法により協力員の確保と研修等による資質向上(スキルアップ)を図る必要がある。 ・「ささえあいまさご」では、対応しきれないケースも増加しているため、民間事業所等の専門機関や他の社会資源を把握し、連携・活用していく必要がある。
	⑬ 誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	10	各団体の活動やイベントなどの情報を充実させ、新しい情報を住民に速やかに提供できるようさらに努めていく。	ホームページの活用・広報紙・チラシ等の媒体により、地域住民に広く情報提供ができた。	A	
	⑯ 地域と連携した支援の推進【新規】	2,9	関係機関との連携による問題を未然に防止するような取組みの検討や課題解決に向けた取組みの実施及び、真砂地区部会エリア全域を対象とした地域ケア会議の検討。	真砂地区部会エリアを対象とした地域ケア会議において問題を未然に防止するための検討を行った。また美浜区第1回協議体での会議内容を報告し、課題を共有した。	A	
<b>磯辺地区部会エリア</b> 【人口・世帯数】 18,085人、7,669世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 36.7% 【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前まで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7,9	27自治会中12自治会の実施	27自治会中10自治会が支え合い活動を実施。現在も役員会にて検討中の未実施の自治会や、今後実施すべきを検討している自治会に対して、実施に向けて粘り強く説明を行っている。	A	・見守り希望者、軽微で一時的な家事援助・外出支援等希望者について、地域のあらゆる資源や機会を活用し掘り起こす必要がある。 ・地域ルームでは様々な団体が活動していることから、未設置地区の自治会・集合住宅の集会所等でのサロン、茶話会等の設置について、担い手の確保、他団体との連携も含めて検討する必要がある。
	⑫ 健康づくりイベント等への参加促進	5	1 健康づくり教室 自治会集会所 20箇所 2 健康づくりイベント 磯辺スポーツセンターでのイベント開催に向けた検討	1 健康づくり教室 自治会集会所20箇所で開催 (地域の子どもから高齢者まで、老若男女が参加) 2 健康づくりイベント スポーツ振興会が主催する磯辺地区全体を対象とした運動会(バドミントン、卓球、野球等)を実施した。	S	
	⑳ 支え合い意識の醸成	8	福祉施設・団体と連携したボランティア講座の検討(11月頃 開催予定)	第33地区連協と第608地区民児協との共催で11月16日にボランティア講座「語り合おう エンド・オブ・ライフケア」を開催。終活から高齢問題・地域課題、さらに地域活動参加へと紹介を行い理解を深めた。	A	
	㉑ 支え合い意識の醸成	8	継続して実施するとともに、新たなメニューの検討。 (9月頃:磯辺中(福祉体験)) (10月頃:磯辺三小(障害者)) (11月頃:磯辺小(高齢者))	・磯辺第三小学校児童と地域の高齢者(約150人)との交流を図った。 ・磯辺小学校児童と障害者との交流を図った。	S	
	㉒ 支え合い意識の醸成	8	福祉施設・団体と連携したボランティア講座の検討(11月頃 開催予定)	第33地区連協と第608地区民児協との共催で11月16日にボランティア講座「語り合おう エンド・オブ・ライフケア」を開催。終活から高齢問題・地域課題、さらに地域活動参加へと紹介を行い理解を深めた。	A	

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和元年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり  
 4 ことごと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み  
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり  
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】  
 S:目標を上回った。  
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)  
 B:一部目標を達成した。(5~7割)  
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和元年度の目標	令和元年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
<b>幕張西地区部会エリア</b>	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	新たに1自治会の見守り活動開始(13/15自治会)	新たに1自治会で見守り活動開始(13/15自治会)	A	・見守り活動の未実施自治会への働きかけを行っていく必要がある。 ・見守り活動がスタートした自治会やコーディネーター、協力員等の支援として、情報交換の機会を充実させる必要がある。
【人口・世帯数】	⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9	地区内の地域資源(自治会・老人クラブ・見守り散歩クラブ)の情報収集を行い、集会所等を利用したサロンの開設(1ヶ所)	幕張西地区内では、老人クラブの活動が活発で老人クラブ主催のサロンを含めサロン実施箇所は充足されている。利用者の分散化を避けるため、当面は現状維持のまま実施することとした。	B	
12,133人、4,837世帯						
【町内自治会数】	⑫ ボランティア人材の育成	7	年3回実施 ボランティア活動について理解と関心を深める講座の実施 エンディングノート(終活)事業の立上げ・実施(若い世代を対象とした終活から地域課題の発見と地域福祉活動参加へのきっかけづくり)	8月、12月、2月にボランティア講座を行い、地区部会の活動を紹介することにより、地域のボランティア活動についての理解を深めた。講座参加者の中から調理ボランティアへとつなげることができた。 また、新たな担い手を発掘するため、若い世代を巻き込めるような新しいボランティア講座を検討した。	A	
15町内自治会						
【高齢化率】	区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。					
19.8%						
【地域の特徴】						
<b>打瀬地区部会エリア</b>	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	継続して安心カードの普及に努める。	民生委員の協力もあり、安心カードが浸透してきており、引き続き普及に努めたい。	A	・自治会によって地域活動への参画について大きな温度差があるため、地域福祉活動の連携・広がり難しい状況にある。引き続き、地域活動の必要性、参画について理解促進を図る必要がある。 ・児童・生徒の福祉やボランティア活動に関する意識を高めるため、地域が協力した福祉教育をさらに推進する必要がある。 ・地域福祉活動を継続するためには、担い手の確保が重要。現在のボランティアの次の世代である団塊の世代や、女性のボランティアの確保に向けた具体的な方法を検討する必要がある。 ・本計画の重点取組項目について、地区部会が主体となる項目と、地域運営委員会が主体となる項目をすみ分けつつ、連携・協力していく必要がある。
【人口・世帯数】	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	・災害時の見守り体制構築及び在宅支援策の理解を図る。 ・継続して啓発活動を行う。	自治会役員・管理組合役員と懇談を行い、引き続き、街区への啓発活動を行った。 また、社協 地区部会活動の紹介を行い、地域福祉活動への理解と社協会員募集の案内を行った。	A	
25,643人、9,073世帯						
【町内自治会数】	⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9	街区の集会所を拠点としたサロンの充実	美浜区が東京オリンピック・パラリンピックの会場になることから開催地としてのおもてなしの一環として、折り鶴を選手村に持参するプロジェクトを公民館と共催で企画し、サロン等で製作した。	A	
24町内自治会						
【高齢化率】	⑮ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	地域運営委員会において、地域課題を認識する。	地域運営委員会定例会において、地域課題の共有を図った。	B	
8.6%						
【地域の特徴】	⑮ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	ベイトウンからふえの内容について協議 認知症の家族の会「そよかぜの会」を地区部会として、立上げ・実施予定	地区部会内に認知症福祉委員会を発足させ、認知症の家族の会「そよかぜの会」を立上げ、認知症についての理解促進・認知症予防・家族への支援を主な目的として、地域住民や認知症患者とその家族の交流の場を設けた。	A	
東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。 他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。 中心部には図書館と公民館の複合施設である「ベイトウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ベイトウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。 平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。						